

事項五 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

(編注) 本項については、事項六および事項八にも関連文書が収載されている。

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

- 1 昭和6年9月25日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)
- 東北辺防軍司令長官公署および遼寧省政府
錦州移転について
- 北平 9月25日後発
本省 9月26日前着
- 第四五三号
- 張學良ハ二十三日付電報ヲ以テ東北辺防司令長官公署及遼寧省政府ハ職權ノ行使不可能トナレルニ付当分錦州ニ移転スルコトトセル旨各方面ニ通告セリ
- 支、南京、奉天、牛莊ヘ転電セリ
- 2 昭和6年9月29日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)
- 錦州臨時政府の要人の動静および同地区の治
安維持のため中国軍の移駐について
- 北平 9月25日後発
本省 9月26日前着
- 第三六〇号
- 往電第三五五号ニ閲シ
- 米春霖以下政府委員ハ朱光沐同伴二十八日錦州ニ向ヘリ尚右臨時政府並北寧鉄道保護及地方ノ治安維持ノ為朝陽熱河ニ駐防セル一旅錦州ニ移駐スル趣ナリ
- 支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
- 3 昭和6年9月30日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)
- 日本軍飛行機の列車攻撃に関する北平外交檔
案処よりの書翰について
- 北平 9月30日後発
本省 9月30日前着
- 4 昭和6年9月30日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)
- 日本軍飛行機の列車攻撃事件措置に関する首
席公使との会談について
- 北平 9月30日後発
本省 9月30日前着
- 第二十九日首席公使ヨリ回章(「インディビデュアル」)ヲ以
テ二十六日付同公使宛北平外交檔案處來翰写ヲ回付シ来レ
リ右書翰ノ要領左ノ通
- 二十五日北寧鉄路局ヨリ日本軍飛行機ハ(一)二十四日第一〇
二号列車ヲ興隆店付近ニ於テ機関銃ニテ攻撃シ乗客中死者
二、傷者五ヲ生セシメ(二)二十五日 Tunggyang-ho 付近ニテ
第一〇五号列車ニ爆弾二個ヲ投下シタル上數駅間追跡シ(三)
又同日白旗堡付近ニ於テ機関銃ヲ發射セル事實アリ右ノ如
キ日軍飛行機ノ行為ハ人道ヲ無視シ欧亜連絡交通ヲ危険ナ
ラシムモノナルニ付之ヲ外交團ニ通告シ日本側過激ナル
行動ヲ制限スル為措置ヲ執ラレンコトヲ望ム旨電報シ来レ
リ就テハ外交團首席ニ於テ右措置ヲ執ラレンコトヲ要求ス
云々
- 大臣、支、天津へ転電セリ
- 往電第三五五号ニ閲シ
- 三十日首席公使ヲ往訪シ本件ニ付テハ目下本国政府ニ於テ
當該官憲ニ訓令シ真相調査中ナルニ付本官ヨリ情報ヲ供給
スル迄ハ外交團トシテ何等措置ヲ講セラレサル様願度シト
申入レタル処同公使ハ之ヲ快諾シ日本側情報ヲ得次第回覧
ニ付シ度キニ付成ルヘク速ニ供給セラレタシ本件ニ付テハ
他ノ外国人ヨリモ同様聞込メルモ自分ハ是等ハ何レモ出所
同一ラシク恐ラク支那側ノ宣伝ナルヘシト思考シ居ルニ付
害スルノ意ナキヲ明カニセラレンコトヲ希望ス自分差当リ
ノ考トシテハ日本側ヨリ其真正ナル態度ヲ表明スル情報ヲ
得レハ右ヲ回覧ニ付スル以外何等措置ノ要ナシト思考スト

語リ尚本官ヨリ本件ニ関シ他ノ外国公使ト内談セシコトアリヤト問ヘルニ未タ何レトモ相談セシコトナシト答ヘタリヤ支、奉天、天津ニ転電セリ

セリ当時飛行機ヨリハ西行ノ列車ヲ見タルモ射撃ノ方向ト列車ノ方向トカ平行シ居ラサリシニヨリ大丈夫ト思ヒ応射シタルモノナル處多數支那避難民ハ列車ノ屋根ニ座乗シ居リタルヲ以テ或ハ流弾カ中リタルコトアルヤモ知レス

5 昭和6年10月1日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍飛行機の北寧線列車に対する爆弾投下
に関する調査結果について

奉天 10月1日前發
本省 10月1日前着

第八二〇号

我軍飛行機ヨリ北寧線列車ニ爆弾ヲ投下シ又ハ機関銃ヲ發射シテ支那避難民ニ死傷者ヲ出シタル旨ノ報道伝ハリ居ル

處我軍側ニ於テハ飛行機ニ付嚴重取調ノ結果ニ依レハ

一、事件発生以来北寧線列車ニ爆弾ヲ投下シタルコト全然ナシ

二、二十四日我軍飛行機新民府矣鰐駆西方地区ニ於テ敵状視察中瀋河崗子(Shen-ho-kang-tzu)北方約五百米突ノ

部落ヨリ敵兵約三十名ノ射撃ヲ受ケタルニ付我飛行機ハ

機関銃ニテ応射セルモ約十発發射後故障ノ為射撃ヲ中止

て

遼陽 10月1日後發
本省 10月1日後着

第二八号(暗)

十月一日午後楊県長本官ヲ來訪シ左ノ通内話セリ

九月二十八日付ニテ錦県ヨリ县政府宛遼寧省政府ノ名

(省政府ノ官印押捺)ヲ以テ錦県ニ省政府ヲ開設シタル旨並ニ財政府ノ名(財政府ノ官印押捺)ヲ以テ該県ニ財政府ヲ開設シタルニ付爾今公金ハ同地宛送付スヘキ旨示達ニ接シタルカ自分(県長)ハ時局柄何人ヨリノ示達ナルヤ真相不明ニ付單ニ右文書ヲ受理シ置クニ止メタリ何等御参考迄奉天ニ転電セリ

7 昭和6年10月2日

三宅関東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛(電報)

錦州の遼寧省政府および辺防軍司令長官公署
の内情について

10月2日前11時0分発
10月2日後1時40分着

関参第六一〇号

起シタルタメニ直ニ臨川(錦州西方)ニ隠退セントシ学良ニ辞表ヲ出セル由ナリ然レトモ作相ハ度数ハ少キモ今尙ホ残存軍閥ト連絡シツツアリ

8 昭和6年10月6日

三宅関東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛(電報)

錦州政府および王以哲軍の対日行動について

10月6日後2時40分着
10月6日後6時38分着

関電六一一

諸情報ヲ綜合スルニ錦州ノ遼寧省政府及辺防軍司令官公署

行處ハ殆ント有名無実ニシテ省政府行營要人ハ未タ北平ニ

在リテ就任セス辺防軍司令官公署要人モ亦同様ナルカ如シ

尚ホ張作相ハ事変前ヨリ学良ニ対シ切りニ闕内東北軍ノ撤退ヲ勧メツツアリテ学良ニ容レラレス遂ニ今回ノ事変ヲ惹

二、王以哲ノ率キル敗殘兵約二千ハ日本人ノ掠奪慘殺等アラユル暴虐ヲ逞クシツツ十月三日鐵嶺南方約五里ニ在乱石山村近ニ於テ満鉄ヲ横断シ西方ニ向ツテ移動セリ彼等ハ錦州ニ於ケル張學良ノ軍ト合シ飽クマテモ日本軍ニ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

残軍ノ行動ヲ偵察シ之カ妨害ヲ企図シツツアルモ敵ハ屢々地上射撃ヲ加ヘタリ

北平、天津、朝鮮、濟南、上海、哈市、第二師スミ

9 昭和6年10月7日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

遼寧省政府の錦州移転に関する通知について

第八八九号(暗)
奉天 10月7日後発
本省 10月7日後着

七日英米両総領事ノ談ニ依レハ当地各國領事ハ錦州発十月一日付公文ヲ以テ省政府ハ日本軍ノ省城占領ノ為九月二十八日錦州ニ移転セル旨ノ通知ヲ受ケタル趣ナルカ當館へハ何等申越ナシ

支、北平、南京、天津へ転電セリ

10 昭和6年10月8日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

錦州へ出動の日本軍飛行機の中國軍隊爆撃について

奉天 10月8日後発

八日午後二時我カ飛行隊ハ狀況偵察ノ目的ヲ以テ北寧線錦州ニ飛行シタルニ地上射撃ヲ受ケタルニ依リ支那軍隊ヲ爆撃シ多少ノ損害ヲ与ヘタルカ如キ処軍側ノ説明ニ依レハ元北大營駐劄ノ王以哲ノ敗殘軍漸次錦州方面ニ向ヒツツアリ既ニ錦州ニ到着セルモノアルカ如ク他方錦州ニ策源地ヲ設定セル張學良、張作相ノ軍憲ハ最近多數ノ便衣隊及譲者ヲ放チ南滿沿線ノ治安ヲ攪乱スルト共三敗殘ノ軍隊ヲ滿鉄線ノ東西地区ニ集結シ我カ警備力ノ薄弱ナルニ乘シ東西ヨリ挾撃セント欲シツツアルニ依リ狀況偵察ノ目的ヲ以テ軍飛行隊ヲ錦州ニ飛行セシメタルニ地上射撃ヲ蒙レルカ為支那軍隊ヲ爆撃シタルモノナル由

巴里ヨリ在欧各大使公使へ転電アリタシ

在米大使ヨリ市俄古、桑港、紐育、加奈陀へ転電アリタシ

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

米、連盟、支、北平、天津、南京、上海、廣東、香港、漢口、哈爾賓、吉林、青島、濟南へ転電セリ

11 昭和6年10月8日 三宅閑東軍參謀長より
二宮參謀次長宛(電報)

錦州爆撃に関する対外宣伝ぶりについて

10月8日後6時20分発
10月8日後11時5分着

12 昭和6年10月8日 三宅閑東軍參謀長より
二宮參謀次長宛(電報)

東北方面の一般情勢について

10月8日後着

(イ) 関第六四六号(其一、二)
王以哲ノ敗殘兵ハ其後逐次錦州ニ向ヒツツアリ其他ノ潰走軍王既ニ錦州ニ到着セルモノノ如シ一方錦州ニ策源ヲ

設定セル学良、張作相等ノ軍憲ハ最近多數ノ便衣隊譲者ヲ放チテ奉天及滿鉄沿線要地ノ治安ヲ擾乱スルト共三敗殘ノ軍隊ヲ滿鉄東西ノ地区ニ集結シ我カ警備力ノ薄弱ナルニ乘シ東西ヨリ狭撃セント企図シツツアリ軍ハ錦州ニ

於ケル残軍並之等軍憲策動ノ情況ヲ偵察スル目的ヲ以テ軍飛行隊ヲ以テ該地上空ヲ飛行セシメタルニ敵軍ノ地上射撃ヲ蒙ルニ至ル仍テ飛行隊ハ八日午后二時前后同地支那軍隊ヲ爆撃シ多少ノ損害ヲ与ヘタルモノノ如シ本件ハ對外宣伝ニ当リ極力我カ行動ノ合理的ナリシヲ力説セラレ度シ為念

北平、天津、朝鮮、濟南、上海、哈市、南京、廣東、漢口スミ

第九〇五号(暗、至急)

本省 10月8日後着

二、邊防軍司令長官代理張作相ハ張學良ノ命令ヲ奉シ吉黒

兩省ノ首脳者ト連絡ニ努メ遼寧省ノ各軍ヲ遼河以西特ニ

錦州付近ニ次ノ如ク集結セリ

第十二旅、砲兵第八旅錦州、第十九旅黑山、打虎山、溝

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

14 昭和6年10月9日 在北平矢野参事官より

幣原外務大臣宛（電報）

錦州爆撃被害に関する北平諸新聞報道について

反シ安民ヲ害スル陰謀ノ根拠覆滅シアル旨ノ宣伝「ビラ」
携行）奉天発 八日

午前八時我軍飛行機十錦州仮政府擊破ノ為（目的ハ民意ニ
在奉天久保田武官により
小林海軍次官他宛（電報））

日本軍飛行機の錦州向け出動について
（編注）本電報は、小林海軍次官のほかに「次長、一、二
第二番電

シ国交恢復ヲ逼リ鉄道ノ実権ヲ握ラントスルニ在ルカ如
シ、但場合ニ依リ東支沿線赤軍出動ノ事無キヲ保シ難ク
東北一般支那人ハ概ネ我軍ノ治安下ニ在ルヲ喜ヒ且閑
内ニ張学良ト絶縁セル親日新政權ノ速カナル樹立ヲ熱望
シアルモ張学良ノ宣伝ハ便衣隊ノ策動、土匪ノ横行ニ依
リ未タ不安ヲ完全ニ一掃スルヲ得ス
北平、天津、朝鮮、上海、哈市スミ

13 昭和6年10月8日 在奉天久保田武官により
小林海軍次官他宛（電報）

支、南京、天津、奉天、牛莊、張家口、赤峰へ転電セリ

シ国交恢復ヲ逼リ鉄道ノ実権ヲ握ラントスルニ在ルカ如
シ、但場合ニ依リ東支沿線赤軍出動ノ事無キヲ保シ難ク
東北一般支那人ハ概ネ我軍ノ治安下ニ在ルヲ喜ヒ且閑
内ニ張学良ト絶縁セル親日新政權ノ速カナル樹立ヲ熱望
シアルモ張学良ノ宣伝ハ便衣隊ノ策動、土匪ノ横行ニ依
リ未タ不安ヲ完全ニ一掃スルヲ得ス
北平、天津、朝鮮、上海、哈市スミ

第五一七号（暗）
北平 10月9日後発
本省 10月10日前着

八日夜湯爾和ヨリ遼寧省政府ノ報告ニ依レハ八日午後二時
日本飛行機十二台錦州ニ飛来シ爆弾三十六個ヲ投下シタル
趣ニ付不敢通知スル旨電話アリ尚本件ニ関シ九日ノ各紙
ハ日軍飛行機十六台錦州ヲ襲撃爆弾三十六発ヲ投下シ死者
十六名負傷者無数ヲ出シタルカ省政府主席米春霖及委員張
振鷺ハ生死不明ニテ又交通大学露人教授一名慘死セル旨報
道シ居レリ

ツアリ但シ第二十六旅長刑占清ハ今尚作相ト連絡ス
五、逃遼鎮守使張海鵬ハ自ラ辺境保安司令ニ就任シ屯墾軍
ヲ懷柔シテ独立ヲ宣シ色々ノロ実ヲ設ケテ黒龍江省ニ入
及砲兵第二十團主力ヲ齋齊哈爾ニ集中中ニシテ馬占山ヲ
シテ指揮セシメントシツツアリ、尚屯墾軍ヲ黒龍江省ニ
帰属セシメラレタルニ依リ其主力ヲ景星鎮ニ一部ヲ塔子
城ニ移駐セシメツツアリ但屯墾軍ノ真ノ態度不明ナリ
哈市方面極力支那側治安ノ維持ニ努メツツアルモ言論機
関及赤系ノ運動ニ依ル排日思想濃厚ニシテ樂觀ヲ許サス
呼倫貝爾方面蒙古獨立運動説白系「パルチザン」ノ横行
伝ヘラレツツアルモ概ネ平穏ナリ

六、東支鐵道ハ依然車輛ヲ東西両部線ニ集中シアリ寬城子
ニ於ケル車輛數ハ九月二十六日頃ニ比シ稍々増加セルモ
南部線ノ輪軸材料僅少ナリ
而シテ蘇連邦ノ國境増兵ハ確實ニシテ其真意尚測シ難キ
モ宣伝ト相俟テ我軍ノ北上ヲ牽制スル一方支那側ヲ威嚇
シアルモ張學良ノ宣傳ハ便衣隊ノ策動、土匪ノ横行ニ依
リ未タ不安ヲ完全ニ一掃スルヲ得ス
北平、天津、朝鮮、上海、哈市スミ

15 昭和6年10月9日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

錦州爆撃に関するロイター通信の報道ぶりについて

ついて

上海 10月9日後発
本省 10月9日後着

我飛行隊ノ錦州爆撃ハ新聞ニ掲載セラレ一般ニ衝動ヲ与ヘ
第六二〇号（平）

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

- タルカ八日北平発「ルーター」ハ日本飛行隊ノ錦州爆撃ハ九月十九日後以来ノ驚異的事件ナリ北平鉄路局ノ「トムソン」ヨリ張学良宛來電ニ依レハ十二台ヨリ成ル日軍飛行隊ハ八日午後一時過ヨリ一時間十五分ニ亘リ錦州ヲ攻撃シ爆弾三十六個ヲ投下セルカ其攻撃目的物ハ錦州交通大学内ノ遼寧省臨時政府弁公處ナリシカ如ク死傷者等未詳ナルモ一爆弾ハ「サービスカー」ニ命中シ掃除夫二名即死シ機関車亦爆撃セラレタル趣ナルコト東京「ルーター」ニ依レハ右攻撃ハ軍部カ政府ノ意向ニ反シテ行ハレタルカ為東京政府ノ立場ヲ困難ナラシメ内閣辞職ヲ予想セラレツツアルコト又天津來電ニ依レハ錦州ノ爆撃ニ依リ独逸人教授一名遭難セル外死傷十七名ヲ出シタルコト等ヲ報セリ
- 公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、南京へ転電セリ
- 16 昭和6年10月9日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
- 日本軍飛行機の東北辺防軍司令長官公署・省 政府等爆撃について
- | | |
|----|---------|
| 奉天 | 10月9日後発 |
| 本省 | 10月9日後着 |
- 第三八〇号(暗)
- 我方飛行機錦州ヲ爆撃セリトノ報伝ハリ八日夜当地各機關ヨリ頻リニ問合セアリタル處九日外支新聞ハ大活字ヲ以テ日本飛行機十二台八日午後二時半當口ヨリ溝帮子ヲ経テ錦州ニ飛来シ遼寧省政府公署及停車場ヲ目標トシ三十八個ノ爆弾ヲ投下シ家屋及鐵道線路ヲ破壊シ多数ノ死傷者ヲ出セル旨報道シ居レリ右果シテ事実ナリトセハ比較的平穩ナル当方面ヘモ影響アルヘント憂慮セラル
- 支、北平、奉天、南京、漢口へ転報アリタシ
- 17 昭和6年10月9日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)
- 錦州爆撃に関する天津諸新聞の報道について
- | | |
|----|---------|
| 天津 | 10月9日後発 |
| 本省 | 10月9日後着 |
- 第三八〇号(暗)
- 地上射撃ニ妨ケラレ約二〇〇〇米ノ高度ヨリ爆撃セル為命中正確ナラス被害又僅少ナリシカ如シ又交通大学ヲ目標ノ一トセルハ動機カ辺防軍司令長官公署ナリシニ依ル念ノ為
- 19 昭和6年10月9日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)
- 錦州方面飛行偵察の際撒布予定の宣伝文について
- | | |
|----|---------|
| 天津 | 10月9日後発 |
| 本省 | 10月9日後着 |
- 第三八〇号(暗)
- 渾身是レ野心滿腹是レ私利ナル旧東北軍首脳者等ハ錦州ニ潛在シ我治安ノ下ニ安生シツツアル地方ニ迄其陰謀ヲ逞シウシ殊ニ其便衣隊ヲ以テ人民ヲ脅迫シ為ニ東北ニ於ケル日支民衆ニ不安ト動搖ヲ与ヘツツアリ刺へ錦州ニ軍隊ヲ集結
- 18 昭和6年10月9日 三宅閩東軍參謀長より
二宮參謀次長宛(電報) 錦州爆撃の実情について
- | | |
|----|---------|
| 天津 | 10月9日後発 |
| 本省 | 10月9日後着 |
- 第三八〇号(暗)
- 渾身是レ野心滿腹是レ私利ナル旧東北軍首脳者等ハ錦州ニ潛在シ我治安ノ下ニ安生シツツアル地方ニ迄其陰謀ヲ逞シウシ殊ニ其便衣隊ヲ以テ人民ヲ脅迫シ為ニ東北ニ於ケル日支民衆ニ不安ト動搖ヲ与ヘツツアリ刺へ錦州ニ軍隊ヲ集結
- 第九〇八号(暗、至急)
往電第九〇五号ニ關シ
- 錦州へ出動シタル飛行機ハ十一機ニシテ東北辺防軍司令官公署及省政府公署タル交通大学並ニ兵營ニ対シ約八十ノ爆弾ヲ投下セル旨陸軍側ヨリ通報アリタリ
- 尚右爆撃ニ當リ軍ハ停車場及民家ニ対シ損害ヲ与ヘサル様特ニ注意ヲ払ヒタルモ使用飛行機ノ爆弾投下装置不完全ナリシト支那軍ノ地上射撃ニ妨ケラレ約二千米ノ高度ヨリ投下セル為命中ノ正確ヲ期スルヲ得サリシ趣ナリ
- 連盟ヨリ在欧各大公使ヘ在米大使ヨリ市俄古桑港紐育加奈陀ヘ夫々転電アリタシ
- 連盟事務局長、米、支、北平、南京、天津、漢口、廣東、香港、哈爾賓、吉林、青島、濟南へ転電セリ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

スルト共ニ敗残兵ヲ近ク満鉄東西ノ地区ニ糾合シ相呼応シ
テ我軍ヲ挾撃セントス此ニ於テ我軍ハ自衛的行動ニ出テ禍
根ヲ防遏スルノ已ムナキニ至レルモ正義人道ノ擁護ト民衆
保護ニ専念シツツアル我軍ハ善良ナル一般民衆ニ危害ヲ加

フルモノニ非ス市民夫レ能ク之ヲ省察セヨ

昭和六年十月

20 昭和6年10月9日 三宅閩東軍參謀長より
二宮參謀次長宛（電報）

錦州の中国軍兵力に関する情報について

10月9日前後着

関第六七六号（秘）

八日錦州ヨリ奉天へ避難セル支那人（日本人ノ使用セルモノ）ノノ談

一、錦州ニハ目下約三万ノ兵力集中シアリ尚列車ニ依リ関内ヨリ輸送中（関外ヨリ逃走セルモノノ還送ナリト判断ス）

二、一般ニ日本ト一戦ヲ期ストノ風説盛ニシテ錦州付近ニ

塹壕堀開中第七旅ノ敗残兵ハ第十二旅ニ合併セラレアル

カ如シ

三、市内ノ日本人財産ニハ手ヲ触レアラス
北平、天津、哈市スミ

21 昭和6年10月10日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

錦州爆撃に関するロイター通信、デイリー・ニュース紙の論調について

上海 10月10日後発
本省 10月10日後着

第六二九号
〔五文書〕
往電第六二〇号ニ關シ

錦州発「ルータ」ハ日本飛行隊錦州爆撃ノ結果死者十六名（大部分ハ鉄道工人）負傷者九名（中ニ交通大学露人教授一名ヲ含ム）ヲ出シタルカ爆撃機ノ目標タリシ臨時省政府職員中ニハ死傷者皆無ナリ「ルータ」特派員ノ実地視察ニ依レハ爆弾ハ無線電台三三個東門外人家稠密ノ区域ニ四個省政府二十個炸裂シ居タリ本電打電ニ際シ更ニ日本飛行機三十台襲来スルヤノ説アリ尚遼寧省政府ハ同地ニ於テ職務ヲ継続シ居レルカ本件ニ關シ中央政府ニ電請ナル旨ヲ

報シ又九日東京発「ルータ」ハ錦州攻撃ハ軍事的必要ノ見地ヨリ諒解シ得レ共外国人間ニハ右ハ日本政府ヲ困難ナル地位ニ陥ルモノナリトノ觀察行ハレ居レリ
(2) 官辺ニテハ外國ニ於ケル反響ヲ憂慮シ居ル事明カナルモ成ルヘク之ヲ隠ス事ニ務メ錦州攻撃カ避クヘカラサルモノナリトノ説明ニ満足シ居ルカ如ク装ヒツツアル旨報道シ居リ
右ニ關シ十日ノ「デイリー・ニュース」ハ從來ニ無キ強キ論調ニテ満州ニ於ケル日本軍ハ暴レ狂ヒツツアルカ如ク九月十八日ノ事件カ内閣ノ承認ヲ得スシテ為サレタル事ハ今回ノ全然不必要ナル錦州攻撃ニ依リ愈明白ニナレルカ満州事件急速解決ノ望ハ此ノ舉ニ依リ悲シクモ破壊セラレタリ日本ハ支那ニ宣戰ヲ布告シ居ラス又事實上戦争状態ニアリト云フ事ヲ得ス仮令戦争状態ニアリトスルモ錦州ノ如キ都市ヲ爆撃スルノ必要ヲ想像シ得ス外国人觀察者ノ意見ハ支那側ニ於テ中央並ニ地方トモ驚クヘキ自制ヲ示シツツアリトスルニ一致シ居リ錦州事件ハ此時勢ヲ極度ニ試スモノナルカ政府ハ宜シク民衆ヲシテ冷静ナル態度ヲ維持セシメテ四日ニハ連盟ニ対シ強ク且ツ理由アル抗議ヲ提出スヘキナ

22 昭和6年10月10日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

山海關への兵力移駐差控えを中國側へ申入れ
について

天津 10月10日後発
本省 10月10日後着

第三八四号（暗）

本官発北平宛電報第二九号

錦州攻撃ノ結果支那側ニ於テハ臨時遼寧省政府ヲ山海關ニ移シ且錦州及溝帮子等ニ在ル軍隊ヲ總テ同地ニ集結セシム

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

<p>26 昭和6年10月11日 三宅閩東軍參謀長より 杉山陸軍次官宛(電報)</p> <p>錦州付近中國軍の軍事行動について</p>	<p>ルト共ニ当方面ヨリモ増援ヲ派スヘシトノ相当確ナル聞込 アリシヲ以テ十日午後王樹常ニ會見シ我軍隊ノ駐屯セル山 海閥内ニ大部隊ヲ移駐スルトキハ不慮ノ衝突ヲ招ク虞アル ニ付右様ノコトナキ様セラレタキ旨申入レタル処王ハ自分 ノ部隊ハ絶対ニ即カスコトナシ山海閥及閥外ノ分ニ付テハ 副司令部行營ノ直轄ナルニ付御來意ノ次第ハ一応轉達ハス ヘキモ貴方ヨリ直接申入レラレタントノコトナリ萬一山海 閥ニ於テ衝突アラハ事由如何ニ拘ラス當地駐屯軍ニ於テ直 ニ積極的行動ニ出ツル危険アルニ付テハ至急副司令部へ然 ルヘク申入レアル様致シタシ</p> <p>大臣、支、奉天へ転電セリ</p>
<p>23 昭和6年10月10日 在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)</p> <p>錦州爆撃に対する錦州県知事の抗議について</p>	<p>第三八六号(暗)</p> <p>天津 10月10日後発 本省 10月11日前着</p> <p>第三八七号</p> <p>天津 10月11日前発 本省 10月11日後着</p> <p>第三八七号</p> <p>天津 10月11日前発 本省 10月11日後着</p> <p>第三八七号</p> <p>天津 10月11日前発 本省 10月11日後着</p>
<p>24 昭和6年10月11日 在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)</p> <p>錦州県知事より内外人の生命の安全保証方來 電について</p>	<p>ノ電囑ニ依リ奉天迄護送シ好誼ヲ尽シタリ然ルニ八日午後 二時貴國飛行機十二台ハ約一時間ニ亘リ当地ヲ爆撃シ死者 十六、重傷十二、輕傷多数ヲ出シ又停車場及機關車郵便車 各一輛並ニ電線及民家ヲ破壊セリ查スルニ國際交渉ニハ自 ラ正當ナル解決方法アリ又連盟ノ決議ニ依リ貴國軍ハ方ニ 撤兵スヘキ時ニ当リ斯ル慘状ヲ演シタルハ甚タ遺憾ナリ就 テハ軍事當局ニ對シ再ヒ爆弾ヲ投下セシメナル様配慮アリ タシ</p> <p>公使、北平、奉天、牛莊へ転電セリ</p>

千ノ大兵ニシテ錦州ヨリ励子窩堡ノ間ノ兵力二万五千ヲ下ラス加フルニ湯玉麟ノ独立第一騎兵旅ノ一部約一千八十万

三日迄ニ北寧線西部線ニ到着シ昌黎灤州一帯ニ分屯シ之等

ノ部隊カ或ハ工事ヲ施シ或ハ戦備ヲ整ヘツツアリシコト確

実ナリ我カ飛行機爆撃後ニ於ケル同地情況ニ閲シ右支那人ノ見タル所次ノ如シ

一、市中各所ノ穀物倉庫三分屯セル軍隊及官吏ハ恐レテ逃

ケ去リ市中ノ商人ハ皆閉店シ人心恐怖セルモノノ如シ又

城内モ今後再ヒ爆撃セラレサルヤヲ憂ヘ富豪ハ続々平津

方面ニ避難シ始メタリ

二、爆弾ハ軍司令長官公署ノアル天泰棧ノ傍ニ及遼寧臨時

政府ノアル交通大学ノ構内ニ落チ兵卒一名其他十五、六名ノ死者及二十四、五名ノ負傷者アリ但軍隊方面ノモノハ相当アルヘキモ不明ナリ

三、東北当局ハ錦州ノ政府及各官公署ハ当分之ヲ拡張セス其儘之ヲ同地ニ存在セシムルヤ知レサルモ一方同地市民ノ間ニハ之カ撤退ヲ強要スルノ空氣セ釀サレツツアリ

尚「ロイテル」通信員ハ八日夜奉天發錦州ニ向ヒ出発セシカ彼自身ノ実地調査トシテ各方面ニ通信セル所次ノ如シ

日本飛行機ハ低空飛行ヲナシ爆撃セシカ交通大学二十

個、東門近傍ニ二十四箇、「ステーション」付近ニ三箇

ノ大穴ヲ残シアリト

関東、天津、上海済ミ

錦州爆撃調査のため英國大使館員北平出発について

北平第一一號（秘）

錦州爆撃ニ閲シ英國大使館ハ調査員ヲ九日出発セシメントセシモ都合ニヨリ十日朝北平ヲ出発セリ其一行ハ大使館三等書記官スタークリング通訳官スコット少佐フレイザーノ三人ナリ

尚「ロイテル」通信員ハ八日夜奉天發錦州ニ向ヒ出発セシカ彼自身ノ実地調査トシテ各方面ニ通信セル所次ノ如シ

日本飛行機ハ低空飛行ヲナシ爆撃セシカ交通大学二十

個、東門近傍ニ二十四箇、「ステーション」付近ニ三箇

ノ大穴ヲ残シアリト

10月11日前発
10月11日後着

錦州へ撒布のビラについて

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

30 昭和6年10月12日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

支、南京、奉天、天津、牛莊ニ転電セリ

議全然ナキ旨語レリ為念

最近遼寧省政府ノ山海關移転説行ハルルニ付為念東北首腦部ニ確メタル處同政府ハ依然錦州ニ存置シ山海關移転等ノ

第五二八号（暗）

遼寧省政府の山海關移転説について

29 昭和6年10月12日

在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

錦州爆撃ニ閑スル損害ハ死者十九人（内蘇人教授ヲ含ム）負傷者同シク十九名城内物質的損害ハ僅少ナリト（右ハ公使館調査委員ノ報告ナルヤ否ヤ未タ不明ナルモ取敢ヘス）

英武官ヨリ通報

北電一三（秘）

10月11日後着

第九四〇号（暗）

軍側ヨリノ通報ニ依レハ我軍飛行機ハ十一日正午頃錦州ニ於テ「旧東北軍憲首腦者等ハ錦州ニ潛在シ我治安ノ下ニ安靜シツツアル地方ニ迄陰謀ヲ逞フシ殊ニ便衣隊ヲ以テ紳民ヲ強迫シ為ニ在東北日支民衆ニ不安ト動搖ヲ与ヘツツアリ

剩ヘ錦州ニ軍隊ヲ集結スルト共ニ敗兵ヲ近ク滿鉄東西ノ地区ニ糾合シ相呼応シテ我軍ヲ挾撃セントスルニ依リ我軍ハ自衛的行動ニ出テ禍根ヲ防圧スルノ已ムナキニ至レルモ正義人道擁護ト民衆ノ保護ニ専念スル我軍ハ善良ナル一般民衆ニ危害ヲ加フルモノニ非ス市民宜シク省察セヨ」トノ

「ビラ」ヲ撒布セリ尚前回ノ「ビラ」ハ取止メタル由支、北平、南京、天津、牛莊ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

31 昭和6年10月12日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

遼西方面中國軍各司令部の位置について

10月12日後発

遼西方面中國軍各司令部の位置について

173

172

10月12日後着

関第七一四号（秘）

一、張學良十一日発密電ニ依レハ遼西方面敵軍各司令部ノ位置左ノ如シ

榮臻第七旅、第十二旅、砲兵第八旅、輜重兵団ハ錦州、

第九旅ハ山海關、第十九旅鉄甲車營ハ溝帮子、騎兵第三

旅ハ通遼第二十旅ハ義州、以上

尚第十二旅ハ大凌河河線ニ工事シツツアルハ略確実ナリ

二、当地一般支那人間ニ張學良十五日ヲ期シ奉天ニ來擊ス可シトノ謠言行ハレツツアリ

北平、天津、朝鮮、哈市、二師司スミ

32

昭和6年10月12日 三宅閩東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛（電報）

張學良の対日攪乱工作について

10月12日前發
10月12日後着

閻參六九四（秘）

一、營盤ヨリ來奉セル一支那人ノ語ル所ニ依レハ今回ノ事
變ノ為營盤ニ帰郷セル講武堂學生數名ハ張學良ヨリ錦州

33 昭和6年10月13日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

錦州爆撃に関する軍側の内情説明について

奉天 10月13日後發
本省 10月14日前着

第九六〇号（暗、至急）

在英大使宛貴電第二〇一號前段ニ閑シ
軍側ノ説明ニ依レハ當地我軍所有ノ飛行機ハ偵察機ト戰闘

34

昭和6年10月13日 三宅閩東軍參謀長より
二宮參謀次長宛（電報）

彰武方面の中國軍の動向について

機ノミニシテ過船錦州事件ノ際重ニ目標地点以外ニ損害ヲ
与ヘタルハ爆撃機ニアラサリン為ナリト（往電第九〇八号
参照）
寿府ヨリ在欧各大使へ転電アリタシ
米全權へ電報セリ

35 昭和6年10月13日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

錦州付近における中國側戰備情況について

10月13日後發
10月13日後着

閻第七二三号（其ノ一—三）（秘）

新民、營口付近以西支那兵ハ日本人ノ進入ニ方リテハ種々
理由ヲ設ケテ之ヲ許サス營口方面ヨリ錦州ニ派セル密偵ハ

殆ント全部帰還セサル情況ニアリ之カ為茂川大尉ヲ營口ヨ
リ海路秦皇島ニ到ラシメ同地ヨリ北寧線ニ依リ錦州付近ニ
派遣シ十二日夜帰來セシメタリ大尉ノ視察セル情況次ノ如
シ

一、本朝彰武方面偵察ノ為派遣セラレタル我飛行機一ハ午
前九時五十分打虎山駅ヲ出發セル一軍用列車（約三十輛
編成ニシテ軍隊ヲ満載ス）錦州ニ向ヒ進行中ナルヲ發見
セリ右ハ王以哲ノ殘軍ノ輸送ナルカ如シ

二、該敵ハ我飛行機ニ向ヒ小銃及機關銃ヲ以テ射擊セルヲ
以テ之ヲ爆撃セルモ命中セス我飛行機体ニ數發命中セル
モ搭乗者被害ナシ

北平、天津、朝鮮、濟南、上海、哈市スミ

ニ集合ヲ命セラレ數日前營盤ヲ出發セルガ出發ニ際シ家
族ニ対シ今回ハ日本ト一戦ヲ交フ可シトテ悲壯ナル別離
ヲナシタリト云フ

二、元東北憲兵司令部偵緝所第二隊付宝大尉ノ語ル所ニ依
レハ「學良ハ日本出動部隊ノ暗殺治安擾亂及情況偵察ノ
目的ヲ以テ數百名ノ便衣隊ヲ商人又ハ苦力ニ変装セシメ
奉天其他ノ要地ニ派遣セリ該隊ハ十月四日北平ヲ出發セ
ルヲ以テ既ニ満鐵沿線ニ潛入シ居ル筈ニシテ日本軍將官
一萬元將校三千元兵卒一千元ヲ暗殺ノ懸賞トスル如ク命
令シタリ」ト云フ

以上ノ二項モ亦錦州政權ノ對日敵對行為ヲ物語ルモノナリ

- 高射砲ヲ北平ヨリ移セリトノ情報アルモ明ナラス錦州並溝帮子各約二百ノ車輛ヲ蒐メアリ
- 三、関内方面ニハ避難民ニ混シ敗残兵ヲ輸送セントシツアリ閏内ヨリ増加兵ノ有無不明ナリ
- 四、列車中ニハ学生ノ義勇兵ラシキモノ若干アリ
- 五、錦州ニ於テハ日本人ノミヲ絶対ニ下車セシメス
- 日本人（茂川大尉ノミ）ニ対シテハ敢テ暴行ヲ加ヘサルモ支那兵ハ何レモ明カニ敵視的態度ヲ示シ警戒厳ナリ
- 六、錦州交通大学ニハ依然遼寧省政府アリ、過般我カ飛行機爆撃ノ為損害僅少ナリシカ如シ
- 七、十四日以後敵カ攻勢ヲ採ルヘシトノ風説ハ各方面ニ於テ聞ク所ナルモ警見スル所支那兵ニ此ノ如キ氣力無キカ如シ
- 北平、天津、朝鮮、2Dスミ
- ~~~~~
- 36 昭和6年10月13日 在ジユネーヴ（電報）
幣原外務大臣より
國出淵大使宛 事務局長、在米
- 錦州付近中國軍の配備状況について
- 合第八九六号（平）
- ~~~~~
- 37 昭和6年10月14日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）
- 王以哲軍の南口への移駐に関する張學良の言明について
- 北平 10月14日後發
本省 10月15日前着
- ~~~~~
- 38 昭和6年10月14日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
- 山海關方面の中國軍現況と日本軍の行動について
- 北平 10月14日後發
本省 10月14日後着
- ~~~~~
- 錦州事件以後山海關方面へ支那軍隊移駐説喧伝セラルニ付同方面ニ於ケル不測事件ノ發生ヲ防止スル為副司令部ヘ申入方大臣ヨリ訓令アリタルヲ以テ十三日本官張學良ヲ往訪シ支那軍隊ヲ同方面ニ移駐シ事端ヲ釀スカ如キコトナキ様篤ト申入レタルニ対シ張ハ左ノ通り答ヘタリ御参考迄御申出ノ次第ハ直ニ同地軍憲ニ対シ電報スヘシ貴國軍隊側ニ於テモ充分自重セラル様御訓達願ヒタシ王以哲軍ハ殺氣立チ居リ都会ニ駐屯セシムルハ危険ニ付邊鄙ナル南口方面ニ移動スルコトトシ目下鉄路輸送中ナリ山海關ニハ何旅團ノ一箇旅駐屯セルノミニテ之以上増兵ノ意志ナシ要スルニ自分ハ自己ノ勢力範囲内ニ於ケル日本居留民保護及排日

我軍ノ調査ニ依レハ本月八日頃ニ於ケル錦州（Chin-chow）付近支那軍配備状況ハ

一、錦州付近、七千七百（七七〇〇）重砲野砲各十六門ヲ有ス

二、義州（I-chou）（錦州ノ北方約五十「キロ」）付近六千四百（六四〇〇）

三、溝帮子（Kou-pan-tzu）（錦州ノ東方約五十「キロ」）打虎山（Ta-hu-shan）間六千四百（六四〇〇）其ノ北方ニ砲兵第六旅（野砲三十六門ヲ有ス）

四、尚ホ新民府方面ヨリ第七旅（奉天）ノ殘軍、山海關之ヲ要スルニ錦州付近ニ在ル支那兵力ハ總計二万余、重砲十六門、輕砲七十二門ニ達シ我居留民ノ在ル地点當口ハ溝帮子ヨリ九一「キロ」、新民府ハ打虎山ヨリ約七十「キロ」ノ距離ニアリ

逃走セル殘軍錦州ニ向ヒ集中シツツアリ

打虎山（Ta-hu-shan）方面ヨリ第九旅及ヒ平津方面ニ一旦

之ヲ要スルニ錦州付近ニ在ル支那兵力ハ總計二万余、重砲十六門、輕砲七十二門ニ達シ我居留民ノ在ル地点當口ハ溝帮子ヨリ九一「キロ」、新民府ハ打虎山ヨリ約七十「キロ」ノ距離ニアリ

ノ距離ニアリ

本電宛先 寿府、米

寿府ヨリ在欧各大使ニ転電アリタシ

合第八九六号（平）

~~~~~

- 錦州事件以後山海關方面へ支那軍隊移駐説喧伝セラルニ付同方面ニ於ケル不測事件ノ發生ヲ防止スル為副司令部ヘ申入方大臣ヨリ訓令アリタルヲ以テ十三日本官張學良ヲ往訪シ支那軍隊ヲ同方面ニ移駐シ事端ヲ釀スカ如キコトナキ様篤ト申入レタルニ対シ張ハ左ノ通り答ヘタリ御参考迄御申出ノ次第ハ直ニ同地軍憲ニ対シ電報スヘシ貴國軍隊側ニ於テモ充分自重セラル様御訓達願ヒタシ王以哲軍ハ殺氣立チ居リ都會ニ駐屯セシムルハ危険ニ付邊鄙ナル南口方面ニ移動スルコトトシ目下鉄路輸送中ナリ山海關ニハ何旅團ノ一箇旅駐屯セルノミニテ之以上増兵ノ意志ナシ要スルニ自分ハ自己ノ勢力範囲内ニ於ケル日本居留民保護及排日

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

41 昭和6年10月15日  
在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
公使ヨリ南京へ転報アリタシ  
公使、奉天、廣東、北平へ転電セリ

米、上海、天津へ転電セリ  
在欧各大使ニ転電アリタシ

ノ極ニ達シタルヲ以テ同地駐在ノ我カ警察官（関東庁ヨリ  
派遣駐在セシム當時一名）ハ日本人会ト協力シ同県長ニ対  
シ引揚ニ関スル保護並ニ便宜供与方ヲ申入レ其ノ諒解ヲ得  
タルヲ以テ二十五日在留者全部（四十四名）引揚ケニ決シ  
恰モ到着シタル前記天津ヨリノ応援警察官ノ援助ヲ得テ北  
寧鉄道ニ依リ奉天ニ向ヒ途中屢々不安ニ襲ハレタルモ二十  
六日無事奉天ニ到着シタルカ錦州県知事ヨリ二十五日邦人  
全部引揚ノ旨天津総領事代理宛態々電報シ越シタルニ依リ  
同総領事代理ニ於テ便宜當口領事ト連名ニテ同知事ニ対シ  
一応ノ謝意ヲ表シ置キタルモノニシテ右ハ今回ノ錦州爆撃  
トハ全然時期ヲ異ニシ前記支那代表ノ陳述ハ彼是混同シ居  
ルモノナリト認メラレ又同地在留民力事変発生後早キニ臨  
シテ全部引揚ノ已ムヲ得サルニ至リタルコトハ支那官憲ノ  
有効ナル保護ヲ受ケ得ザリシコトヲ証スルモノト云フヘシ  
何等御参考迄

いて

41 昭和6年10月16日  
三宅関東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛（電報）

突ノ真相ヲ確カメタル上当地駐屯軍ノ行動ヲ決定スル考ニ  
シテ直ニ支那軍隊ニ対シ積極的行動ヲ採ル如キコトナキ旨  
十三日幕僚ヨリ館員ニ内話アリタルカ機微ナル國際關係ニ  
鑑ミ今後共軍トハ密接ナル連絡ヲ保チ善處スル方針ニシテ  
軍トノ関係ハ極メテ円滑ナリ

公使ヨリ南京へ転報アリタシ

公使、奉天、廣東、北平へ転電セリ

39 昭和6年10月15日  
在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の錦州爆撃による被害について

貴電合第九一三号ニ閲シ

第七六号（暗）

目下ノ處直接取調ノ途全ク無キニ付最近錦州ヨリ帰來シタ  
ル者ニ就キ探査セルニ其言フ所区区ニシテ信シ難キモノ多  
キモ十月八日午後一時三十分日本飛行機錦州ニ飛来シ爆弾  
ヲ投下セル處北寧鉄路機關庫ニ八九発市街理髮店ニ一發交  
通大學ニ數發命中シ死者五名負傷者十六名外ニ外人一名重

40 昭和6年10月15日  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）  
幣原外務大臣より  
奉天、天津へ転電セリ

錦州在留日本人保護に関する中國代表陳述に  
対しその真相説明について

第一〇二号  
本省 10月15日後12時発

錦州在留民保護方ニ閲スル件

貴電第一四〇号ニ支那代表ノ陳述中錦州事件ニ際シ同地在  
留内鮮人力支那官憲ノ保護ヲ求メ同官憲之ニ充分ナル保護  
ヲ与ヘタルタメ在奉天及天津日本領事ハ之ニ謝意ヲ表シタ  
リトノ一句アル處当時ノ実状ヲ見ルニ奉天事變突發ト共ニ  
營口錦州間ノ通信不通ニ陥リ（錦州ハ營口領事館管内）錦  
州居留民ノ安全危マレタルヲ以テ營口領事ヨリ天津總領事  
代理ニ対シ可然方法ニ依ル在留民ノ保護方ヲ依頼シ天津ヨ  
リ九月二十三日巡查一名支那人巡捕（民団雇傭）三名ヲ派  
遣シタルカ二十四日一般民心甚タシク動搖シ邦人ノ不安其  
遣シタルカ二十四日一般民心甚タシク動搖シ邦人ノ不安其

錦州周辺の中国軍の状況について

ノ極ニ達シタルヲ以テ同地駐在ノ我カ警察官（関東庁ヨリ  
派遣駐在セシム當時一名）ハ日本人会ト協力シ同県長ニ対  
シ引揚ニ関スル保護並ニ便宜供与方ヲ申入レ其ノ諒解ヲ得  
タルヲ以テ二十五日在留者全部（四十四名）引揚ケニ決シ  
恰モ到着シタル前記天津ヨリノ応援警察官ノ援助ヲ得テ北  
寧鉄道ニ依リ奉天ニ向ヒ途中屢々不安ニ襲ハレタルモ二十  
六日無事奉天ニ到着シタルカ錦州県知事ヨリ二十五日邦人  
全部引揚ノ旨天津総領事代理宛態々電報シ越シタルニ依リ  
同総領事代理ニ於テ便宜當口領事ト連名ニテ同知事ニ対シ  
一応ノ謝意ヲ表シ置キタルモノニシテ右ハ今回ノ錦州爆撃  
トハ全然時期ヲ異ニシ前記支那代表ノ陳述ハ彼是混同シ居  
ルモノナリト認メラレ又同地在留民力事変発生後早キニ臨  
シテ全部引揚ノ已ムヲ得サルニ至リタルコトハ支那官憲ノ  
有効ナル保護ヲ受ケ得ザリシコトヲ証スルモノト云フヘシ  
何等御参考迄

米、上海、天津へ転電セリ  
在欧各大使ニ転電アリタシ

閏参第七五五号（秘）

一、密偵報ヲ綜合スルニ錦州付近ニ集結セル第七旅ハ逐次  
閏内ニ輸送セラレアルハ確実ナルモ其他ノ軍隊ハ未タ輸  
送セラレサルカ如シ  
二、尚敵軍ハ錦州付近ニテ新兵ヲ募集スルノ外遼河以東ノ  
地区ニ於テ別勵隊ノ編成ニ着手シアルコト確実ニシテ法  
庫門及其東北方地区並ニ通江口北方ノ金家屯付近ニ於テ  
ハ相当ノ勢力ヲ集結シアルカ如ク付近住民ハ其暴行ヲ虞  
レテ満鉄沿線ニ避難スルモノ多シ  
北平、天津、朝鮮、上海、哈市、第二師團參謀長スミ

42 昭和6年10月17日  
在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
錦州政府建物に英國々旗使用の有無取調につ  
いて

奉天 10月17日後発  
本省 10月18日前着

傷間モ無ク死亡セリトノ一店員ノ言ハ稍信ヲ置クニ足ルト  
存セラルルニ付御参考迄

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

第一〇一一号（暗）  
本官発北平宛電報  
第六九号

当地軍側ノ情報ニ依レハ錦州政府ハ同地英米煙草会社建物

内ニ於テ実際ノ事務ヲ執リ其ノ建物ニハ英國旗ヲ掲ケ居ル  
趣ニシテ軍側ニテハ英國旗ニ匿レテ陰謀シ居ルニアラスヤ

トテ氣ニシ居ル実情ナルニ付テハ關係ノ向ニ付事實ノ有無  
取調方然ルヘク注意ヲ喚起シ何等問題ノ起ラサル様御取扱

願ヒタシ當館ニ於テモ英國總領事ニ対シ右様取扱ヒタリ又  
軍部ニ於テモ既ニ天津ノ駐屯軍ヲ経テ支那側ニ警告ヲ与フ  
ルコトトセル由

大臣、公使、天津、牛莊ニ転電セリ

43 昭和6年10月17日 三宅閩東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛（電報）  
錦州邊防軍司令官公署その他の英國旗使用  
について

10月17日後發 10月17日後着  
10月17日後發 10月17日後着

関参第七六〇号（秘）

錦州邊防軍司令官公署ノ英國旗使用ノ外奉天支那人中ニモ  
英、米、仏、独ノ国旗ヲ掲ケテ自己ノ安全ヲ計リ帝国ノ行  
動ヲ妨害セントスルモノアリ

実情調査中

北平、天津、朝鮮、上海スミ

44 昭和6年10月17日 三宅閩東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛（電報）  
中国兵の閨内輸送その他錦州方面の諸情報に  
ついて

10月17日前發 10月17日後着  
10月17日前發 10月17日後着

関第777〇号（秘）

諸情報ヲ綜合スルニ錦州方面ノ情況次ノ如シ

一、20iBハ7iBニ引続キ十三日ヨリ閨内ニ輸送セラレタル  
力如ク7iB、20iB閨内輸送ノ真意ハ両旅共志氣阻喪シ軍  
紀弛緩シテ却テ害ヲ為スカ為メノ如シ  
二、錦州付近ニテハ依然新兵ヲ募集シツツアリ  
三、邊防軍司令官公署ハ英國煙草会社出張所ニ置キ同署ニ  
ハ英國ノ大國旗ヲ樹立シアリト

四、遼寧政府ハ米春霖ノミ踏ミ止リアリ其他ノ主要職員ハ  
爆撃ヲ恐レテ北平ニ引揚ケタル由ナリ

北平、天津、朝鮮、上海スミ

45 昭和6年10月21日 在奉天林總領事より  
裕原外務大臣宛（電報）  
錦州爆撃の被害状況について

奉天 10月21日後發 本省 10月21日後着  
上海発大臣宛電報第六六九号ニ關シ  
「ゴルマン」カ十九日錦州ニ赴キ爆撃ノ際現場ニ居合セタ  
ル北寧鉄路支那人技師ノ案内ニテ詳細調査シタル結果左ノ  
通

(一)交通大学ノ付近ニハ三個ノ爆弾投下セラレタルモ小破片  
カ校舎ニ命中セル以外ニハ何等損害ナシ露人教授ハ通行  
中ニ負傷（後死亡）セルモノニシテ校舎ノ近傍ニ居リタ  
ル者ニ非ス

(二)鐵道關係ノ損害ハ機關車及「サービスカー」各一輛輕微  
ノ損害ヲ受ケタルト小家屋數戸破損シタル以外ニハ財産

第一〇六一号（暗）

上海発大臣宛電報第六六九号ニ關シ  
「ゴルマン」カ十九日錦州ニ赴キ爆撃ノ際現場ニ居合セタ  
ル北寧鉄路支那人技師ノ案内ニテ詳細調査シタル結果左ノ  
通

(一)交通大学ノ付近ニハ三個ノ爆弾投下セラレタルモ小破片  
カ校舎ニ命中セル以外ニハ何等損害ナシ露人教授ハ通行  
中ニ負傷（後死亡）セルモノニシテ校舎ノ近傍ニ居リタ  
ル者ニ非ス

(二)鐵道關係ノ損害ハ機關車及「サービスカー」各一輛輕微  
ノ損害ヲ受ケタルト小家屋數戸破損シタル以外ニハ財産

関参第八〇一号（秘）

46 昭和6年10月21日 三宅閩東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛（電報）  
錦州派遺外人記者による爆撃被害の報告につ  
いて

10月21日後發 10月21日後着

錦州事件ニ関シ支那側ノ虚構ナル宣伝ニ対センカ為メ外人記者ヲ錦州ニ派セルカ同人ハ左記要旨ノ電報ヲ「ロンドン・デイリ・テレグラフ」紙ニ発送セリ参考マテ

一、錦州爆撃ノ損傷ハ意外ニ小ナリソハ爆撃術ノ拙劣ナル為カ又ハ故意ニ損傷ヲ与ヘサル如クセル為ナラン

二、支那側ハ投下爆弾數三十ト称シアルモ爆弾ハ大学ヲ避ケ鐵道構内ヲ唯一ノ目標トセルカ如シ

三、死者ハ十六乃至二十三トノ事ナルモ物質的損害ハ三千円程度ナリ

四、爆撃目的カ錦州威嚇ナラハ其ノ目的ハ達成セラレタリ蓋シ錦州大官ハ他ニ退避シタレハナリ

五、支那側ハ軍司令部ヲ錦州ニ置キナカラ日本ノ襲撃ヲ不法トナシアルモ実情調査ノ結果事件ハ極メテ針小棒大ニ宣伝セラレアルヲ確信ス

以上國際連盟ニハ外務側ヨリ通報スミ

47 昭和6年10月24日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

陸軍・満鉄への対応策協議のため帰朝要請について

国際關係ニ甚大ナル要因トナリツツアル今日単ニ政府力軍部行動ヲ支配シ得サルニ止マラス満鉄ノ行動ニモ羈束ナカラシムルカ如キコトアリテハ遂ニ国事ヲ收拾シ得サルニ至ラシムル無キヤヲ恐ル此間ノ事情ハ到底文意ヲ以テ尽シ能ハス至急面陳ノ要アリト思考セラルニ付本官一時帰朝方直ニ御許可アリタク尚本官不在中ノ館務ハ現在館員ニテ支障ナキ見込ダナリ

48 昭和6年10月25日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
在満蒙行政統一機関設置に関する意見上申に  
ついて

奉天 10月25日後發  
本省 10月25日後着

第一一〇八号（部外極秘）

<sup>(1)</sup> 今回ノ事変発生以来我軍事行動ノ結果トシテ從來ノ東三省政府ハ當局者逃亡等ノ為事實上影ヲ失ヒ当地ニ於テハ僅ニ地方維持委員会ノ樹立ヲ見不完全乍ラモ漸次政府ノ形式ニ近付カントシツツアルカ如キモ實際上ハ殆ト全ク我軍部ノ指揮下ニ在リテ當局者タル袁金鎧ヲ始メ委員連ハイヤイヤ

奉天 10月24日後發  
本省 10月24日後着

第一一〇九四号（暗、部外絶対極秘）

最近政府ノ在外使臣及連盟代表ニ對スル御訓示等ヲ見ルニニアリト為シ之ヲ各任國及連盟ニ對シ説明セシメツツアリ右ハ政府ノ御方針並処置トシテ最モ機宜ニ叶ヒ居リ我國ニ

對スル國際間ノ空氣極メテ險惡ナルノ秋出先ヲシテ右方針ヲ無視スルカ如キ行動ニ出テシムルコトハ絶対ニ無之カル

ヘキ筈ナルモ今次事變ノ勃發以來本官累次ノ電稟ニ拘ラス不幸ニシテ滿州ニ於ケル事態ハ予期以上ニ拡大セラルルニ

至リ最近稍小康ヲ保チツツアルモ洮昂線方面ニ於ケル形勢並北寧線方面ニ於ケル治安状態ト中央部ヨリ派遣セラルル軍人ト当地中枢軍部トノ折衝ノ模様ヲ仄聞シ之ヲ考察スル

ニ政府ハ今後果シテ其方針ト軍部行動ヲ完全ニ一致セシメ得ルヤ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ当地方ニ於テハ軍部以外満鉄内部ニ於テモ軍部ノ積極行動ニ共鳴スル者鮮カラス總裁副總裁共上京中ナルカ為事ヲ慎重ニ処理セントスル社員ノ苦衷頗ル甚シキモノアリ滿州ニ於ケル政府機關ノ行動カ我

乍ラ鄉党ノ為ニ涙ヲ振ヒツツ職ニ就キ居ルノ狀態ニアリ又満鉄沿線各地ニ於テハ県政府ヲ倒シテ我軍部ノ息ノ掛カレルモ行ク行クハ當地方維持委員会ノ下ニ帰属セシメラルル運命ニアルモノト言フヲ得ヘク其間ニ在リテ我軍部ノ方針ハ之等各機關ニ邦人顧問及諮詢ヲ付属セシメ実權ヲ我手ニ握ラントスルニアル如シ而シテ之等人員ノ大部ハ満鉄社員ヨリ選抜セラレ居ル處右ハ満鉄力會社トシテ選抜セルモノニアラスシテ主トシテ軍部ノ專斷ニ係リ之カ為右人選上非難統出ヲ免カレサル狀態ニアリ他方當館ヲ初メ沿線各領事館ト軍部トノ關係ヲ見ルニ各館共軍部ト協同此國難ニ当ラント欲シ其希望ヲ表明シ居ルニ拘ラス中枢軍部ハ今尚邪魔披ヒヲナサントスル傾向アリ最近稍緩和ノ徵無キニ非サルモ現状ヲ以テ進マハ各公館ノ當然ノ職權ヲ回復スルノ日何レニアリヤ殆ト望ムヘカラサル狀態ニ在リ此結果トシテ無理解ナル施政ノ為当地方ニ在留シ又ハ視察ヲ目的トシテ來レル外国人等ニ与フル印象上ノ損失鮮カラサルヘク將又土着ノ良民タル支那人ヲ不必要ニ苦シメ折角獲得シ得ヘキ實際上ノ利權ヲモ遂ニハ喪失スル

ニ至ラサルヤノ虞アリ

抑政府ハ今次事変ノ当初ヨリ付属地外ニ軍政ヲ布カサル方針ヲ採リ之ヲ内外ニ宣明シ居レリト雖今回ノ軍事行動ノ及ヘル地方ニテハ形式ノ如何ハ之ヲ別トシ實際ニ於テハ軍政

ヲ布ケルト同シ効果ヲ挙ケント努メ之カ遂行ニ当リテハ満鉄等ヨリ人員ヲ招致シ来レル事（脱）アルハ絶対ニ軍部統制ノ下ニ置クノ結果自然幾多ノ矛盾ト無理トヲ生シ其結果

満州ニ於ケル地方治安ノ上ニモ收拾スヘカラサル状態ヲ來シ信ヲ一般居住支那人ニ失フニ至ルナキヤヲ惧レツツアリ

今次事変ノ真因カ我滿蒙權益ノ擁護ト發展トニアル以上叙上ノ如ク住民ニ信ヲ失フカ如キ矛盾セル方針ト行動トハ断

シテ之ヲ排斥シ之ニ代フルニ公正ニシテ住民ニ徳ヲ垂レ信ヲ得ルノ策ヲ執ルノ頗ル緊要ナルヲ感セサルヲ得ス而シテ

今日ノ紛糾セル滿州ノ事態ニ處シ軍部ノ軍事行動以来ノ策動ヲ封シ我滿蒙發展ニ対シ永遠ノ基礎ヲ確立センカ為ニハ至急軍部以外ノ滿蒙諸機関ヲ統一セル（機関）（一昨年十二月本官帰朝ノ際進言済ミ）ヲ作り純粹ナル軍事行動以外ハ全部當該機關ノ發動ニ待ツコトナルヲ肝要ト信ス若シ夫レ右ノ如キ官制制定ニ暇取ル惧アルニ於テハ現満鉄總裁内

田伯ヲ其儘特命全權大使ニ兼任セシメ出来得ヘクンハ関東長官ヲモ兼ネシメ專ラ当地ニ駐在シ滿州ニ於ケル我 High Commissioner トシ以テ救急ノ要ニ宛テラレンコトヲ切望シテ已マス

右卑見幸ニ御採納ヲ得ハ在京中ノ内田伯滿州帰任前ニ実現セラレンコトヲ希望ス

49 昭和6年10月27日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

関東軍と熙治間に吉会鐵道敷設契約調印など  
の情報について

北平 10月27日後発 本省 10月27日後着

第五八九号（暗）

二十六日當地軍側カ奉天ヨリ帰平セル某軍人ヨリノ聞込トシテ館員ヘノ内話左ノ通

関東軍ハ滿州新政權力少クトモ二三年間ハ樹立セサルヘキヲ見越シ鐵道問題ニ着手シ既ニ吉林熙治トノ間ニ吉会鐵道敷設ノ調印ヲ了シ右工事ニ移レル一方瀋海吉海四洮打通等各線ノ貨物ヲ全部滿鉄ニ吸收中ナル為最近滿鉄ハ莫大ナル

#### 第四四一号（略）

本省 10月28日後着

利益ヲ挙ケツアリトテ現在ノ駐兵費ハ充分償フヲ得ヘク軍部トシテハ支那本部ニ於ケル經濟勢力ヲ失フトモ両三年間滿州ニテ現状ヲ統クルニ於テハ右損失ヲ充分取返シ得ヘシトナシ居リ又宣統帝擁立等ハ一部ノ策動ニ過キス軍トシテハ斯ル無力者ヲ斥ケ學良勢力ヲ驅逐シ得ル実力者ヲ擁シ立テントスル意向ナルカ如シ云々

尚本件ニ關シ十七日ノ北平晨報ハ十八日午後三時熙治ハ多門司令官矢野警備司令官大谷憲兵司令石射總領事等ヲ招待シ席上ニ於テ左記三項ニ關スル正式秘密調印ヲ了セル趣報道セリ

（一）三ヶ月内ニ吉会鐵道ヲ完成スル事トシ敦化延吉兩地ヨリ同時ニ工ヲ起シ複線トスル事

（二）日本ハ吉林省ノ土地ニ付指定購買權ヲ有スル事

（三）吉林長春ニ於ケル商埠地ヲ永久租借スル事

支、南京、奉天、吉林、哈爾賓、間島、天津へ転電セリ

51 昭和6年11月18日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

錦州政府の動向その他軍側情報について  
奉天 11月18日後発 本省 11月18日後着

第一三三号（平、至急）

巴里連盟在米大使宛合第九三六号

50 昭和6年10月28日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

天津 10月28日後発

#### 錦州爆撃損害に関する大公報報道について

軍側ヨリノ通報ニ依レハ朝鮮軍ノ交代スヘキ内地ヨリノ一

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

ケ旅團ハ十七日宇品港ヲ出帆セルノミニテ其到着迄ニハ相  
當時日ヲ要スルノミナラス最近ノ事態ニ顧ミ内地及朝鮮ヨ  
リ派遣方決定セル飛行隊（現在当方面ニ在ルハ偵察機ノ  
ミ）未夕到着セス文事態ノ急迫ニ鑑ミ奉天ヨリ急派セル增  
援隊モ未夕現地ニ到着セス我軍ハ極メテ不利ノ状態ニ在リ  
前記往電黒龍江軍ノ攻勢モ此ノ機ニ乘セントスルモノト察  
セラル尚錦州政府ハ我軍北方集結ノ挙ニ乗シ南満線一帯撃  
乱ノ目的ヲ以テ土匪敗兵等ヲ盛ニ使嗾利用シツツアリ

巴里連盟ヨリ露ヲ含ム在欧各大使ニ転電請フ

本電宛先 巴里連盟、在米大使

転電先、大臣、北平、上海、在満各領事

セラル尚錦州政府ハ我軍北方集結ノ挙ニ乗シ南満線一帯撃  
乱ノ目的ヲ以テ土匪敗兵等ヲ盛ニ使嗾利用シツツアリ

ルト共ニ第十九旅ノ全部ハ大凌河（Ta-ling-ho）ヲ超ヘテ  
東方ニ進出シ且各旅ハ盛ニ募兵中ナリ詳細左ノ通  
一、最近三個列車ノ兵閥内ヨリ錦州ヲ經テ打虎山ニ向フ  
二、北寧線護路司令陳興亞ハ一個列車ノ兵ト共ニ十八日打  
虎山ニ到着ス

三、錦州ノ高射砲隊ハ東方ニ移動ス

四、其他ノ旅団司令部又東方ニ移動セルモノノ如シ

五、溝幫子ニハ増兵スルト共ニ列車生活ヲナス

尚軍側ニテハ本件情報ハ外國通信員ニ対シ未夕發表セス

「時機ヲ観望シツツアル」趣ニ付右御含ミ置ヲ請フ

支、北平、天津、牛莊へ転電ス

52 昭和6年11月(20)日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

錦州方面中國軍の大凌河以東進出について

第一三五四号（暗）  
(軍部情報)

奉天 11月20日後着 本省

錦州方面ノ支那軍ハ最近活氣ヲ呈シ來リ其兵力稍々增加ス  
組織漸次具体化シテ其ノ行動又活発トナリ嫩江方面ノ情況  
切迫スルニ伴ヒ黒龍江軍ト策応シテ我カ後方ヲ擾亂シ特ニ  
最近錦州方面ノ敵情稍々活氣ヲ呈スルニ從ヒ集團ノ情況頗  
著ニシテ其ノ勢力一万五千ニ達ス敵ハ此等別働隊ニ彈薬ヲ  
支給シ要スレハ部隊ニ若干ノ金員ヲ与フルノ外給養ハ掠奪  
ニ委ス從テ速ニ此等別働隊ヲ指揮操縱スル遼西地帶ノ敵軍  
ヲ掃討スルニ非スンハ當方面ノ治安維持ハ勿論軍自体ノ後  
方連絡不安ナリ別働隊ノ情況ハ筆記報告ス

53 昭和6年11月21日 三宅關東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛（電報）

遼西方面馬賊の中國軍別働隊としての活動状況について

況について  
11月21日後発 11月21日後着 本省

（イ）関第四五号（秘）  
遼西方面ノ敵カ馬賊ヲ懷柔シテ絶ヘス我カ後方ヲ破壊擾乱  
側ニモ供給セラレタルカ如ク内密入手ノ發電写ニ依レハ外  
國通信員ハ一樣ニ右情報ヲ報道スルト共ニ北方モ一段落ナ  
ルニ依リ今ヤ日本ノ意図ハ學良ノ殘党ヲ錦州ヨリ追払フニ  
アリトノ観察ヲ加ヘ居レルカ「クリスチヤン、サイエン  
ス、モニター」通信員ハ滿州ニ於ケル學良ニ忠実ナル軍隊  
アルハ錦州ノミトナリタレハ同地ヲ片付クレハ日本ニ對シ  
良好ナル獨立政府カ全滿ヲ支配スルコトトナルヘク日本ノ  
決意ハ明カニ全地方ノ平定ニアルカ如シト打電シ居レリ  
支、北平、天津へ転電セリ

54 昭和6年11月22日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍の錦州攻略意図に関する外國新聞記者  
の報道について

奉天 11月22日後発 本省 11月22日後着

55 昭和6年11月23日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍の錦州攻撃をめぐる諸情報について

天津 11月23日後発 本省 11月23日後着

第五八四号（暗）

二十三日ノ支那新聞ハ二十二日新民屯府ヲ攻撃セル馬賊ハ

日本ノ策動ニ係ルモノニシテ錦州攻撃ノ第一歩ナル旨ヲ報  
道セルカ尚京津「タイムス」ハ確實ナル外國官憲側ノ情報  
ニ依レハ最近閔外ニ輸送セラレタル支那軍ナシ尚目下平漢  
錦州方面支那軍東方移動ニ関スル軍情報ハ二十日外國記者

第一三六五号（暗）  
（五一文書）

往電 第一三五四号ニ関シ

錦州方面支那軍東方移動ニ関スル軍情報ハ二十日外國記者

線ニハ多數列車用意シアル処右ハ日本カ錦州攻撃ヲナス場合増援軍ヲ輸送スル為ナリヤ若ハ閔外軍隊ヲ引揚クル為ナリヤ不明ナリト報セリ

支、北平、奉天ニ転電セリ

支ヨリ南京、上海ヘ転報アリタシ

56 昭和6年11月(24)日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

在北平米國公使館付陸軍武官の錦州方面視察

について

北平 本省 11月24日前着

第六七〇号(略)

本官發奉天宛電報

第一一八号

米國公使館付陸軍武官 Margetts 中佐ハ二十三日夜当地發視察ノ為錦州ニ赴ク筈尚同人ハ東京ヨリノ視察武官一行トハ無關係ナル由

大臣、公使、牛莊ヘ転電セリ

57 昭和6年11月24日 在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍の溝帮子および錦州方面への進軍計画

について

牛莊 本省 11月24日前発

第一〇二号(暗、至急極秘)

我軍部ニ於テハ滿鉄沿線ノ脅威タル海城遼中盤山一帶ノ馬賊軍ヲ一掃センカ為約五千ノ兵ヲ以テ二十四日未明ヲ期シ鞍山湯崗子方面ヨリ討伐ヲ開始スル趣ナル處當地軍部ニ付内査スル所ニ依レハ軍部ニ於テハ張學良ノ遼西ニ於ケル兵力集結進捗スルニ従ヒ奉天及當口ヲ襲ハントスル氣勢漸次濃厚トナリツツアリ一方遼東、遼西ノ馬賊ヲ指嗾シテ満鉄沿線地方ヲ攪乱セントスル企図モ亦着々実行化シツツアリテ奉天、當口及満鉄沿線南部ニ進軍シ各地ノ馬賊團ヲ掃蕩シ崗子、南台方面ヨリ西北方ニ進軍シ海城ヨリ田庄ツツ遼中、台安ヲ経テ溝帮子ニ向ハシメ別ニ海城ヨリ田庄台ヲ経テ盤山ニ向フ枝隊(約二個中隊)ト溝帮子ヲ挾撃シ一挙ニシテ之ニ占拠セル第一九旅ヲ葬ムリ去ル計画ナリト

### 本庄軍司令官の新民派兵の意図説明について

奉天 本省 11月25日後発

第一三九三号(暗、至急)

往電第一三九二号ニ關シ

二十五日求ニ依リ軍司令官ヲ往訪シタルニ軍司令官ハ新民ニ兵員派遣ニ至レル次第ヲ説明シタル上右ニ関連シ外間錦州進撃説等ノ有無ノ懸念モアルヘシト思考セラルル處自分

トシテハ新民ノ治安維持セラルルニ於テハ直ニ撤兵ノ意向ニ付新民分館主任ヨリ県知事ニ対シ至急公安隊ノ狩集メ其シト述ヘタリ

尚右会見ノ際司令官ヨリ連盟並ニ米国方面ノ雲行ニ付問合アリタルニ依リ本官ヨリ最近ノ模様ヲ大体述ヘタル上最近当地方外國通信員ハ錦州進撃ニ関シ打電シ居ル向少ナカラス連盟並ニ米国官憲筋ノ注意モ偏ニ本件ニ集中シ錦州方面ノ衝突防止ノ為何等措置ヲ講スルノ必要アリトノ意見ニ傾キツツアリト説明シ置ケリ

營口守備兵ハ警備ヲ駆逐艦朝顏(二十一日当地ニ入港セリ)及警察隊ニ委セ明二十四日午前零時十七分發臨時列車ニテ大石橋第三大隊ノ大部分参加セリ)ナルモ装甲自動車其他各兵種ノ混成ニシテ優ニ二万ノ支那兵ヲ掃蕩スルノ實力ヲ有スト称シ居レリ

奉天、遼陽、公使、北平、天津ニ転電セリ

58 昭和6年11月25日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

連盟ヨリ在欧各大使及露ニ転電アリタン

59 昭和6年11月25日

在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 新民の治安維持につき適當の措置をとるよう

指示について

奉天 11月25日後発  
本省 11月25日後着

第一三九四号(暗)

本官發新民府宛電報第五号

(五八文書)  
大臣宛往電第一三九三号前段ニ関シ

軍司令官ヨリ依頼モアルニ付至急支那側ニ対シ然ルヘク御措置相成結果回電アリタシ

大臣、公使、北平、天津へ転電セリ

60 昭和6年11月25日 津田第二遣外艦隊司令官より  
小林海軍次官他宛(電報)

秦皇岛・山海關における中國軍の配備ならび

秦皇岛山海關情報二十五日

第六六番電

秦皇岛山海關情報二十五日

に邦人の避難状況について

秦皇岛山海關情報二十五日

秦皇岛山海關情報二十五日

満州事件(十一月二十五日英大使來訪ノ件)

十一月二十五日英國大使來訪唯今在南京「ランプソン」公使ヨリ接手セル電報ニ依レハ顧維鈞ハ同公使ニ対シ若シ日本政府ヨリ錦州ニ於ケル支那軍隊ヲ閨内ニ撤退スヘキ提議アラハ支那政府ハ之ヲ承諾スル用意アリト内話シタル旨ヲ告ケ本大臣ノ意向ヲ問ヘリ本大臣ハ之ニ答ヘ本問題ハ極メテ機微ナル考量ヲ要ス若シ日本政府ニ於テ顧維鈞ノ「ランプソン」ニ対スル内話ヲ信シ率然斯クノ如キ提議ヲ為スト

キハ日本政府ニ向ツテハ其提議カ支那主權ノ侵害ナルコトヲ高調シ之ヲ峻拒シテ國民ノ歎心ヲ迎フルノ策ニ出ツルヤモ知ルヘカラス其場合ニハ日本ハ黙過スルコトヲ得シテ断然タル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘシ若シ支那政府ニ於テ右提議ヲ承諾スルノ用意アリトセハ何故ニ自ラ進ンテ

関内ヘノ撤兵ヲ決行セサルヤ其撤兵ハ日本ノ要求ニ屈從シタルニ非スシテ全ク支那自身ノ自發的措置ナリトスル方法ヲ執リテコソ支那ノ面目ヲモ保ツ所以ニ非スマト述ヘタル處英國大使ハ貴意ハ能ク了解セリ、錦州ニ支那軍隊ノ集結スルハ日本軍ヲ刺戟シ両國軍隊大衝突ノ原因トナルコトアルヘク愈々斯カル事態ノ發展ヲ見ルニ至ラハ時局收拾ノ望

一、兩地共極メテ平穩ニシテ支那人ノ對日感情モ悪化シ居ラサルモ山海關ニアリテハ邦人婦女子ハ同地兵營ニ避難シ秦皇島ニアリテハ同守備隊付近ノ邦人家屋ニアリ

二、支那軍隊ハ秦皇島ニ一營(約三百)山海關ニ一旅アリ(旅長ハ日本士官學校出ノ何柱國中將)支那軍ハ日本軍ヲ極度ニ虞レ嚴重ニ警戒シツツアリ特ニ陸戰隊ノ揚陸ヲ虞ルモノノ如シ

三、球磨乗員ヲシテ二十四、二十五日ノ兩日秦皇島ヨリ汽車ニテ往復シ山海關ヲ見学セシメタルカ山海關ノ巡警等ハ街上ニ於テ態々敬礼ヲ行フ等態度極メテ謙抑ナリ

二十五日

(編注) 本電報は、小林海軍次官のほかに「次長、馬要、一遣司令官、在支各地武官、八雲艦長、二遣各艦」に發電された。

61 昭和6年11月25日 在上海重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州集結の中國軍の閨内撤退問題に關し在京

英國大使ヘ談話について

第四七八号(暗)

モ絶ユヘシ此際支那カ自發的ニ閨内撤兵ヲ決行スルコトトナラハ寔ニ妙案ニテ各方面ニ安心ヲ与フヘキニ付自分ハ其意見ヲ本国政府ニ申送ルヘント語レリ  
米、連盟、奉天、北平、廣東ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使ニ転電セシメタリ

南京ニ転報アリ度

62 昭和6年11月26日 在上海重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州情勢および錦州兵力閨内引揚問題等に關する張公權の談話について

上海 11月26日後発  
本省 11月26日後着

第一三三五号(暗)

二十五日張公權ハ船津ニ対シ錦州付近ニテ日支両軍衝突アル場合ニハ日支両國全局面ニ付如何ナル惡影響アルカハ想像ニ難カラス張學良モ窮余輕舉スルヤモ知レス蔣介石モ大分昂奮シ居ルニ付自分等ハ極力冷靜ノ態度ヲ勧メ且錦州兵力閨内引揚ヲ勸説シ居リ右実現ニ対シテハ相當自信アリ就テハ日本軍側ニテモ出来ル丈ヶ攻撃的態度ヲ持セラレサル

様致度シト述ヘタルヲ以テ船津ハ本使ニ取次クヘキ旨ヲ答  
ヘタル趣ナルカ本使ハ船津ヲシテ支那側カ此上不穏ノ挙動  
ニ出ツルコトヲ止メ急速ニ閻内引揚ヲ実現スルコト然ルヘ  
キ旨ヲ更ニ勧説セシメ置キタリ

奉天、天津、青島、北平、廣東、南京へ転電シ上海へ転報  
セリ

63 昭和6年11月26日 在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

河北地区各党部および各界抗日会の蔣介石、

張学良に対する錦州出動方電請について

北平 11月26日後発  
本省 11月26日後着

第六七六号(平)

河北、北平、天津、平綏ノ四党部ハ二十五日中央ニ対シ日本ハ齊々哈爾占領後更ニ錦州ヲ攻略セントシ居レルニ付即時蔣總司令ニ対シ北上防禦方發令セラルト共ニ不取敢張副司令ヲシテ錦州ニ出動シ正當防衛方命令アリ度シト電請シ同日張副司令ニ対シテモ錦州出動方電請セリ各界抗日会モ同日蔣介石ニ対シ北上歡迎電報ヲ發セリ

公使、南京、天津、奉天へ転電セリ

64 昭和6年11月26日 在奉天森島總領事代理より

幣原外務大臣宛(電報)

中国側の軍事輸送のための措置に関する軍部

情報について

第一四〇六号(暗、軍部情報)

一、在錦州榮臻ハ高紀毅ニ対シ軍事輸送ノ為錦州、北平間三急行列車増發ヲ要求セリ

二、中央鐵道部長連声海ハ高紀毅ニ対シ皇姑屯ニ在ル車輛ヲ至急山海關ニ移シ軍用ニ供セラレタシト電請セリ  
米、連盟、公使、北平、天津ニ転電セリ

65 昭和6年11月26日 武内天津軍參謀長より

二宮參謀次長宛(電報)

張学良の第十九旅に対する山海關死守の命令

について

11月26日前発  
11月26日前着

天第三〇二号(秘)

一、山海關守備隊長ノ報告

同地電報局員ヨリ探知セシ所ニ依レハ昨午前九時張学良

ヨリ第十九旅ニ対シ日本軍ト交戦ノ場合ハ其地ヲ絶対ニ

固守スヘシト電報セリト

二、副司令部參謀陳大佐ハ昨日午前八時北平ヨリ山海關ニ到リ旅長ト密議ノ後第九旅ノ人員点検中ナリ  
66 昭和6年11月27日在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍司令部の移動に關する軍側情報について

て

奉天 11月27日後発  
本省 11月27日後着

軍側極秘ノ情報ニ依レハ閻東軍司令部モ両三日中移動ノ予定ニシテ戰闘行為ハ其上ニ非サレハ開始セサル趣ノ處特別司令部ハ溝帮子ニ設置セラルモノト察セラル

67 昭和6年11月27日 中谷(政二)閻東府警務局長より  
永井外務次官宛

リ

然ルニ今ヤ満鉄線以西打通線以東地区ニ於テ集団馬賊數一  
万数千ニ達シ、又事變前勢力アリシ九勝金山、双山、干大  
川、長山、榮三点、飛張等ノ賊団衰へ僅ニ数十名ノ頭目ニ  
過キサリシ三勝、青山、天樂、紅樂、老三省、天下好、老  
來好等一躍千以上ノ總頭目トナレリ、蓋シ之等ハ敵方ヨリ  
武器弾薬ヲ支給支援セラレシ為ト断スルヲ憚ラサルナリ之  
等別働隊ノ組織概況左ノ如シ

一、遼寧全省警務処長黃顕声十一月五日付營口県公安局宛  
密令（警務處訓令第一四一〇号）ニ依ルニ李學良ハ十月三  
十一日高蔭周ヲ遼蒙辺宣撫專員ニ李海山ヲ遼北蒙辺騎兵  
第一路司令ニ劉振玉ヲ同第二路司令ニ任命ス其組織未タ  
不明ナルモ以下述フル特殊隊、義勇軍ヲ編合スルモノト  
判断ス

二、盤石田庄台付近ヲ中心トシテ總頭目青山（葵小疙トモ  
称スルカ如シ）ノ率フル數千ノ義勇軍（盤山県收發處員  
ノ言ニ依レハ約千名ヲ率フル三勝ハ其部下ナルカ如シ）  
ハ台安遼中付近ニ老北風ノ率フル約二千ノ抗日鐵血團若  
クハ赤色義軍ト称スルモノアリ、兩者共ニ事變勃發後久  
シカラスシテ台頭シ近來最モ活躍シ且全省警務處督察長

來好等一躍千以上ノ總頭目トナレリ、蓋シ之等ハ敵方ヨリ  
武器弾薬ヲ支給支援セラレシ為ト断スルヲ憚ラサルナリ之  
等別働隊ノ組織概況左ノ如シ

熊飛ノ指揮スルモノニシテ青山及ヒ老北風共ニ團長ニ任  
命セラレアリ先ニ黃顕声ノ編成セル公安馬隊一旅ナルコ  
ト確実ナリ

三、北遼沿線北側奉天西方地区ニ「討日義勇軍」ト称スル  
約千名アリ一時我軍ノ討伐ノ為メ四散セルモ最近一、二  
百ノ團体トナリテ板橋子北方及石仏寺付近ニ出没ス  
又新民西方地区ニ海龍ノ率フル約二千ノ賊團アリテ明ニ  
官憲ト連絡ヲ有ス海龍ハ事變前約六十名ノ頭目ニ過キ  
ス、尚付近ニ梯子ノ指揮スル約千名アルモ其去就不明  
而シテ新民県長ハ十九日商務会ニ付近ノ馬賊頭目二十一  
名ヲ密ニ集メテ何事カヲ協議シ又十六日以後付近ノ馬賊  
ニ弾薬ヲ支給セルコト確美ナリ（密偵實見）

四、昌岡開原西方地区ノ天樂ノ指揮スル護國軍天下第一團  
約二千ハ近來屢次ノ我討伐ニ依リ且又老三省派分離昌岡  
縣自治會ニ帰順シテヨリ勢力衰ヘタルモ尚金家屯、通江  
口ニ蟠居ス

事變前天樂ハ三十、老三省ハ七十名ノ頭目ニ過キサリシ

ナリ、本團ハ事變勃發後久シカラスシテ台頭セリ  
而シ法庫、康平、彰武、付近ニ於テハ目下新ニ義勇軍ヲ  
編成中ナルカ如シ

五、通遼付近ニハ警察署長張學仁ノ率フル特殊隊約千安榮  
九ノ率フル救國軍約千、天下好、老來好ノ率フル義勇軍  
約千アリテ共ニ張學仁之ヲ指揮ス

此等ハ十月中旬以後台頭シ特ニ最近大興付近戰闘前後ヨ  
リ其行動一層積極的ナリ、事變前老來好ハ二十、天下好  
ハ四十名ノ頭目ニ過キサリシナリ  
又安榮九ハ錢家店農場經理人ナリ主トシテ自衛上ヨリ組  
織セルモノニシテ敵軍ト左程連絡緊密ナラス、又三江口  
付近ニテ北平陸軍大學卒業ノ金某來リテ一部隊ヲ組織中  
茂林三林付近ニハ六合ノ約千アリ懷德、梨樹付近ニハ懷  
德縣長ノ指揮スル約千二百名ノ團体アリ

（編注）本電第一四七五五号の一は見当らない。

六、洮昂線方面ニハ馬占山系ノ救國軍約千大興付近ノ戰闘  
頃ヨリ活動ス

七、安奉線鳳凰城北方地区ニ於テハ徐文海（公安第十九大  
隊長）ハ事變勃發当初ヨリ我軍ニ反抗シ其ノ後部下ノ自  
治会ニ帰順スル三從ヒ、一時軟化ノ徵アリシモ最近又勢

68 昭和6年11月28日 在奉天森島總領事代理より  
錦州攻撃不可避につき在外使臣に現地の実状

を明確に通報方要請について

奉天 11月28日前発  
本省 11月28日後着

第一四一八号（暗、部外極秘）

守島課長へ左ノ通

大臣へ御伝達乞フ

貴電合第一七二三号ニ関シ

現下連盟ノ空氣並米國ノ態度等ニ鑑ミ御苦心ノ次第ハ推察

ニ難カラス本官等ニ於テモ累次ノ御訓令ヲ体シ微力乍ラ最

善ヲ尽シ居ル次第ナルモ当地駐屯部隊ハ本二十七日朝一小隊

直接御聴取ノ通ニシテ当地駐屯部隊ハ本二十七日朝一小隊

ヲ残シ全部出動シ居ルノミナラス累次拙電所報諸般ノ事情ニ鑑ミルモ今ヤ錦州襲撃ハ本省ニ於テ此ノ際断乎タル措置ニ出テラレサル限り避クヘカラサル當然ノ帰結ト思考セラル在外使臣宛冒頭責電御通報ノ次第ハ對外關係極メテ機微ナル此ノ時ニ当リ本官等ニ於テ諒解ニ途ナキ對内的關係ニ出ツルモノカトモ思考セラル次第ナルモ國家累卵ノ危キニ在ル今日現実ノ事実ニ對スル正当ナル認識ニ基キ現地ノ実状ヲ明ラ様ニ御通報相成ルニ非スンハ累ヲ邦家ノ将来ニ及ホスヘキヲ虞ル國家重大ノ危機ニ際シ僭越乍ラ卑見電報ス

## について

奉天 11月28日後発  
本省 11月28日後着

第一四二〇号（暗、至急）

往電第一四〇七号ニ關シ

関東軍ニ於テハ天津方面ノ情勢ノ緩和ニ鑑ミ遼河以西ノ部隊ヲ満鉄沿線ノ重要地区ニ集合シ今後狀況ノ推移ヲ見ルコトトシ目下引揚実行中ナリ

本電在米大使、連盟等へ転電セス御見込ニ依リ然ルヘク御配慮ヲ請フ

支、在支各領事へ転電セリ

71 昭和6年11月28日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍の部署の変更に關し外國通信員等に對する説明ぶりについて

奉天 11月28日後発  
本省 11月28日後着第一四二二号（暗）  
（七〇文書）  
往電第一四二〇号ニ關シ69 昭和6年11月28日 ※在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

北寧線白旗堡付近において日本軍苦戦の模様

について

奉天 11月28日前發  
本省 11月28日後着第一四一九号（暗）  
新民府発本官宛電報

第三九号

戰場ヨリ徒步当地ニ帰来セル大毎記者ノ情報ニ依レハ二十日午前九時半頃鈴木混成旅団ノ先発部隊北寧線白旗堡ヲ出テタル地点ニ於テ繞陽河ニ在ル敵軍ノ攻撃ヲ蒙リタル為直ニ応戦後続部隊ノ応援ヲ得テ更ニ攻撃繼續中ナルモ敵ハ頑強ニ抵抗シ我軍ハ相當苦戦ノ模様ナルカ將校一名戦死シ數名ノ重輕傷者ヲ出シタル模様ナリ

支、北平、天津、牛莊へ転電セリ

70 昭和6年11月28日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

遼河以西の部隊の満鉄沿線地区への引揚実行

二十八日午前軍側ヨリ「関東軍ハ一般ノ情勢ニ鑑ミ二十八日昨日來ノ部署ノ変更ニ着手ス」ト發表セルニ依リ米國領事及外國通信員數名來館何レモ驚ノ面持ニテ本件急遽変更ノ原因如何、本件ハ日本政府ノ方針ノ急變ヲ意味スルモノナリヤ、本件ニ關シ當館ニ於テ本省ヨリ何等通報ニ接シタリヤ等幾多ノ質問ヲ為セルニ依リ軍側ト打合ノ上右ハ天津方面ノ事態緩和ノ結果ニ外ナラスシテ外國通信員カ二十八日軍ノ移動ヲ錦州進撃ナリト為スハ速断ニ過クル旨簡単ニ応酬シ置キタルカ何レモ腑ニ落チサルカ如キ言辞ヲ漏ラシ居タリ

支、北平、天津へ転電セリ

72 昭和6年11月28日 在奉天久保田武官より  
小林海軍次官他宛（電報）

関東軍司令部の北寧線進出部隊に対する帰還命令について

11月28日發  
11月28日着第三八番電（機）  
関東軍司令部ハ愈々中央ノ命ニ依リ北寧線進出部隊ノ帰還

ヲ令セリト謂フ、新民以南ノ線路ハ敵ノタメ所々取り外ツ  
サレアル為我軍ハ未タ遠ク南下シ居ラサル筈ナリ

(編注) 本電報は、小林海軍次官のほかに「次長、一、二遣

司令官、佐鎮參謀長」に発電された。

73 昭和6年11月29日 ※在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 白旗堡方面の日本軍の引揚げについて

奉天 11月29日前發  
本省 11月29日後着

新民府発本官宛電報(二十八日後)

第一四二五号(略)

第四一号

白旗堡方面ニ出動中ノ鈴木混成旅團ハ俄ニ引揚命令ニ接シタル趣ニテ旅團本部ハ未タ柳家溝付近ニ在ル模様ナル処半數ハ既ニ当地通過東行セリ右ニ付事情ヲ知ラサル支那人等ハ日本軍ノ敗北ト看做シ之カ影響ハ相当注目ヲ要スル状況ナリ

大臣、公使、北平、天津へ転電アリタン

74 昭和6年11月29日 在遼陽山崎領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 日本軍の遼陽帰還について

遼陽 11月29日後發  
本省 11月30日前着

第六五号(暗)

往電第六四号ニ関シ

天野第十五旅團長以下司令部員並歩兵第十六連隊第三大隊及機関銃中隊ハ二十九日午後十時遼陽ニ帰還セリ

公使、北平、奉天ニ転電シ哈爾賓、吉林、長春、鐵嶺、安東、牛莊ニ暗送セリ

75 昭和6年11月30日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 錦州出動部隊の撤退と対滿蒙根本策との関連

について

奉天 11月30日前發  
本省 11月30日後着

第一四三二号(暗、極秘)  
〔七〇文書〕  
往電第一四二〇号ニ關シ

一、当地ヨリ出動セル部隊急遽引揚ニ至レル内状ニ関シ確

実ナル筋ヨリ聞込メル所ニ依レハ当初軍側ニテハ中央ヨリ再度引揚方命令ニ接シタルモ先頭部隊カ既ニ繞陽河付近ニ於テ衝突中ナリシ關係モアリ右命令ヲ無視シ予定行動ノ実行ニ進ムコトトシ居タルモ三度嚴重ナル命令ニ接スルヤ涙ヲ呑ンテ夜半引揚命令ヲ出スニ至レルモノナリ當時幕僚等ハ既ニ連袂辭職ヲ決意シ極力幹部ニ迫レルモ參謀長等ヨリ将来再ヒ機會ナキニ非サルヘク事志ニ違ハハ決シテ幕僚ノミヲ見殺ニスルモノニ非ス軍司令官以下一蓮托生ノ決意アル旨ヲ披瀝シ漸ク之ヲ宥メ得タル実状ニシテ実ニ劇的光景ヲ呈セリト云フ

二、惟フニ当地軍部ノ方針ハ事變当初ヨリ我既得權益ノ擁護邦人ノ生命財産ノ保護諸種ノ懸案ノ解決ノ範囲ニ止マラス滿蒙ヲ打ツテ一丸トシテ新政権ヲ樹立シ茲ニ確固不抜ナル帝国ノ地歩ヲ確立セントスルニアルカ如ク曩ニ林總領事ヨリ今次ノ時局ハ既ニ所謂五大項目ヲ以テ收拾シ得ヘキ範囲ヲ超過セル旨累次進言セラレタルモ全ク右ノ觀察ニ出テタルモノト察セラル而シテ最近ニ至テハ更ニ一步ヲ進メ支那本部ヨリ隔絶セル往年ノ張作霖政府ニ類スル新政権ノ樹立ノミヲ以テ充分トセス此好機ニ乘シ満

蒙ニ新獨立國家ヲ建設シ永遠ニ事實上我国ノ保護下ニ置カントノ議有力トナリツツアル如ク東北旧政権ノ徹底的排除地方自治制度ノ創設北滿政権ノ擁立宣統帝ノ連出シ等ハ一トシテ右方寸ニ出テサルハ無ク從テ既ニ北滿経略ニ大体ノ目鼻着キタリト認メ得ル今日右ノ大理想ヲ實現スルカ為其前途ニ横ハル唯一ノ障碍トシテ錦州政権ノ撲滅ニ進マントスルハ從來ニ於ケル幾多ノ遭口ヨリ判断シ極メテ自然ノ途筋ヲ辿ルモノト謂フヘク現ニ有力ナル軍人中公衆ノ面前ニ於テ公然新國家建設ノ必要錦州政権撲滅ノ遂行ヲ公言シテ憚ラサル者鮮カラス甚タシキニ至リテハ中央ニ於テ出先ノ方針ヲ遮ルニ於テハ一律軍籍及国籍ヲモ脱シ新國家建設ニ向フヘシト極言シ現ニ本三十日開催ノ筈ナル全滿時局連合会ノ議題中ニモ「新獨立國家ニ参加ノ件」アリ風聞スル所ニ依レハ之カ真意ハ在滿邦人何レモ日本国籍ヲ脱シ新ニ日本ノ勢力下ニ建設サルヘキ日、満、鮮、蒙、露ノ五族共和国ニ参加スヘシト云フニアリ右ハ一見荒唐無稽ノ感アリト雖モ事變發生以來ノ事例ニ徴スルニ少クトモ此意気込ミハ強チ一笑ニ付シ難キモノアリ

三、由此觀之今回ノ錦州方面出動ハ政府ノ機宜ナル御措置ニヨリテ阻止セラレタリト雖モ裏ニ哈爾賓進兵不能トナリタル後形ヲ変ヘテ遂ニ齊齊哈爾進出トナリタル事例ト同様今回ノ御措置モ今後ニ於ケル再出動ノ絶無ヲ保証シ

難ク支那軍ノ閑内撤退実行セラレサル限り機会アル毎ニ否自ラ求メテ機会トロ実トヲ造リ何處迄モ当初ノ計画

実行ヲ計ラントスヘキハ極メテ明瞭ナリ而モ仮令錦州地方一帯ニ於ケル東北軍カ我方ノ希望ノ通愈閑内ニ撤退スルニ至ルトスルモ同地方ノ行政力依然旧東北政権ノ下ニ

アル限リニ於テハ兵力ノ背景ナキ結果甚シク其勢力ヲ減殺セラルヘキハ推察ニ難カラサルモ所謂新國家建設ノ見地ヨリセハ依然一ノ障碍ヲ為スモノト言フヘク從テ之ヲ排除シ撤兵地域ニ於ケル行政ヲ奉天新政権ノ下ニ隸属セシムルカ為之力復返リ又ハ抱込策トシテ今後有ラユル策謀ノ用ヒラルヘキコトハ事變以後幾多ノ事例ニ照シ略疑ヲ容レサルモ斯ノ如キハ元來出先ノ軍限リニテ敢行スヘキモノニアラサルハ勿論ニシテ滿蒙ノ将来乃至時局收拾ニ対スル帝国政府ノ根本方針ノ如何ニ応シテ割り出サルヘキモノナルヲ以テ根本方針ト一括シテ予メ御考慮相成

### 以上宣伝ナランモ御参考迄

北平、天津、濟南、奉天済

77 昭和6年11月30日

在北平永津(比佐重)公使館付武官輔佐  
官より  
二宮參謀次長宛(電報)

### 中国軍の錦州撤退、山海關集中に関する情報について

11月30日前發  
11月30日後着

北平第一六五号(秘)

張學良ハ日本軍トノ衝突ヲ避難スヘク既ニ錦州一帯ノ奉天軍ニ撤退ヲ準備シ山海關付近ニ集中方ヲ命シ一方我ニ対シテ無抵抗ノ意志ヲ表示シ他面國際間ニ和平ノ誠意ヲ披瀝スルコトシ山海關付近ニ在ル二箇旅ノ兵力ハ之ヲ榮臻ノ指揮下ニ置ケリト  
尚対日和平的態度ヲ執ル為蔣介石ノ北上延期ノ請願ニ赴キシ万福麟ハ其ノ目的ヲ達シ近ク帰燕ノ由  
関東、天津、上海、濟南スミ

置クノ必要アリト信ス委細林總領事ヨリ御聽取ノコトト存スルモ卑見何等御参考迄

76 昭和6年11月30日

在上海田代(院一郎)公使館付武官より  
二宮參謀次長宛(電報)

### 第三國武官の錦州方面視察に関する新聞報道

について

11月30日後發  
11月30日後着

支第九五七号(秘)

北平十一月二十九日發国民通信社電報トシテ當地外字紙及支那紙ハ左ノ如キ記事ヲ掲載シアリ

遼寧省主席代理米春霖並東北邊防軍參謀長宋鑑ヨリ發セル錦州電報ニ依レハ英、米、仏等ノ公使館付武官ハ錦州ニ於ケル日支兩軍ノ行動ヲ視察シタル結果支那軍カ對敵行為ヲ確認セリ又英國「オブザーバー」カ錦州付近ヲ視察セルハ第二回目ナルカ彼モ亦第一回ノ視察ト毫モ變化ナキ旨報告セル由尚獨逸公使館參事官ハ二十六日錦州ニ到着シ目下同地ニ滯在中ナリ

### 遼西進出部隊の前進停止に関する陸軍省声明

陸軍省声明

十二月一日

過般遼西ニ進出セル閑東軍一部隊ノ前進ヲ中止シテ遼河以東ニ配置セシコトニ關シ之ヲ以テ米國ノ干渉乃至脅威ニ依ルモノナリト推断シ或ハ憤激シ或ハ當局ニ対シ忠言ヲ寄スルノ士頗ル多シ國民熱誠ノ逆ル所當ニ其所タリ然レトモ右推測ハ全ク事實ニ反スルモノニシテ帝國陸軍ハ斷シテ他ノ掣肘就中他國ノ干涉ニ依リ行動ヲ二、三ニスルモノニアラス抑々今次閑東軍ノ一部カ遼西ニ進出セル所以ノモノハ天津ニ於ケル駐屯部隊並同地六千ノ居留民危急ノ報ニ接シ万ノ救援ヲ準備センカ為遠ク齊齊哈爾方面ニ在リシ閑東軍主力ヲ奉天付近ニ集結スルノ処置ヲ講スルト共ニ取敢ヘス大凌河以東ニ活動ヲ開始セル錦州軍並其使嗾ニ依ル大馬賊集團ニ対シ一部兵力ヲ行動セシムルノ必要ニ基キ閑東軍カ奉天付近ノ一部隊ヲ該方面ニ派遣シタルニ過キス然ルニ之ヨリ先支那側ニ於テ錦州付近ノ支那軍ヲ閑内ニ撤退スルノ意アルヤノ情報ヲ得アリタルト且天津方面亦小康ノ状ヲ呈スルニ至リシトニ鑑ミ參謀總長ヲ指示ヲナシ同軍ノ行

動ニ憑拠ヲ与ヘ関東軍司令官ハ右指示ニ基キ同日午後三時三十分西進部隊ノ前進停止ニ閣スル部署ヲナシタルモノナリ所謂米国國務卿ノ声明トシテ伝ヘラレタル報道カ二十八日午後東京ニ到達セル時日ト対照スルモ関東軍ノ行動ハ何等右ト関連ナキコト明ラカナリ  
要スルニ帝国軍ハ素ヨリ国策ニ順応シテ行動スヘキモ  
大元帥陛下ノ大命ニ拠ルノ外断シテ何モノノ干涉掣肘ヲモ受クヘキモノニアラス是レ我軍建軍ノ本義ニシテ亦不磨ノ鉄則タリ若シ夫レ支那軍ニシテ閑内撤退ヲ実行セス暴戾不信ノ行為ヲ敢テシ満鉄沿線治安秩序破壊ノ策謀ヲ反覆スルニ於テハ自衛上錦州方面ニ対シ所要ノ行動ニ出ツルコトアルヘキハ素ヨリ覚悟スル所ナリ

79 昭和6年12月1日

在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

## 中国軍の大凌河以東兵力増加状況に関する陸

## 軍情報について

奉天 12月1日後発  
本省 12月1日後着

第一四四〇号(暗)

## 長の談話について

12月1日後発  
12月2日前着

## 第五五号(極秘)

## 当地極東課長談要旨

一、北支那唐山ニハ英國鉱山アリ若シ同地方ニ騒乱起ラハ

英國ハ出兵ノ已ムナキニ至ルヘキモ英國ハ事変ノ禍中ニ

入ルヲ欲セス、唐山地方カ平静ニ終始スルヲ切望ス

二、錦州ニ出張セルソーンヒル大佐ヨリ昨日到着セル報告

ニ依レハ同地支那軍ハ士氣阻喪シ日本軍ノ攻撃シ来ラサ  
ランコトヲ願ヒアリテ前進準備等ヲ認メス、日本軍ノ攻  
撃実現ノ際ニハ恐ラク大ナル抵抗ナク潰走スヘシトノ觀  
察ナリ

三、巴里ノ英代表セシルノ報告ニ依レハ交渉ハ円滑ニ進涉

中ニシテ全然有望ナリ、理事会ハ大事件ノ起ラヌ中ニ速  
ニ問題ヲ片付ケントシテ急キツアリト、故ニ日本ニ都  
合良キ現況ニ於テ事ノ起ラサルコトヲ望ム四、在支米公使ノ活動ハ其後止ミタルモノノ如ク英公使ノ  
意見モ近頃穩健トナリ来レリ

連盟宛貴電第二六七号後段ニ関シ

陸軍側ヨリノ通報ニ依レハ遼西方面出動ノ我部隊満鉄沿線ニ帰還スルヤ二十九日朝以来錦州方面ノ支那軍ハ大凌河以東ニ漸次兵力ヲ増加シツツアリ其状況左ノ通り

(イ)錦州、打虎山間列車ノ運行頻繁ニシテ正午ヨリ午後二時迄ニ於テ東行列車七、西行列車二アリ

(ロ)白旗堡ニ歩兵三百砲若干門ヲ現認ス

(ハ)打虎山ニ歩兵約千名砲若干アリ

(二)溝帮子ニハ砲一四、五門歩兵五、六百ヲ目擊スルモ猶多數アルモノノ如シ

(三)打虎山北方鎮安駅ニ砲ヲ有スル騎兵約千名アリ

(イ)新民、巨流河間ニ於テ敵ノ別働隊ノ為我電線切断セラレ

又我後方ニテ列車ノ運行妨害セラレ我機関車脱線ス

連盟事務局長、在米大使、在支公使、北平、廣東、南京ヘ

転電セリ、連盟事務局長ヨリ在露及在欧各大使ヘ転電アリ

タシ

80 昭和6年12月1日  
在英國本館(雅晴)大使館付武官より  
二宮參謀次長宛(電報)

## 錦州の中国軍動静等に関する英外務省極東課

第一四四一號(暗)

奉天 12月1日後発  
本省 12月1日後着

五、「タイムス」ハ其後漸次論調ヲ変ヘタルモ尚保守党新聞ノ如クナラス最近主筆次席ニ会ヒ在満日本軍隊中沿線外ニ在ルモノハ専ラ匪賊ニ対スル警察任務ニ服シアルニ過キスシテ軍事占領ニ非サルコトヲ説明シ同人モ納得セシ如クナルヲ以テ同紙今後ノ論調ニ注意シツツアリ

81 昭和6年12月1日  
三宅閣東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛(電報)

## 錦州方面中国軍兵力の増加に関する情報につ

いて

12月1日後発

(イ)関第八一号(其一、二)(秘)

一、諸情報ヲ綜合スルニ錦州方面ノ敵ハ二十七日來大凌河

以東ノ地区ニ兵力ヲ増加セル儘減退ノ模様ナク其兵力ハ概々歩兵二旅、騎兵一旅、砲兵一團ト推定ス、而シテ二十九日錦州以東北寧線ニ在リシ列車數ハ十二列車ニ過キ

サリシモ三十日ハ二十一、二列車ニ増加シ兵員ノ大部ハ

列車生活ヲ行フモノノ如ク判断セラル、列車ノ多クハ機関車ヲ有セス主トシテ打虎山、溝帮子、錦州(錦州ニハ

東向ノ三列車ノミニニ在リ

二、溝帮子南側付近ニ高射砲陣地ヲ構築中ナルカ如ク又錦州ニ短波無電台（呼出符号X、T、O、ニシテ河北省大名ニ在リシモノナルカ如シ）ヲ増加セル兆アリ

三、新民付近ニ於ケル調査ニ依レハ敵ノ正規兵ハ巡警ノ服装ヲナシ公安隊ニ混入セシメ置キシコト確實ニシテ将来若錦州付近ヲ中立地帶トナシ敵方ノ行政権ヲ認メテ公安隊ヲ存置スル場合必スヤ此ノ如キ処置ニ出ツヘク注意ヲ要スルモノト認ム

北平、天津、朝鮮、濟南、上海、哈市スミ

82 昭和6年12月(2)日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 錦州方面中立地帶設置案に関する関東軍の意

見について

奉天  
本省  
12月2日前着

第一四四五号（暗）

錦州方面中立地帶設置案ニ閑シ関東軍ヨリハ中央ニ対シ（一）  
支那軍撤退後行政権カ南京政府旧東北政権又ハ新京津政権

83 昭和6年12月3日 武内天津軍參謀長より  
二宮參謀次長宛（電報）

#### 山海關付近中國兵の対日態度悪化について

天第四一一号（其一—三）（秘）  
12月3日後発

84 昭和6年12月3日 在北平矢野參事官宛（電報）

#### 錦州方面中立地帶設置問題に関する張學良との 交渉促進について

別電 同日幣原外務大臣より  
日本出先官憲・錦州中國地方官憲間の地方的暫行弁法案  
貴電第六九四号ニ閑シ

第一一二三号（暗、大至急、極秘）  
錦州問題  
本省  
12月3日後発

山海關付近ノ支那軍ノ対日態度稍々悪化ノ兆アリ又最近軍隊ヲシテ付近海浜ニ歩哨ヲ配置シテ日本陸海軍ノ上陸ヲ監視セシムル等ノ行動アリ依テ同地守備隊長ハ憲兵所長ヲ伴ヒ公安局長ニ抗議スヘク城門ヲ入ラントスルヤ支那警戒兵數名ハ之ヲ包围阻止シ支那兵、人民人山ヲ築キ威嚇的態度ニ出テ殊ニ當長ハ敵対言辭ヲ弄スル等頗ル不穩ノ形勢トナル我守備隊長ハ旅長何柱國ニ至急臨場ヲ要求シ現状ヲ維持セリ約三十分後旅長來場シタルヲ以テ守備隊長ハ此有様ヲ何ト見ルヤト詰問ス依テ旅長ハ現場ニ於テ指揮官ヲ五回殴打叱責ノ上両名ヲ引キ連憲兵分遣所ヲ來訪セルニ就キ隊長ハ左記四項ヲ承認スルコトヲ要求セルニ旅長ハ直ニ遺憾ノ意ヲ表シ我要求全部ヲ容レタリ依テ我方ハ嚴ニ将来ヲ警告シ先ツ事件ヲ解決シ今後彼等ノ誠意ノ有無ヲ監視スルコトトセリ軍ハ左ノ諸案ヲ承認セリ

左記  
一、指揮官ヲ免職シ當長ヲ処分スルコト  
二、當長、指揮官ヲシテ謝罪セシムルコト  
三、隸下一般ハ嚴ニ将来ヲ戒シムルコト  
四、処分ノ結果ヲ明記セル旅團長ノ謝罪文ヲ提出スルコト

ノ手ニアルコトヲ認ムルハ満州ノ一角ヲ分離スルモノニシテ今後満州新政権問題解決上ニ禍根ヲ貽ス（二）支那側ニ於テハ満州ヲ支那本部ヨリ切り離スコトヲ好マス連盟其他第三國ノ手ニ依リ之ヲ防止セントノ方針ナルカ如ク将来京津地方ニ於ケル事態ノ如何ニ依リ万一般東軍トシテ行動ノ必要生シタル場合ニ際シ軍ノ行動ヲ拘束スルノ虞アリ等ノ理由ニ依リ中立地帶設置ノ場合ニハ其地域ヲ山海關瀋州間（但シ秦皇島ヲ除ク）トスヘキコトヲ進言セル趣ナルカ本件ハ新政権問題ニ影響スル處多ク時局收拾ニ對スル政府ノ全般的御方針ト一括慎重ノ考慮ヲ用ヒラルルノ要アリト認メラル

支、北平、天津へ転電セリ

就テハ貴官ハ至急学良ニ面会ノ上所謂錦州政府カ同地方ニ

多数ノ軍隊ヲ集中シ且敗残兵馬賊等ヲ別働隊トシテ満州ノ治安ヲ撲滅シ又ハ日本軍ヲ挑発スルカ如キ事態ノ継続スルコトハ我方トシテ堪エ難キ所ナルト共三満鐵沿線ニ接近セル錦州ニ前記ノ如キ策動ノ根源存置セラルルコトハ同方面ニ於ケル日支両軍ノ衝突ヲ有効ニ予防スル所以ニ非ル旨ヲ篤ト説示ノ上冒頭貴電ノ通り学良ニ於テ本件ニ付異議ナキ以上ハ未葉ノ問題ニ拘泥スルコトナク速ニ〔錦州ヨリ山海关ニ至ル地域ニ於テ単ニ其地方県行政機関（地方警察ヲ含ム）ヲシテ執務セシムルニ止メ錦州付近及其以西ノ全軍隊ヲ山海關以西ニ撤退スヘク又右県行政機関以外ノ一切ノ政治及軍事機関ハ前記策動ノ根源ト目セラレ居ルニ顧ミ之亦右軍隊ト共ニ山海關以西ニ撤退スルコト（支那側ニ於テ右撤退ヲ実行スルニ於テハ我軍ハ北支地方ニ於ケル帝国軍ノ生命財産ノ安固又ハ同地方ニ於ケル帝国軍ノ安全力危殆ニ瀕スルカ如キ緊急重大ナル事件ノ發生セサル限り小凌河以西ニ進出セス）及〔撤兵地域其ノ他本件実行ノ細目ニ付テハ現地ニ於テ地方的ニ日支出先官憲ノ間ニ協定スヘキコトノ二項目ニ付同意ヲ与ヘ以テ同地方ノ和平維持ニ資セムコトヲ懇意シ且至急回答方ヲ求メラレ度尚ホ此ノ際錦州地

ノ間ニ於ケル支那地方官憲トノ間ニ別紙ノ如キ協定ヲ遂クルコト  
 (別紙)  
 日本ノ出先官憲ト錦州ニ於ケル支那ノ地方官憲トノ間ノ地方的暫行弁法案

一、錦州付近ニ駐屯スル支那軍隊ハ本弁法成立ノ日ヨリ最短期間（我方含トシテハ一週間以内）内ニ全部山海關付近ノ長城以西ニ撤退シ爾後山海關付近ノ長城以東ニ進出セサルモノトス  
 二、在滿日本軍ハ北支方面ニ於ケル帝国臣民ノ生命財産ノ安固及同方面ニ於ケル日本軍ノ安全ヲ危殆ニ瀕セシムルカ如キ緊急重大ナル事態發生セサル限り錦州付近ヲ流レル小凌河以西ニ進出セサルモノトス  
 三、小凌河口ヨリ同河ニ添ヒ熱河省境ニ達スル線ヨリ山海关付近ノ長城ニ至ル奉天省ノ地域内ニ於ケル一般行政ハ同省ノ当該地方県行政機関ニ於テ之カ任ニ当リ爾後支那側ハ如何ナル意味ニ於テモ右地域ヲ根拠トシテ満州ノ治安ヲ撲滅スルカ如キ策動ヲ為ササルモノトス  
 四、該地域内ニ於ケル治安ハ當該地方ノ警察隊ニ於テ之カ

方ニ於ケル日支両軍ノ衝突ヲ避ケルハ学良自身ノ利益ノ為ニ最大ノ急務ナルコト及本件ハ錦州地方ニ永久ノ事態ヲ確立セムトスルモノニアラサルヲ以テ学良限リ地方的問題トシテ決行シ得ヘキモノナルコトヲ往電第一〇七号及往電合第一七四三号ノ趣旨ヲモ参酌シ充分ニ徹底セシメラレ度尙ホ我方ニテハ我方出先官憲ト支那側地方官憲トノ間ノ話合ハ大体別電第一一四号ノ「ライン」ニテ進メシメ度内意ナルモ右ハ差当リ貴官限リノ含ニ止メ学良ニ対シテハ之ヲ洩サレサル様致度  
 別電ト共ニ支、奉天、天津、南京、廣東ニ転電セリ  
 別電ト共ニ米、連盟ニ転電シ連盟ヲシテ在欧各大使ニ転電セシメタリ  
 (別電)  
 第一一四号（暗、大至急、極秘）  
 本省 12月3日後發  
 錦州問題  
 別電  
 錦州方面ニ於ケル日支両軍ノ衝突ヲ避ケルコトニ付日支両國政府間ニ主義上ノ一致ヲ見タル上ハ日本領事及軍參謀ト協定ス  
 第五項ノ日本軍代表者ト第三項ノ県當局トノ間ニ弁法ヲ協定ス  
 五、本協定実施ニ関シ支那側トノ連絡ノ為錦州ニ日本軍代表者ヲ派駐ス  
 六、本協定ハ満州問題ノ総括的決定ヲ見ル迄ノ地方的暫行弁法トス

85 昭和6年12月4日 在北平矢野參事官より

整原外務大臣宛（電報）

### 張学良との会見内容漏洩について

北平 12月4日後發  
 本省 12月4日後着

第七一三号  
 貴電第一一三号三閑シ  
 (八四文書)

数日前本官学良ト会見ノ際往電第七〇四号ニ閔シ外間ニ種ノ噂生セル為南京ヨリ三回詰問ノ電報ニ接シ頗ル困惑シ居ル旨零シ居タルカ大毎特派員ハ三日既ニ本社ヨリ本件交

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

涉地ハ北平トナルヘキニ付内容探知方嚴命ニ接セル由ニモアリ旁本件外間ニ洩レサル様充分御配慮相顧度シ連盟ヨリ在歐米各大使へ転電アリタシ

支、奉天、天津、南京、廣東、連盟へ転電セリ

~~~~~

87 昭和6年12月4日 在パリ沢田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)
閔外北寧線中國軍配置状況に関する仏国理事
通報について

支、奉天、天津、南京、廣東、連盟へ転電セリ

~~~~~

本省 12月4日後發 パリ 12月5日前着

86 昭和6年12月4日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)  
錦州および大凌河以東の中国軍動静について

12月4日後發 12月5日後着

第一四六六号(平)

(軍部情報)

錦州及大凌河以東ノ支那軍ハ依然戰備ヲ嚴ニシ居レリ最近騎兵第六旅ハ關内ヨリ錦州ニ到着騎兵第三旅ハ新民ニ前進ヲ開始セルモノノ如ク又歩兵第二十旅ノ一部ハ彰武(Chang-wu) 及法庫(Fa-ku) ニ入り漸次奉天包囲ノ姿勢ニアリ

転電先、在支公使、北平、天津、連盟、在米大使連盟ヨリ在欧各大使へ転電アリタシ

数千二百

六、營口溝帮子鐵道ニ沿ヒ三中隊ヨリ成ル歩兵一大隊、溝帮子、盤山間南方ニ一中隊及装甲列車一車、兵員總數八百

七、溝帮子、打虎山間ニ一大隊及青堆子ニ一中隊、打虎山ニ三中隊、装甲列車二車、兵員總數八百

八、打通線沿線ニ独立騎兵一旅、兵員總數二千

以上總數二万七千八百、内戰鬪員一万六千乃至七千

尚右配置ハ歩兵一旅、工兵一大隊及騎兵一旅ヲ除ク外ハ九月十八日前ノ常備配置ニ等シク各衛戍地ニ於ケル狀況當時ニ異ナラス司令官モ何等特別命令ヲ受ケ居ラス在歐米各大使、在支公使、奉天ニ転電セリ

88 昭和6年12月4日 三宅關東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛(電報)  
張學良の各地馬賊操縱ぶりおよび錦州覆滅の必要について

12月4日後發 12月4日後着

関第九一号(其一十五)(秘)

報参照)

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

以上ノ如ク四洮線方面敵ノ別働部隊ハ逐次ニ勢力ヲ増大シアリ恐ラクハ黒龍江省軍乃至錦州方面ト策応シ機ヲ見テ我カ嫩江部隊ノ後方ヲ遮断シ且我軍ノ打通線南下ヲ阻止セント企図シツツアルモノト判断セラル  
二、遼陽海城西方地区ノ別働隊ハ十一月二十四日我軍ノ討伐ニヨリテ遼河西方地区ニ退避セルモ最近又又小数宛遂次東方ニ進出シツツアリ  
三、又安奉線方面最近別働隊ハ勢力ヲ恢復シ徐文海及顧老面ノ数百名アリテ大部ハ逐次遼陽海城太原満鉄線東方地区ニ移動セントスルノ徵アリ  
又満鉄西方地区ノ別働隊ト策応シ我カ後方ヲ遮断ノ計画ヲナシアルニ非スヤ  
以上並黒龍江軍及錦州方面敵情ニ鑑ミル場合ハ東北軍ハ統一セル方針ノ下ニ我カ軍主力カ錦州攻撃ノ場合又ハ敵カ閔内ヨリ増援ヲ得タル場合之等別働隊ヲ策動セシメ以テ我カ軍ノ殲滅ヲ期スルモノノ如シ然ラサルモ我カ勢力圈内ヲ絶エス擾乱セシメ以テ一般民心ノ動搖離脱ヲ図リツツアルモノノ如ク之等匪賊ニ兵器弾薬ヲ支給シ操縦シアルハ支那軍ナリ而シテ敵ハ毫モ錦州ヨリ撤退スル意志ナシ故ニ我カ軍

ノ後方保安並一般治安維持上至急錦州ヲ覆滅スルノ要アルモノト認ム

北平、天津、上海スミ

89 昭和6年12月5日 在北平矢野參事官より  
北平  
電  
北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州政府撤退問題に関する張学良との会談に

ついて

北平 12月5日前発  
本省 12月5日後着

第七一六号(極秘)  
貴電(八四文書)  
第一一三号ニ閑シ

四日午後十時学良ト会見シ

一、先ツ本官ヨリ冒頭貴電ノ御趣旨ヲ篤ト説明セル處学良ハ直ニ唯今御説明ノ貴提案ハ先回ノ案ト大ナル相違アリ錦州政府ノ閨内撤退ハ先回ノ案ニハ無カリシニハ非スヤト云ヘルニ付本官ハ先回ノ案ニハ錦州政府云々ノ文字ハ無カリシモ趣旨ハ地方政府ノミヲ残シ撤退スヘシトナスマニシテ錦州政府モ当然撤退セラルヘキモノナリト説明セリ

言ヘハ日本側ニ何等カ隠レタル目的ニテモアルニ非スヤト思考ス

(答) 日本側ニ何等隠レタル野心無ク右ハ既ニ日本軍力奉天方面ニ撤退セル実状ニ見テモ明カナリ

(ハ)(問) 日本カ誠意ヲ以テ弁法実行方ニ付目下錦州方面ニ在ル外国武官ノ利用方如何

(答) 一般満州問題ト同様本件ノ如キモ日支両国間ニ直接交渉ヲナスヘク第三者ノ介入又ハ保障等不必要ナルハ先回御話セル通りナリ

(二)(問) 自分ノ不審ニ堪ヘサルハ錦州政府撤退後ノ各地県政府ノ帰属如何ナリ

(答) 次テ学良ハ自分トシテハ此ノ際貴方ト胸襟ヲ開キ両國ノ為尽シ度シ思フモ之カ為メニハ貴方ニ於テ自分ニ之ヲ為シ得ル様仕向ケラルコトヲ要ス此ノ際只一方的ニ貴方カ利益ノミヲ得自分ハ東三省全部ヲ失フコトモナラハ貴方ヨリハ敵視セラレ国民ヨリハ國賊扱ヒヲ受ケ自分ノ立場全然無キニ非スヤト言ヘルニ付本官ハ本件ハ前述ノ如ク地方的問題ニシテ当然副司令ニ於テ主持セラルヘキモノナリ我方ト妥結セラル場合ニハ多少国民ノ批

(1)(問) 先回御話セル匪賊討伐ノ為軍隊ノ一部ヲ残留スルコトニ付貴意如何

(答) 右ハ警察力ニ係ルヘク警察官ノ數等ハ彼我細目協定ニテ取極メラルヘシ

(2) 三、我方案ニ関シ、問(学良) 答(本官)

(口)(問) 日本兵撤退ニ付帶スル条件ニ付テハ自分ハ率直ニ

評ハアルヘキモ一面之ニ依リ副司令ノ北支ニ於ケル地位ノ安固ヲ計リ得ヘキニ反シ若シ然ラサル場合ニハ前回御話セル通り此ノ案力問題トナラサル以前ニ比シ事態ノ悪化計リ知ルヘカラサルモノアリ副司令ハ國民ノ非難ヲ受トハ副司令ノ為ニ絶対ニ必要ナルヘク幣原大臣モ此等ノ点モ深ク考慮セラレ居ル次第ナリト云ヘルニ学良ハ更ニ貴官本タノ御來訪ハ單ニ錦州問題ノミノ為ナリヤト繰返シ問ヘルヲ以テ本官ハ然リト答ヘタルニ学良ハ何トナク失望ノ色ヲ現ハセリ同人ノ口吻ヨリ察スルニ此ノ際日本政府ヨリ学良ノ地位ヲ相當認メラレ本件ヲ切掛ニ直接交渉ノ端緒ヲモ開カルルコトヲ希望シ居ルヤニモ見受ケラレタリ

五、終リニ今タハ此ノ辺ニテ話ヲ止メ再ヒ会談スヘキ旨及本会見ノ次第ハ外間ニ對シ一切洩ササルコトニ打合セ引取レリ

会見ノ大要以上ノ如クナルカ本官ノ観察ニ依レハ学良ハ我方ニテ何トカ同人ノ将来ニテモ考慮シヤラサル限り此ノ際

(別電)

第一一七号(暗)

錦州問題促進に關する陸軍の交渉方針について

本省 12月5日前發

90 昭和6年12月5日 幣原外務大臣より  
在北平矢野參事官宛(電報)

錦州方面中立地帯設置に關する陸軍の交渉方針について

別電 同日幣原外相より矢野參事官宛第一一七号  
右交渉方針

第一一六号(暗)

錦州問題

往電第一一三号ニ關シ

本省 12月5日前發

日支出先官憲間ニ本件話合ヲ為ス場合ノ我方方針トシテ陸軍中央部ヨリ閔東軍ニ対シ別電第一一七号ノ通リ電報セル趣ナルカ右ハ結局往電第一一四号ト同趣旨ニシテ且之ヲ其ノ儘条件トシテ支那側ニ提示スル次第ニ非サルニ付御含迄在南京公使、奉天、天津、廣東ニ転電セリ

(別電)

第一一七号(暗)

錦州問題

本省 12月5日前發

91 昭和6年12月6日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

錦州方面中立問題促進に關し張學良を説得方針  
湯爾和に依頼について

本省 12月6日後着

北平

第一一六号ニ關シ

第五二〇号(暗、極秘)  
(<sup>(1)</sup>八九文書)

五月湯爾和ヲ往訪シ

一、山海關付近長城ノ線以東ノ地域ニハ當該省ノ縣行政機關(地方警察機關ヲ含ム)ヲ執務セシムルニ止メ爾他一切ノ政治及軍事機關並ニ全軍隊ヲ交渉成立ノ日ヨリ約一週間以内ニ山海關付近長城以西ニ撤退シ爾後如何ナル支那軍モ山海關付近長城以東ニ進出セス又該地域ヲ本拠トシ支那側ニ於テ滿州ノ治安ヲ攪乱スルカ如キ何等ノ行動ニモ出テサルコト

二、在滿日本軍ハ北支那方面ニ於ケル帝國臣民ノ生命財產ノ安固又ハ同方面日本軍ノ安全ヲ危殆ニ瀕セシムルカ如キ

国論ヲ押切り相当ノ責任ヲ以テ本件ニ当ルノ意志ナキヤニ見受ケラル明日以後更ニ湯爾和等ニ側面運動ヲ試ミル筈ナルカ政府ニテハ飽迄錦州政府撤退ヲ主張セラル意志ナリヤ又地方新政府ノ帰属如何等ニ付何分ノ儀御回示アリ度ク尚若シ学良ノ将来ニ對シ帝國政府ニ於テ何等カ好意的考慮ニテモ加ヘラルヘキコト判明セハ学良ノ説得上有効カトモ思ハル

連盟ヨリ在歐米各大使ヘ転電アリタシ

公使、南京、哈爾賓、天津、廣東、連盟ヘ転電セリ

説得方依頼セル処

二、湯ハ本件ニ関スル幣原大臣ノ御苦心ト御好意ハ自分ノヨク諒解スル處ナリ又本件ハ学良自身ノ為ヨリモ学良自ラ処理スヘキモノニシテ本件ノ如キヲ南京ニテ片付ケルコトハ支那現在ノ国情上不適當ナルノミナラス殆ト不可能ニ近キハ自分等充分承知シ居レリ学良自身ハ元來聰明ノ人物ニ付此事モヨク承知シ居レルカ何等カ適當ノロ実見当ラサル迄ハ責任ヲ以テ之ニ当リ得サル立場ニ置カレアリ元々学良ハ日本側トノ衝突ヲ好マス現ニ數日前自發的ニ錦州方面ノ兵ヲ撤退シ實行ニ取掛レル處偶々

錦州方面ニ對スル日本軍ノ策動説伝ハリ一方南京政府ヨ

リ現在ノ政局上右ノ如キ消極的態度ヲ執ルハ時宜ニ適セストノ密令ニ接シ急ニ取止メタリ尚自分ノ内密申上ケタキ満州問題ノ根本政策ニ付昨日万福麟、張作相、王樹幹、王樹常及自分等協議セルカ大体ノ意見ハ此際何トカ錦州問題ノ如キ小問題ノミナラス全般ノ問題ニ亘リ日本側ト話合出来ルコトヲ希望スルニアリタリト述ヘタルニ付

三、本官ハ錦州問題其ノモノハ見様ニ依リ小ナル地方的問題ナルヤモ計ラレサルカ之カ成否如何ハ極メテ重大ノ影響出來ルコトヲ希望スルニアリタリト述ヘタルニ付

響アリ幣原大臣ノ御苦心モ茲ニ存ス右ハ学良ニ於テモ慎重考慮セラルルヲ要スト言ヘルニ湯ハ貴意ノ次第早速学良ニ篤ト説明スヘク貴官モ更ニ学良ニ面会セラレ率直ニ意見ヲ交換セラルル様致度シト答ヘタリ

支へ転電セリ

92 昭和6年12月6日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

遼西方面東北軍の閨内撤退の際の駐屯地域に

ついて

12月6日後発  
12月6日後着

第六六八号(暗)  
(八四文書)  
大臣発北平宛電報第一一三号ニ閨シ

遼西方面東北軍ノ閨内撤退ニ際シテハ我方軍民ト衝突ノ虞ナキ地帶ヘ之ヲ引揚ケシムル様御手配相成様致シ度シ為念支、北平、奉天ニ転電セリ

93 昭和6年12月6日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

張學良の下野等に関する岩間徳也・張作相密

### 談について

#### 第六六九号(暗、極秘)

岩間徳也、片谷伝藏ノ両名ハ本庄司令官及内田總裁ノ内命

ヲ受ケ十一月二十七日密ニ來津シ二十九日張作相ヲ北平ヨリ呼寄セ英租界「アスターハウス」旅館ニ於テ五時間ニ亘リ密議ヲ凝シ司令官ノ意図トシテ作相ニ下野ノ上奉天ニ帰リ東北独立自治ノ任ニ當ラレ度キ旨ヲ伝ヘ其決意ヲ質シタル処作相ハ大要左ノ通真意ヲ打明ケタル趣ナリ

一、自分ハ最近北平ニ於テ王以哲、万福麟ト三名ニテ密議ノ上人心ヲ離レタル張學良ヲ下野セシムルコトニ内定シ次イテ華北八省ノ代表ト秘密會議ヲ開キ同様学良下野ニ

関フル方針ヲ打合セワラ南京ニ特派シテ蔣介石ノ諒解ヲ求メシメタル處蔣ニ於テモ何等ノ反対無ク從テ蔣ノ北上モ亦実現セサル筈ニテ学良下野ハ最早時間ノ問題ニ過キサル内情ニアリ

二、自分カ今日下野ノ上歸奉スルコトハ全東北軍ニ動搖ヲ来スヘキニ付自分ハ特ニ之ヲ差控ヘ居ル次第ナレハ日本

側ニ於テハ速ニ意見ノ一致ヲ計リ満州統制上ノ機会ヲ作

ルコトニ努メラレタシ

三、錦州ニハ自分ノ実子張廷枢カ旅長トシテ軍隊ヲ統率シ居ルモ日本ニ對シテハ絶対ニ無抵抗主義ヲ執ラシメ居ル

ニ付決シテ懸念セラレサル様致シタシ免ニ角適當ノ機會ニ於テ学良ヲ驅逐シ日本側ノ希望ニ依リ三省人民ノ安定ヲ計リタキ所存ナレハ特ニ日本側ノ援助ト諒解ヲ切望ス云々ト

因ニ岩間等ハ二日北寧線ニテ奉天ニ向ヒ作相ハ三日北平ニ帰任セリ

(右ハ作相トノ密議ニ介在セル当地大連汽船支店代表等カ極ク内密ノ含迄ニ當館員ヘ語リシ處ナリ)

支、北平、奉天ニ転電セリ

94 昭和6年12月6日 三宅閑東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛(電報)

奉天その他各方面の中國軍および匪賊の状況について

12月6日後発  
12月6日後着

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

関第一〇二号（秘）

一、本六日夕迄錦州並黒龍江方面敵情変化ナシ

二、奉天西方北寧線両側地帶並渾河西方地区ニ最近又々匪

賊現出シ来ル昨五日夜梯子ノ率ユル匪賊約千名奉天西方

約二十五粍黃大堡付近ニ現出掠奪ス之力為我力飛行隊本

六日其東側前（後）辺台付近ニテ約三百ヲ爆撃ス又奉天

西北方三十粍財落堡ニ約三百ノ馬賊現レ我等守備隊討伐

二向ヘリ

三、北寧線白旗堡付近四日修理完成五日列車開通セリ

北平、天津、朝鮮、濟南、上海スミ

95 昭和6年12月6日 勅原外務大臣より

在北平矢野參事官宛（電報）

錦州方面撤兵実行を張學良に懲懲方湯爾和に

申入れについて

別電 十二月七日幣原外相より矢野參事官宛第一二〇

号

右訓令

本省 12月6日後發

第一一九号（暗、極秘、至急）

本省 12月6日後發

第一一九号（暗、極秘、至急）

北平  
12月7日後發  
本省

北平  
12月7日後發  
本省

第七二四号（暗、至急、部外極秘）

貴電（九五文書）  
第一一九号ニ閑シ

迄ノ暫行的措置ニ過キサルト同時ニ當面ノ危機ヲ防止シ得  
ヘキ殆ト唯一ノ方法ニシテ此際之カ實現ヲ図ルニ非サレハ  
勢ノ赴ク所俄然事態ノ重大化スヘキハ遺憾ナカラ最早疑ヲ  
容レス本大臣カ之ヲ直言スルハ自分ノ觀測スル時局ノ真相  
ヲ率直ニ披瀝シテ張學良ノ考量ヲ求メムトスルノ外何等他  
意アルニ非ス而モ實際問題トシテ本件交渉ハ學良ニ於テノ  
ミ之カ應否ヲ決シ得ヘキ問題ナリ從テ輿論ノ反対トカ南京  
政府トノ關係トカニ一切拘泥スルコトナク一大決心ヲ以テ  
我方ノ申出ニ応スルコトハ如何ナル方面ヨリ見ルモ學良ニ  
取り最善ノ應急策ト思考ス本大臣ハ現下ノ事態力極メテ逼  
迫シテ苟モ躊躇スルコトナキヲ要スルト共ニ頗ル機微ナル  
モノアルニ鑑ミ本大臣ト湯爾和氏トノ平生ノ交誼ニ顧ミ率  
直ニ叙上ノ事態ヲ開示スル次第ナルヲ以テ其ノ辯篤ト御了  
承ノ上右ヲ學良ニ伝達シ同人ノ決心ヲ促ス様尽力アリタシ  
米、支ニ転電セリ

~~~~~

96 昭和6年12月7日 在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛（電報）

錦州方面中立地域設置問題促進に關し張學良
を説得方湯爾和に申入れについて

貴電（九五文書）
湯爾和ニ御面会ノ上本大臣ノ私的伝言トシテ別電第一二〇

号ノ趣旨ヲ申入レ結果回電アリタシ
別電ト共ニ連盟、在欧各大使、在米大使、在支公使ニ転電

セリ
別電ト共ニ連盟、在欧各大使、在米大使、在支公使ニ転電

（別電）

本省 12月7日前發

第一二〇号（暗、至急）

満州事變（錦州問題）

元來錦州方面撤退区域設置問題ハ顧維鈞ノ提案トシテ在本
邦仏國大使ヨリ本大臣ニ對シ正式申出アリタルモノニシテ
本大臣ニ於テハ我方内部ニ非常ノ困難アリシニ拘ラス万難
ヲ排シテ之ヲ受諾シタル次第ナル處右我方受諾後ニ至リ支
那側ノ態度一変シテ之ヲ立消ニ至ラシムルカ如キコトアラ
ンカ我國民及軍隊ノ憤慨ハ到底抑制シ難キニ至ルヘク其傾
向ハ最近歴然タルモノアリ或ハ張學良側ニ於テハ此際東三
省善後問題ノ内交渉ヲ開始シタキ意向モアルヤモ知レサル
モ現下ノ日支兩國ノ政情ニテハ差当リ實行不可能ナルノミ
ナラス元來錦州撤退問題ハ東三省問題ノ一般的解決ヲ見ル

南京ニ照会電報ヲ發セル次第ナリ又打明ケテ申サハ副司
令ハ日本側カ本件ヲ以テ山海關迄占領スル手段トシ居ル

ニアラスヤト多少疑ヒ居ルカ如シト述ヘタルヲ以テ

二、本官ハ本件ノ提起セラルニ至レル經緯ヲ第ト説明シ

幣原大臣ニ於テハ本件カ当初顧部長ヨリ提起セラレ而モ

同部長ハ副司令ト特別ノ関係アルニ鑑ミ充分成功ノ望ミ

アルモノトノ見込ヨリ万難ヲ排シテ之カ実現ノ為誠心誠

意事ニ当リ現ニ閏東軍ヲ奉天ニ撤退セシメタルハ同大臣

ノ非常ナル御苦心ノ結果ニ依ルモノニシテ日本側ニ於テ

本件実施ニ依リ中立地帯ヲ占領セントスルカ如キ意図ナ

キハ本官ニ於テ責任ヲ以テ確言シ得ル所ナリト力説セル

ニ湯ハ御趣旨ハヨク諒解セルニ付成否ハ請ケ合ヘサルモ

極力尽力スヘシト答ヘタリ

連盟ヨリ在欧米各大使ヘ転電アリタシ

在支公使、連盟局長ニ転電セリ

在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

97 昭和6年12月7日 錦州方面撤兵に関する張学良の意向について

北平 12月7日後發

本省 12月8日前着

第七二六号(暗、至急、部外極秘)

97 昭和6年12月7日 錦州方面撤兵に関する張学良の意向について

北平 12月7日後發

本省 12月8日前着

第七二六号(暗、至急、部外極秘)

ルルノミナラス中國ヲ誤リ更ニ将来是非提携セサルヘカラ

サル日本ヲモ尤モ困難ナル地位ニ陥ラシムヘシ故ニ此際輕

軽ニ辞職等ノ拳ニ出テラルコトナク日支両國ノ為將又副

司令自身ノ為決然蹶起セラレントヲ望ムト縷述シ王亦右

自分ノ意見ニ全然同意シ兩人ヨリ交々勧説ニ努メタル結果

副司令ハ沈思數刻ニシテ然ラハ此際直ニ自發的ニ錦州方面

ノ軍隊ヲ山海關迄撤退セシムルコトトン即刻実行ニ取掛ラ

シムルコトトスヘシトテ席上直ニ高紀毅ヲ呼ヒ至急列車ノ

準備方命シタリ

副司令カスノ如キ決心ヲ為スニ至レルハ全ク幣原大臣ノ誠

意ニ信頼シテノコトナリ尚

一、之ハ中國側撤兵ノ条件ト云フニ非サルモ當方ニ於テ斯

ク措置スル上ハ日本側ニテモ右誠意ヲ認メ新民府以西ニ

軍隊ヲ出動セサル様致度シ

二、錦州政府ノ撤退ハ全然問題ニナラス從テ日本側カ之ヲ

モ強制セラルナラハ話ハ纏マラサルヘシ

三、細目協定ハ若シ必要ナラハ秘密裡ニ協議スルヲ要ス若

シ本件撤兵カ日本ノ要求ニ依ルコト又ハ細目協定行ハレ

居ルコト等外間ニ漏ルルニ於テハ本件実行不可能トナル

惧アリト述ヘタリ

本官ハ兎ニ角御話ノ次第ハ至急幣原大臣ニ電報シ何分ノ指

令ヲ仰クコトトスヘキモ貴ト段々ノ御尽力ニ対シテハ不取

敢本官ヨリ深ク謝意ヲ表スト答ヘ置ケリ

就テハ本官此後ノ処置振電報アリタシ

連盟ヨリ在欧米各大使ヘ転電アリタシ

支、連盟ヘ転電セリ

三宅閏東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛(電報)

98 昭和6年12月8日 北寧線の運転状況および同線列車馬賊襲撃事件について

報について

12月8日後發

12月9日前着

関電第一〇九号(秘)

往電(五六文書)
九六文書
往電第七二四号ニ閏シ

七日午後三時湯爾和來訪シ今朝貴官ノ御帰リ後直ニ王樹常

ヲ伴ヒ学良ニ面接シ貴官御話シノ次第ヲ「メモ」ニ依リ其

儘詳シク説明シ尚自分(湯)ノ意見トシテ此際至急重大決

心ノ必要アルヲ力説セル處副司令ハ沈痛ノ面持ニテ実ハ昨

夕南京政府ヨリ此際各方面ニ對スル大影響ニ顧ミ撤兵ハ絶

対ニセラレサル様致度ク右ハ貴下ノ生存ニ閏スル重大問題

ナリトノ嚴重訓令ニ接セリ然ルニ一方日本側トモ至急何ト

力妥結セサレハ重大事件勃発ノ惧アリ進退茲ニ谷マリ自分

トシテハ此際辭職スルヨリ外途ナシト言ヒ放チ王ニ向テ辭

職ノ電案起草ヲ命シタリ依テ自分(湯)ハ之ヲ止メ副司令

ノ苦シキ立場ハ素ヨリ明白ナルモ副司令ノ地位ハ斯ク軽々

シク辞シ得ヘキモノニ非ス日支両國現下ノ危機ヲ除クヤ否

ヤハ副司令此際ノ措置如何ニ懸ル副司令ノ辭職ニ依リ目下

ノ危機カ去ル訣ニ非ス副司令ハ此際敢然両國ノ為適宜措置

セラルルヲ要ス之カ為副司令ハ國民ノ輿論乃至南京政府ノ

非難ヲ受ケラルヘキモ之ニ依リ日支間ノ危機去ラハ即チ男

子ノ本懷タルヘク世人ノ毀譽褒貶ハ棺ヲ覆フテ定マルヘシ

若シ本件カ成ラサルニ於テハ副司令自身絶望ノ地位ニ立タ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

長「スチール」ニ命令セリ
二、本八日午前十一時皇姑屯発山海関行列車午後一時頃新民白旗堡間ヲ通過中十二名ノ馬賊ニ襲撃サレ乗客全部掠奪ヲ受ケ運転課長「スチール」亦其難ニ遭ヘリ人員ニハ死傷ナカリシカ如シ

固持スルカノ二方法アルノミニシテ若シ後者ヲ執ランカ危機ハ更ニ拡大シテ全北支那ヲ戰時狀態ニ陥ラシムルニ到ル可シ」

關東、北平、上海、奉天スミ

99 昭和6年12月8日 武内天津軍參謀長より

二宮參謀次長宛（電報）

錦州中立問題に対する「北京天津タイムス」

論説について

12月8日前發
12月8日後着

天第四五三号

十二月一日以降当地英字新聞ニハ時局ニ關スル論説ヲ掲載セサリシカ十二月七日「ピイ、チイ、タイムス」紙ニ左ノ要旨ノ論説ヲ掲ケタリ

「施肇基及顧維鈞ハ日ヲ同フシテ辭職ヲ申出テ連盟モ支那ノ現状ヲ看破セシカ如シ支那カ一日モ早ク面子ヲ維持シ能ハサル事ヲ自覺セハ之ニ過キタル幸福ナシ此際支那ノ執ル可キ手段トシテハ猶予セス日本ト直接交渉ヲ為スカ錦州ヲ

100 昭和6年12月9日 在奉天森島總領事代理より

幣原外務大臣宛（電報）

中國軍の満鉄付屬地付近活動情況について

奉天 12月9日前發
本省 12月9日前着

第一五〇〇号（平）

連盟、在米大使宛貴電合第一〇五六号ニ閱シ

軍側調査ニ依ル張学良軍大凌河以東地区進出ニ伴フ別働隊ノ滿鉄付屬地付近活動情況大要左ノ通ニシテ十二月一日ヨリ七日迄一週間にニ合計九件ニシテ之ニ往電合第一〇五二号八日ノ分ヲ加フレハ十一件ニ上ル

一日湯岡子約百名、鞍山西方大孤山^(マヤ)約四十名、開原西南約五十名、五日奉天西方公太堡、機関銃ヲ所持セルモノ約三十名

六日公太堡数百名、奉天北方新城子駅付近約二百名、奉天

西方千辺台約三百名

七日牛心台約百名、前後二回來襲

巴里連盟ヨリ在欧各大使ニ転電請フ

転電先 大臣、在支公使、北平

101 昭和6年12月9日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

北寧線北平行列車匪賊襲撃情報について

12月9日前發
12月9日前着

第一五〇一号（平）

在米大使、連盟宛合第一〇五七号

北寧線新民府ト柳家溝ノ中間ニテ八日午後一時頃北平行ノ

列車ハ匪賊約十二名ノ襲撃ヲ受ケ乗客全部掠奪セラレ北平

鉄路運輸課長「スチール」モ丸裸ニセラレタル由

大臣、北平、天津、在支公使、新民府ヘ転電セリ

~~~~~

103 昭和6年12月9日 在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の中國軍の砲撃による被害について

營口 12月9日後發  
本省 12月9日後着

第一一〇号（暗）

102 昭和6年12月9日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

錦州偵察日本軍飛行機に対する中國軍の射撃について

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

- ルヲ以テ取調ヘタル處右ハ本日午前十一時半過キ我軍爆撃機二台大石橋ヨリ田庄台西北方曹家屯付近ニ至リ爆弾ヲ投下シ鐵道線路ヲ破壊シ帰来セルモノアルコト判明セリ尚本朝奉天ヨリ錦州偵察ニ赴キタル偵察機一台ハ同地ニテ機関銃ノ狙撃ヲ受ケ機関部ニ損傷ヲ蒙リ十一時四十分頃田庄台上空ヲ経テ漸ク大石橋ニ不時着陸シタル事實アリト  
支、北平、奉天、連盟ニ転電セリ
- 104 昭和6年12月9日 三宅閑東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛（電報）  
大凌河以東および遼河以西方面における中國  
軍の動向について
- 12月9日後発  
12月9日後着  
関第一一〇号（秘）
- 一、其後ノ調査ニ依レハ大凌河以東ニ進出セシ第二十旅及砲兵團ハ錦州ニ撤退セルコト確実、溝帮子以東北寧線ハ六百五十四團主力及騎兵第三旅ノ一部盤山以南營口支線ハ六百五十四團ノ一營警戒ニ任シツツアリ溝帮子、打虎山ニハ各二乃至四台ノ装甲車アリ
- 105 昭和6年12月9日 三宅閑東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛（電報）  
新城子西方の馬賊討伐および本溪湖付近の匪  
賊威嚇飛行について
- 12月9日後発  
12月9日後着  
関参第五三五号（要図参照）
- 新嘉子西方約六糠大孤家子ニ約百名ノ騎馬賊出現掠奪中ナリトノ報ニ接シ独歩二ノ第三中隊ハ十二月九日午前九時二十分討伐ニ向ヒタルモ馬賊ハ既ニ逃走中ナリシヲ以テ之ヲ北方ニ進撃セリ又本溪湖付近ノ匪賊ニ対シ本九日威喝飛行ヲ実施セリ
- 敵ノ損害遭棄死体八、馬四ヲ鹵獲セリ（新城子西方ノ分）
- 106 昭和6年12月9日 ※在ハルビン百武武官より  
二宮參謀次長宛（電報）  
寧安以東諸県における張学良密使の画策について
- 12月9日後発  
12月10日前着  
本省  
ハルビン  
貴電第七二六号ニ関シ
- 貴官ハ別電第一二四号ノ趣旨御含ノ上湯爾和ニ面会シ本大臣ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ左記ノ通り申入レ張学良ニ伝達セシメラレ度
- 「目下日本軍ハ支那軍ニ対シ撤退ノ機会ヲ与フル為メ焦眉ノ急ニ迫ラレ居ル多數匪賊ノ徹底的討伐ヲ一時差控ヘ居ル次第ナル處我方トシテハ此等匪賊ノ跳梁甚シキニ顧ミ何時迄モ之カ討伐ヲ遷延スルヲ許ササル現状ニ在リ從テ刻下ノ最大急務ハ右討伐実行ノ結果自然日支両軍ノ衝突ヲ惹起シ勢ノ赴ク所万ニモ戰禍京津地方ニ及フカ如キ最惡ノ事態ヲ防止スルニ存ス然ルニ湯爾和ノ尽力ニ依リ叙上ノ如キ重大且機微ナル時期ニ当リ張学良カ大英断ヲ以テ自發的ニ錦州方面ノ支那軍ヲ山海關以西閔内ニ撤退スルニ決シ即刻実行ニ取掛ルコトナリタルハ極メテ機宜ニ適スル措置ト云フヘク此ノ重大危機ヲ保全スルノ道ハ他ニ之ナシト確信ス若シ夫レ湯爾和申出ノ一、二其他ノ細目ニ付此ノ際日支間ニ論議スルコトハ自發的撤兵ノ趣旨ニ矛盾スルノミナラス右論議ニ日時ヲ費シ其ノ間万一現地ニ於テ事端ヲ釀シ取返シ付カラルカ如キコトトナルコトアラムカ右ハ張学良ノ本
- 107 昭和6年12月9日 勅原外務大臣より  
在北平矢野參事官宛（電報）  
自發的撤兵の即時実行に關し張学良に申入れについて
- 本省 12月9日後発  
別電 同日幣原外相より矢野參事官宛第一二四号  
張學良との交渉方針
- 第一二三号（暗、至急）  
滿州事變錦州問題

意ニモ反スヘク旁々此等細目ノ点ハ此ノ際一切拘泥セヌ先ツ断然撤兵シテ日支両軍衝突ノ危険ヲ一掃セラレムコトヲ切望ス就テハ我方ニ於テモ此ノ際ハ細目ノ問題ニ触レス支那側ノ自發的撤兵実行振ヲ見送ルコトトスヘキニ付右ニ諒承アリタク又支那側ニ於テ遲滞ナク撤退ヲ開始スルニ於テハ一週間モアレハ之カ撤退ヲ完了シ得ヘシト思考セラレ從テ支那側ニテ誠意ヲ以テ撤兵ヲ行フ限り之ニ対シ追撃ヲ加フルカ如キコトナキハ勿論ナリ」

別電ト共ニ連盟、米、支、奉天、天津、廣東ニ転電シ連盟ヲシテ在欧大使ニ転電セシメ又支ヲシテ南京ニ転報セシメタリ

(別電)

本省 12月9日後発

#### 第一二四号(暗、至急)

##### 滿州事變錦州問題

貴電第七二六号湯爾和申出ノ一、二ハ我方ノ希望ト多大ノ開アリ我方トシテ応諾シ得ヘキ限リニ非ス但シ張學良カ折角自發的撤兵ヲ申出テ來レルニ顧ミ右等諸点ニ付テハ自發的撤兵ナル以上ハ暫ク之ヲ問題トセス右撤兵ヲ実行セシムル様仕向クルコト得策ト存スルニ付往電第一二三号ノ通湯

ニ申入ルルコトシタル處貴官限リノ心得迄ニ前記二点其他ニ付當方ノ内意左記ノ通り申進ス  
一、錦州政府カ滿州ニ於ケル敗殘兵、馬賊、便衣隊等ノ組織的活動ノ中心指導機關タルコトハ諸般ノ狀況上最早疑問ノ余地ナク從テ我方トシテハ錦州政府ノ存続ハ我軍ノ安全ハ固ヨリ帝國臣民生命財産ノ安全延テハ滿州ノ治安維持上到底忍ヒ得サル所ニシテ早晚何トカ処分ノ要アリト思考シ居ル次第ナリ尤モ右方法トシテハ支那側ヲシテ同地方ノ軍隊ヲ全部撤退セシメタル後馬賊等討伐ニ從事スル我軍ノ威力ニ依リ又各種政治的手段等ヲ用ヒ其ノ存続ヲ不可能ナラシムルコトモ出来得ヘク何レニシテモ此ノ際錦州付近ヨリ支那軍ノ撤退スルコトハ好マシキ事柄ナリ

二、湯爾和申出ノ第一点ニ關シテハ錦州政府撤退セハ現在ノ如キ同政府ノ策動ニ基ク匪賊等ノ組織的活動ハ自然終熄スヘキモ其後ニ於テモ遼西方面ニ現存スル匪賊自身ノ活動ヲ繼續セラルヘキハ想像ニ難カラサル処同方面ニ支那軍モ居ラス又日本軍モ進出出来サルコトナリテハ遼西方ノ帝國臣民ハ匪賊等ノ蹂躪ニ委セラルヘキノミナ

ラス遼西ニ於ケル匪賊ノ活躍ハ直ニ満鉄沿線ニ脅威ヲ及ホス次第ニテ我軍ノ新民府以西不進出ト云フカ如キハ我方トシテ承認シ得ヘキ限リニ非ス(巴里連盟宛電報第二九三号参照)

三、我方トシテハ錦州山海關間ノ撤兵地帯ヲ占領セムトルカ如キ意向ナキニ付貴電第七二四号末尾ノ應酬振ハ機宜ニ適スルモノト認ム但シ同地方モ漸次奉天ニ於ケル仮政府ノ支配下ニ入ル様仕向クルコト肝要ト思考シ居ル次第ナルニ付此点嚴秘ニ御含置アリ度

108  
昭和6年12月10日  
在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 張學良の自發的撤兵促進を湯爾和に申入れ ついて

北平 12月10日後発  
本省 12月10日後着

第七三五号(暗、至急、部外極秘)  
(一〇七文書)  
貴電第一一二三号ニ関シ

一、往電第七二六号學良側其後ノ措置振ヲ探ル為九日夜原本ヲ湯ニ會見セシメタル處湯ハ其後副司令ト内談ノ機會

無キモ副司令ハ責任感ノ強キ人故一旦言ヒ出セル上ハ必ス其通り實行スヘシ尚本件提案ニ至レル經緯ニ付南京ニ問合セタル處大体參事官ノ御話ト一致スル事判明セリト語レル由  
二、冒頭貴電本十日朝接到セルニ付直ニ湯ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト申入レ(但シ議論ヲ避クル為錦州政府ノ撤退問題及新民府以西ニ日本軍ヲ進出セシメサル事等ノ点ハ特ニ論及スル事ヲ避ケ唯此際細目其他ニ付貴我協定スル事ハ學良ノ自發的撤兵ノ趣旨及本件緊急解決ノ趣旨ニ反スルヲ以テ日本側トシテハ差当リ問題トセサル意向ナリト説明シ置ケリ)要スルニ我方ハ大体七日貴下ノ話サレタル御趣旨ニ贊同シ本日ハ特ニ彼此条件等ヲ議論スル為來訪セル次第ニアラサルニ付副司令モ我方ノ態度ヲ諒トシ此際自發的ニ至急撤兵ヲ完了セラルル様致シ度シト述ヘタル處湯ハ御趣旨ハ直ニ副司令ニ伝ヘ尚撤兵措置ニ関スル其後ノ模様ヲ尋ネ見ルヘシト語レリ  
三、湯ハ之ハ自分一己ノ考ナルカ撤兵ハ秘密ニ行ハルルヲ要シ且大部隊ノ事ニモアリ一週間位ニテ完了シ得ルヤ疑アリト言ヘルニ付本官ハ事極メテ急ヲ要スルノミナラス

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

- 111 昭和6年12月11日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
錦州駐屯中國軍撤退開始の情報について
- 110 昭和6年12月10日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
山海関秦皇島に二個中隊駐屯決定について
- 第六八五号（暗、極秘）
- 支ヨリ南京へ、連盟ヨリ在欧米各大使へ転電アリタシ  
支、奉天、天津、廣東、連盟へ転電セリ
- 112 昭和6年12月14日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛（電報）  
張学良の撤兵措置に関する湯爾和の内話につ  
いて
- 第七四二号（暗、極秘）
- 十四日湯爾和來訪ノ際学良ノ撤兵措置三付質問セル處湯ハ  
学良ニ於テ既ニ撤兵ニ關シ銳意手配中ナルカ尚本件実行ヲ  
容易ナラシムル見地ヨリ一兩日中密ニ南下シ極秘裡ニ蔣介  
石ト内談ヲ為ス筈右ニ付テハ蔣モ多分張ノ措置ヲ是認スヘ  
シト思フカ万万一蔣カ之ヲ非トスル場合ニ於テモ学良トシ
- 109 昭和6年12月10日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
張学良の撤兵準備ぶりに関する湯爾和の内話  
について

四、尚絶対内密ノ話ナルカ副司令ノ内心ヲ忖度スレハ副司  
令ハ本件敢行ニ依リ全然国内ノ同情ヲ失フ場合日本側ニ  
テ副司令ヲ如何ニ取扱ヒタルヘキヤト心配シ居ルカ如シ  
若シ此ノ点ニ付何程カ安心ヲ与ヘラレナハ副司令トシテ  
ハ現在以上ノ大決心ヲナスニ至ルヤモ知レスト縷述セル  
ニ付本官ハ之ヲ外ラシ日本側ニ於テハ副司令カ遼西其ノ  
他ニ於テ種々陰謀ヲ繞ラシ後方攬乱ヲ策シ居レリトノ強  
キ疑ヲ有スル處若シ本件ヲ速カニ実行セラルニ於テハ  
右日本側ノ疑モ多少ナリトモ晴ルヘク此ノ際ハ副司令ノ  
誠意ヲ示サルヘキ機会ナルニ付大至急本件実行ノコト各  
般ノ関係ヨリ見テ副司令ノ為ニ最肝要ナリト可然説得シ  
置ケリ

公使、奉天、天津、廣東、連盟ニ転電シ公使ヨリ南京へ連  
盟ヨリ在欧米各大使へ転電セシメタリ

公使、奉天、天津、廣東、連盟ニ転電シ公使ヨリ南京へ連  
盟ヨリ在欧米各大使へ転電セシメタリ

109 昭和6年12月10日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
張学良の撤兵準備ぶりに関する湯爾和の内話  
について

北平 12月10日後発  
本省 12月10日後着

第七三六号（至急、部外極秘）

往電第七三五号ニ関シ

十日午後湯ヲ往訪セルニ同人ハ本朝御話ノ次第篤ト副司令  
ニ伝ヘタル處副司令ハ既ニ言明セル通リ本件実施ヲ進メツ  
ツアリテ所要列車ノ準備方命令済ナルト同時ニ出先軍隊ヲ  
シテ何等誤解無カラシメ故障ノ勃發ヲ防キ本件ノ急速実行  
ヲ円滑ナラシムル見地ヨリ前線各旅長ニ自分ノ決心ヲ打明  
ケ方針ヲ援クル為彼等ヲ当地ニ呼寄方手配済ナリト言ヘル  
旨述ヘタリ本官ハ各方面ノ情報ニ顧ミ事態極メテ切迫シ居  
ルニ付本件緊急実行方切言シ置ケリ最近ノ機会ニ於テ本官  
直接学良ニ面会シ先方ノ措置振ヲ質ス筈  
尚湯ハ本件ニ付テハ当地ノ学良部下中ニモ強ク反対スル者  
アルヘク旁外部ニ洩レサル様吳々モ依頼シ居タルニ付此ノ  
上トモ其点然ルヘク御配慮願タシ

テハ飽ク迄現在ノ方針ニ向ツテ邁進スルコトト確信スル旨  
(以上絶対秘密ニ願ヒ度シ)述ヘタルヲ以テ本官ハ撤兵ハ

日本内閣ノ更迭如何ニ拘ラス最短期間ニ必ス実行方強調シ  
若シ遅延スルニ於テハ縷述ノ通如何ナル重大事件ノ勃發ヲ

見ルヤモ計リ難キ旨嚴重申聞ケタリ

連盟ヨリ在欧米各大使へ転電アリタシ

在支公使、南京、天津、奉天、廣東、連盟局長へ転電セリ

113 昭和6年12月14日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

錦州問題を中心とする華北時局の動向について

て

天津 12月14日後発  
本省 12月14日後着

第六八五号(暗)

北支時局ニ關シ御参考迄

(一)反学良各派ハ相不変策動ヲ統ケ居ルモ意見容易ニ一致セ  
サル為差當リ實力行動ニ出ツル模様ナキハ勿論学良辭職  
勸告ノ連名通電スラ發出スル程度ニ至ラス南京ノ状勢及  
錦州攻撃ヲ見送リノ形ナルカ特ニ閣ト韓ハ合作見込ナク

(四)軍部ニ於テハ右觀察ヲ裏書スルト共ニ東北軍内部ニ於ケ  
ル兵變モ其氣運相當熟セルカ如キ觀アルニ拘ラス實際ハ  
兵變後ニ於ケル各自ノ立場ニ不安アル為何レモ尻込ミシ  
居ルモノト見込ヲ立テ居リ寧ロ錦州攻撃ヲ機会ニ閩内ニ  
於テモ何等カノロ実ヲ捕ヘ事ヲ構ヘ学良ヲ下野セシムル

ル向鮮カラス

第六八六号(暗)

外ナシトノ空氣次第ニ濃厚トナルヤニ看取セラレ往電第  
六八一号山海關増兵ハ之カ準備ト認メラル  
固一方學良カ閩外軍隊ノ自發的撤退ヲ實施スル場合ニハ學  
良ハ南京政府ニ對スル立場ヲ失フノミナラス一般殊ニ目  
下問題トナリ居ル全國學生團ノ反張運動モ高マル為下野  
ノ余儀ナキニ至ルヘシトモ思料セラル處從來ノ彼ノ態  
度並ニ反學良派ノ無力ナル現狀ニ顧ミ或ハ飽ク迄現地位  
ニ踏ミ止マルヘシトノ觀察モアリ其間下級分子及黨部ノ  
對日挑發的態度トニ對スル我軍部ノ出方トニハ鮮カラ  
ス關心ヲ要スルモノアリ目下ノ日支間ノ關係ハ一時的小  
康ニシテ事態解決スル迄ハ北支ノ治安ハ相當危險ヲ含ム  
次第ト認メラル(第四及第五項部外極秘)

天津 12月14日後発  
本省 12月14日後着

支ヨリ南京へ転報アリタシ

115 昭和6年12月14日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

山海關兵舎内に避難の在留邦人の引揚げについて

公使、北平、青島、濟南、漢口、廣東、奉天ニ転電セリ

114 昭和6年12月14日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

中國軍閥内撤退実施の新聞報道について

天津 12月14日後発  
本省 12月14日後着

且何レモ河南ニ於ケル蔣介石ノ實力ヲ懸念シ動キ得サル  
カ如シ

(二)日本カ錦州ヲ攻撃スル結果ハ却テ一般民衆ノ學良ニ對  
ル同情ヲ高ムヘシ(往電第五九一号)從テ仮令我方ノ手  
ニ依リ閩外ヨリ東北軍ヲ驅逐スルモ學良ハ下野セサルヘ  
キニ付寧ロ此際熱河方面ヲ攪乱セシムルコト學良切リ崩  
シノ捷徑ナリトノ觀察有力ナリ

(三)學銘ノ引退ニ關シテハ學良ハ之ニ依リ予テ同人ニ押サレ  
氣味ナリシ王樹常ノ不滿ヲ緩和スル一方周龍光ヲ起用シ  
日本トノ連絡ヲ密接ニシタル次第ナルカ尚王カ今次我方  
ニ對スル讓歩ニ依リ我軍部ノ氣受左程惡シカラサル事實  
ト併セ考慮スルニ天津ニ於ケル日支衝突ノ危険ハ余程緩  
和セラレ從テ學良ノ地位ハ多少安全ヲ加ヘタリト觀察ス

天津 12月14日後発  
本省 12月14日後着

シテ学良ハ却テ東北軍ヲ関外ニ増兵シ居ルモノト認メラレ

此ノ情勢ニテハ我方ノ錦州攻撃ハ避ケ難シト思料セラル

処万一ノ場合山海関兵舎内ニ現在ノ如ク百二、三十名ノ在

留邦人カ避難シ居ル事ハ危険ナルノミナラス軍ノ行動ヲ阻

害スル惧アルニ付早目ニ安全地帯ニ避難ヲ命セラレ度旨幕

僚ヨリ申入レアリ軍ノ態度ハ往電第六八五号第四項ノ通ニ

シテ或ハ更ニ山海関ニ増兵スル意向モアルカ如ク目先予想

ヲ許ササル情勢ナルヲ以テ兵舎狭隘ナルヲ理由トシ（事実

其通ナリ）此ノ際居留民ヲ秦皇島若ハ当地迄引揚ヲ命スル

事安全ト存セラル因ニ秦皇島ヘハ八雲十五日入港ノ筈尚居

留民ハ生活相当切迫シ居ルカ如ク往電第六四〇号避難計画

ハ此ノ間ノ事情ヲ考慮セス窮余ノ策ニシテ實際ニハ山海関

海岸ヘノ徒步避難ハ到底見込ナシト認メラル尤右引揚發令

御許可ノ上ハ署員ヲ同地ニ増派シ適宜処理セシメタキ考慮

ナリ何分ノ儀折返シ御回電相成タシ

支、北平、奉天、青島ヘ転電セリ

116 昭和6年12月15日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

### 錦州中立地帶問題新聞報道差止めに対する軍

支、北平、奉天ヘ転電セリ

117 昭和6年12月16日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛（電報）

### 中国軍の錦州撤兵問題に関する湯爾和の内話

について

北平  
本省  
12月16日前着

118 昭和6年12月16日 三宅閻東軍參謀長より  
二宮參謀次長宛（電報）

### 中国軍の大凌河以東その他地区における動向 および外國駐在武官等の錦州および北満方面

視察報告について

12月16日後発

（イ）閻第一三三号（其一秘）

米国國務長官カ日本駐米大使ニ対シ調査員ノ報告ニ基キ20Bsハ決シテ大凌河以東地区ニ進出セサル旨ヲ申述ヘタル由ナルカ右ハ米国調査員ノ調査カ一部ニ限ラレシト並支那側ノ欺瞞ニ依ルモノニシテ米国調査員ハ20Bsカ既ニ錦州ヲ撤退セル後ニ視察セルモノナリ

本件ニ關スル事情左ノ如シ

一、十一月二十一日蔣介石ハ張學良ニ対シ電報シテ四全大

の態度について

天津 12月15日後発

本省 12月15日後着

### 第六九二号（暗、極秘） 往電第六八二号ニ関シ

其後幕僚ヨリノ説明ハ往電第六九一号所報ノ通ナル處十四日夕刊ニモ記事現ハレタルニ付關係記事ノ掲載方禁止シタ

ル處十四日深更ニ至リ新聞社ヨリ軍部ノ強要ニ依リ已ムヲ得ス十五日朝刊ニモ掲載スルニ付諒恕ヲ請フ旨電話アリー

方歩兵隊ヨリハ之等発表ハ東京及閩東軍ト方針打合セノ上ナセル次第ナルヲ以テ領事館ニ於テモ不惡諒解ヲ得度キ旨

電話アリ（脱）態度ニシテ（新聞ハ既ニ十四日朝刊ニ発表濟ナレハ其儘放任セリ）本件発表ハ當館ニ於テ極秘ニ付シ居リシニ拘ラス予テ錦州中立地帶問題發生以來右ハ實力行

使ヲ阻止スル要ラヌ干渉ナリシテ之ヲ快シトセサル傾向アリシ軍ノ一部ニ於テ往電第（六）九一号ノ通當初ヨリ計

画的ニ為シタルコト疑ノ余地ナキカ如シ（部外極秘）

因ニ軍ノ情報ニ依レハ未タ山海關ヲ通過シ撤兵シタル事實

ナキ由ナリ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

会ノ命ヲ受ケ近ク大軍ヲ率ヰテ北上シ日本軍ニ対抗セン  
トスル意ヲ洩シ来リ又二十二日蔣介石ハ馬占山ニ対シ既  
ニ学良ニ対シ救援隊ヲ差遣方督促セル旨電報ス一方馬占  
山ハ学良ニ対シ機ヲ看テ斉齊哈爾奪回ヲ計画中ナル旨報  
セシ以来錦州方面逮ニ緊張シ来レリ

二、當時軍主力ハ黒龍江省方面ニ在リ敵ハ正ニ奉天付近我  
軍ノ空虚ナルニ乘シテ之ヲ衝カントセシコト明瞭ニシテ  
二十二日正午打虎山ヲ經テ 12Bsノ一部ヲ打通線通遼方面  
ニ送リ護路ニ任せシメ

此日頃田庄台北方大窪ニ第六百五十四團ノ一部ヲ進出セ  
シメ二十三日夕馬賊討伐ト称シ騎兵約五百ヲ白旗堡ニ輸  
送シ二十二日朝新民ニ自衛警察ト称シ正規兵ノ公安隊制  
服ヲ着用セルモノノ多數來リ同地ノ巡警從来五百ナリシカ  
同日ヨリ九百トナレリ

三、二十二日以後奉天付近遽ニ謠言多ク便衣隊ハ二十四日  
暴動ヲ起ス可シ等ノ風説盛トナリ二十三日北寧線ノ列車  
運行変調ヲ來シ正午以後東行列車皇姑屯ニ到着セス二十  
四日ヨリ大凌河以西北寧線ノ警戒ニ当リシ 19Bsハ當口支  
線ニ移リ北寧本線ハ 20Bsト交代ストノ計画アル旨ノ情報

アリ而シテ錦州付近新ニ抗日宣戰伝單各所ニ貼布サル又  
満鉄沿線到ル所敵ノ別働隊活動盛ナリ

四、以上ノ如ク錦州方面ノ情況切迫スルヤ外國駐在武官等

ハ錦州及北滿州方面ヲ視察ス之力為学良ハ二十四日各軍  
ニ対シ各国武官カ巡視訪問ニ際シテハ一兵卒ニ至ル迄日  
抵抗スヘシトノ命ヲ受ケタルノミト回答スル如ク竊カニ  
教育スヘシト電命セリ又錦州ニ新タニ撒布セル「抗日宣  
戰」等ノ伝單ヲ悉クトランシメタリ

五、第三項 20Bs進出シテ大凌河以東北寧本線ノ警戒ヲ 19Bs  
ト交代ノ件ハ予定ヨリ遲レ二十六、七日頃行ハレタルカ  
如シ

十一月二十六日夜天津ニ於テハ我力駐屯軍遽カニ敵ノ攻  
撃ヲ受ク以上ヲ判断スルニ天津ノ暴動錦州軍ノ進出ハ敵  
ノ一貫セル方針ニ出テタルモノニシテ決シテ偶然ノ事ニ  
非サルヘシ  
之カ為我力軍ハ天津駐屯軍ノ赴援ノ為一部ヲ速ニ遼河以  
西ニ進出セシムルト共ニ主力ヲ北方ヨリ移動セリ錦州軍  
亦二十六、七日ヨリ 20Bs ハ北寧本線並法庫ニ進出 19Bs 主力ヲ

當口支線ニ配置シ砲兵第十三團ヲ打虎山、溝帮子、盤山  
等ニ分割配備セリ

然レトモ軍ハ中央ノ命ニ依リ遼西方面進出ヲ止メ二十八  
日進出部隊ヲ撤去セリ

六、敵ノ我力後方擾乱ハ概シテ奏功セス且ツ我力軍兵力転  
用ノ迅速ナルニ鑑ミ錦州軍ハ奉天進出ヲ停止セルカ如シ  
20B 主力及砲兵一團ノ外大凌河以東ニ進出セシメス爾後暫  
ク其儘ノ姿勢ニ在リシカ十二月二日頃ヨリ 20B 並砲兵第十  
三團錦州撤退ヲ開始シ五日頃ニハ之ヲ完了シ大凌河以東  
ハ概ネ十一月二十日以前ノ姿勢ニ復帰セリ

七、而シテ外國武官其他ノ錦州視察ハ 20B ノ撤退後行ハレタ  
ルモノニシテ諸情報ヲ綜合スルニ米國武官マツキローイ  
視察員某、英國人トーマス、仏國武官一名ハ七日朝双羊  
店、大凌河ノ線ヲ視察シ同日錦州ニ來リテ第十三團第二  
營及錦州西門外第二十旅第六百五十六團第二營ヲ視察シ  
米國武官ハ八日山海關ニ赴ケリ尚英、米、仏、獨ノ武官  
ハ五日朝山海關ヲ視察セリト

以上要スルニ外國武官等ノ錦州視察ハ 20B 等ノ撤退後ニシテ  
其視察モ一部隊ニ限ラレシモノニシテ之ヲ以テ直ニ 20B 進出

関第一三六号（秘）

119 昭和6年12月16日 三宅閑東軍參謀長より

杉山陸軍次官宛（電報）

満鉄沿線付近に出没の中國軍別働隊ならびに  
匪賊の状況について

12月16日後發  
12月17日前着

最近敵ノ別働隊並匪賊ノ満鉄沿線付近ニ出没スルコト愈々  
盛ニナリ

一、昨夕鐵嶺東北方中固駅東側地区ニ現出セル匪賊ハ捕虜  
ノ言ニ依レハ正ニ錦州ヨリ派遣セラレタル正規兵力便衣  
隊トナリタルモノニシテ其數約千名ニシテ我守備隊討伐  
ニ依リ其主力ハ昨夜西方ニ退却セリ

二、最近打虎山方面ニ集合シ其數三千ニ達シ其一部ハ新民以東ニ進出シ  
付近ニ集合シ其數三千ニ達シ其一部ハ新民以東ニ進出シ  
本日遼河守備隊ノ一部ハ新民東南方約一里ノ地点ニテ數  
十名ヲ擊退セリ士人ノ言ニ依レハ此別働隊ハ巨流河奉天

間ノ鐵道ヲ破壊スルト共ニ新民ヲ襲撃スヘク計画シ居レ  
リト

12月16日後着

昨十五日公太堡農場ニ數十名ノ匪賊襲来シ我警官隊之ヲ  
撃退ス

三、懷德縣方面匪賊猖獗ナルニ鑑ミ獨立守備第一大隊ノ主  
力本日討伐ニ向ヒ午前范家屯西方約六吉高台子ニテ約七  
十名ノ匪賊ト遭遇シ其二十ヲ斃シ潰走セシム、我ニ損害  
ナシ大隊ハ討伐ヲ続行中

四、本十六日午前十一時頃吉敦線上拉法站付近ニ約二百ノ  
兵匪出現シ同駅ヲ占領セルノミナラス蛟河拉法站ノ鐵道

電信ヲ破壊セリ之力為吉林支那軍一部蛟河敦化方面ニ出  
動シ又本夕沙河駅西方約二里黑林子付近ニ匪賊約百五十

出現目下掠奪中トノ報アリ

以上遼河凍結情況進ムニ從ヒ益々別働隊匪賊ノ遼河以東進  
出横行甚タシカル可シト観測セラル

120 昭和6年12月16日 三宅閨東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛（電報）

馬家塞付近交戦における我軍の損害について

12月16日後發

牛莊荒川領事より

犬養外務大臣宛

日本軍偵察機に対する錦州正規軍の砲撃につ  
いて

121 昭和6年12月16日 在牛莊荒川領事より  
本省 12月22日着

牛莊 12月16日付

本省 12月22日着

公信第四七五号

我偵察機ニ錦州正規軍ノ砲撃ノ件

本件ニ關シ大石橋警察署長ヨリ別紙写ノ通り報告アリタリ  
御参考迄

本信写送付先 外務大臣 奉天總領事  
(別紙)

我偵察機錦州正規軍ニ砲撃サル

本月九日前十一時頃上村軍曹ノ操縦セル第十四号陸軍偵

察機ハ本朝奉天ヲ出発シ錦州付近ノ敵状偵察中支那正規兵  
ノ為砲撃サレ機関部（タンク）ニ命中ガソリンノ大半漏洩  
セルヲ以テ辛シテ飛行ヲ続ケ午後〇時半当地陸軍仮飛行場  
ニ不時着陸セルカ万一応急修理不可能ノ場合ハ解体輸送ヲ  
ナスヘシト謂フ、尚村<sup>(マヤ)</sup>上軍曹ノ語ル處ニ依レハ錦州付近ハ  
目下盛ニ塹壕ヲ構築シ戰備ヲ整ヘ居レリト

以上

122 昭和6年12月16日 在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛

中國東北軍第十九旅の狀況について

牛莊 12月16日付

本省 12月22日着

本信第四七七号  
東北軍第十九旅ノ狀況ニ關スル件

本件ニ關シ當口警察署長ヨリ別紙写ノ通り報告アリタリ御

馬家塞付近ノ敵ハ十五日夕迄頑強ニ抵抗セシカ午後八時乃  
至正午ノ間ニ於テ西北方ニ退却シ中固付近ニテ鐵道ヲ橫断

シ更ニ五家塞（中固西北方八杆）方向ニ退却セリ  
我カ損害戰死准士官一、下士官一、兵三（既報ノ分ヲ含  
ム）、負傷五、敵ノ遺棄死体三十四、捕虜一

捕虜ノ言ニ依レハ該敵ハ約千名錦州政府ノ官兵ニシテ瀋海  
沿線ノ治安擾亂ノ任務ヲ帶ヒテ前進中ノモノナリシト

関参第六三〇号（秘）

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

3、其付近一帯ニ亘リ深六尺巾五尺長二丈余ノ塹濠ヲ構築ス

四、北寧線双陽甸（溝帮子、大凌河間）

第十九旅司令部アリ司令部付兵員八十余名長銃二挺拳銃四十挺ヲ有ス

五、遼寧全省警備処長黃頴声ハ錦州ニ在リテ土匪二万人ヲ買収改編シ錦州地方一帯ノ警備ヲ為ス

六、田庄台、溝帮子間ハ毎日午前中一回客車ノ運行ヲ為シ居レリ

東北軍第十九旅移動

王殿忠カ東北軍ノ状況ヲ探ルヘク台安及大虎山方面ニ密偵ヲ派シ十一月三十日帰来報告シタル処ニ依レハ北寧線大虎山駐屯独立第十九旅歩兵第六五四団ニ當兵員二百名ハ十一月二十七日ヨリ盤山県ニ移動シツツアリ目下大虎山ニハ通信中隊四百名駐屯シ錦州東方双陽甸ニ戰闘機五台輸送サレタルカ第十九旅長ノ指揮下ニ編入サルモノノ如シ

王殿忠保安軍編成運動動靜

王殿忠ノ遼西地方保安軍編成運動者張宗援（伊達順之助）及奉天宮島町居住李寿山ノ兩名ハ募兵輸送係官地肇ヲ伴ヒ施スヘシト謂フ

元ノ割合ニテ之ヲ支給シタル外近ク溝帮子並ニ北寧沿線ニ駐屯スル各軍隊ニモ慰労金ヲ交付シ同時ニ各隊ノ検閲ヲ実施スヘシト謂フ

123 昭和6年12月17日 津田第二遣外艦隊司令官より  
左近司（政三）海軍次官他宛（電報）

山海関方面の中国軍の動向について

第一五九号（其一、二、三、機）（在秦皇島、八雲機密第一七番電）  
（其一、二、三、十六日午後九時）

一、省略

二、去ル十四日夜ヨリ十六日朝迄ニ五個列車（空貨車一五〇）山海關ヲ通過関外ニ向ヘリ

右ハ錦州軍ノ引揚ケニ用フルモノナラント（山海關守備隊長談）

三、何柱国ハ全ク戦意無ク目下ノ所日本軍トノ抗争ヲ極力回避スルコトニ努メ殊ニ海軍ノ行動ニ対シテハ極メテ神経過敏ニシテ八雲ノ來着ハ陸軍トノ協同動作ノ為ナラス

ヤト臆測シ頻ニ情報ノ蒐集ニ努メ居レリト又何柱国カ我

十二月一日午前十時三十分發列車ニテ赴奉セルカ右ハ当地ニ於ケル最初ノ予定募兵千三百名ニ達シタルヲ以テ之ニ支給スル銃器被服ノ受領ニ付是永中佐ト打合ノ為ニシテ十二月三日頃帰來スヘシト謂フ

營口ニ飛行場設置計画

營口憲兵分遣隊長ノ談ニ依レハ營口ハ錦州方面ノ支那軍ニ對シ軍事上重要ナル地点ナルヲ以テ当地ニ飛行場ヲ設置スル事トナリ目下場所ノ選定中ナルカ多分小川心甸（付属地接壤地）ニ決定ヲ見ルヘク面積ハ八千米平方ノ予定ニテ将来格納庫其他付属建物ヲモ建設スル計画ナルカ現在ハ單ニ着離陸場トシテ竣立ヲ急クヘシ尚場所ヲ付属地外ニ選定シタルハ将来滿鉄ヲシテ買収セシムル計画ニ依ルモノナリト謂フ

于学忠ノ來錦並ニ駐防軍慰労金支給説

本月七日盤山ヨリ來石シタル支那人某ノ言ニ依レハ于学忠ハ學良ノ命ニ依リ北寧線一帶駐屯軍ノ總指揮ニ当ルヘク四日北平ヨリ來錦シ同地方ニアリテ活動シツツアルカ第十二、第十九旅所屬軍人ニ対シテハ特ニ慰労金トシテ現大洋十五萬元ヲ携帶シ來リ佐官二十元尉官十元下士六元兵卒五

四、秦皇島守備隊長ノ談ニ依レバ

当地士民間ニ近日錦州方面ヨリ約一個大隊ヲ秦皇島ニ派遣駐屯セシムルヤノ噂アリト  
(編注) 本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、馬要、一遣司令官、在支各地武官」に發電された。

秦皇島方面における中国軍の動向について

124 昭和6年12月19日 津田第二遣外艦隊司令官より  
左近司（海軍次官他宛（電報）

第一六三号（機）

秦皇島情報（八雲十八日）

一、当地守備隊ノ調査ニ依レバ昨十七日以來空貨物列車三

列車及当地ニアリシ空貨物列車二十五輛関外ニ向ケ輸送セラレタリ

隊増派ノ件其ノ後稍確実性ヲ帶ビ来レルモノノ如シ

(編注) 本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、馬要、

一遣司令官、左支各地武官」に発電された。

## 錦州付近中国軍の撤退状況取調について

本省 12月21日後発

125

昭和6年12月20日 在牛莊荒川領事より  
大養外務大臣宛(電報)

### 中国兵による河北駅守備隊狙撃事件について

曩ニ学良側ニテハ我方ニ対シ錦州付近軍隊ノ自發的撤退ヲ  
言明シ且其ノ後モ右急速実行方確信シ居ル一方秦皇島八雲  
ヨリノ海軍宛電報ニ依レハ十四日ヨリ十八日迄ノ間ニ空貨  
物列車八列車関内ヨリ錦州方面ニ差向ケラレタル趣ナルニ  
付テハ支那側ノ右撤退実行振至急取調へ回電アリ度尚ホ必  
要ニ応シ天津ヨリ山海關辺リニ大至急人ヲ派シ実地視察セ  
シメラレ度

第一一七号(暗)

牛莊 12月20日後発  
本省 12月20日後着

河北駅ノ守備ニ当リツツアル歩兵第三十連隊第五中隊ノ兵  
五名本二十日午前七時過「モーター、カー」ニテ線路巡視  
中駅ヲ去ル北方約三千米ノ地点ニテ輕機関銃一ヲ有スル三  
十余ノ兵匪ヨリ狙撃セラレ戰死一、負傷二ヲ出シ苦戰中河  
北駅展望哨之ヲ發見シ直ニ中隊ノ大部分ヲ之カ応援ニ赴カ  
シメタル處賊ハ逸早ク北方へ逃走セルニ依リ紅草窪付近迄  
追撃ノ上中隊ハ午前十時駅ニ帰來セリ

支、北平、奉天へ転電セリ

126 昭和6年12月21日

犬養外務大臣より  
宛(電報) 在北平矢野參事官より  
在天津桑島總領事

北平 12月22日後発  
本省 12月23日前着

127

昭和6年12月22日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

### 中国軍の閨内撤退実行状態調査のため根道官

補派遣について

126

昭和6年12月21日

犬養外務大臣より  
宛(電報) 在北平矢野參事官より  
在天津桑島總領事

北平 12月22日後発  
本省 12月23日前着

第七五九号(暗)  
貴電合第一九九一號末段ニ關シ  
二十二日當館ヨリモ根道官補及山下巡查ヲ山海關ニ派遣セ  
リ 支、天津、奉天へ転電セリ

128 昭和6年12月22日

在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

### 錦州方面中國軍撤退に關する張學良との会談

について

北平 12月22日後発  
本省 12月23日前着

第七六〇号(暗、極秘)  
貴電合第一九九一號ニ關シ

二十二日午後学良ヲ往訪シ錦州方面軍隊撤退実行振リヲ訊  
ネタル處其答左ノ通

一、実ハ去ル七日愈目發的撤退ヲ決シ急速實行方準備中ナ  
リシニ間モ無ク日本内閣ノ更迭アリ引続キ南京政變起り  
南京方面ヨリハ撤兵スヘカラサル旨重ネテ嚴重ノ電令ニ  
接シ学生其他國民ノ輿論モ益々激化シ殊ニ日本新内閣ノ

満州問題解決方針全然不明ニシテ自分トシテハ不安ニ堪  
事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

リシニ間モ無ク日本内閣ノ更迭アリ引續キ南京政變起り  
南京方面ヨリハ撤兵スヘカラサル旨重ネテ嚴重ノ電令ニ  
接シ学生其他國民ノ輿論モ益々激化シ殊ニ日本新内閣ノ  
満州問題解決方針全然不明ニシテ自分トシテハ不安ニ堪  
事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

ノ最後通牒ヲ携帶セルモノト思ヒ居タルヤニ見受ケラレ

タリ)テモ貴へハ場合ニ依リ何等カ一工夫出来ルヤモ知

レス即チ其ノ場合日本側要求ノ次第ヲ南京ニ移牒シ同政

府ヨリ撤兵方命令アラハ即時実行スヘク然ラスシテ抵抗

セヨト命シ来ラハ自分ハ更ニ之力為必要ナル軍費ト軍隊

トヲ要求シテ南京側ニ難題ヲ吹掛け結局有耶無耶ノ裡ニ

撤兵シ其ノ責ヲ南京ニ転嫁シ万事自分ノ立場ヲ救ヒ得ヘ

キヤニ思ハル尤モ如何ナル場合ニモ錦州政府ノ撤退ハ全

然不可能ナリ(学良ヨリ進ンテ本件書付ヲ要求セルハ

之ヲ他ノ目的ニ利用セントスル魂胆ナルヤニモ推セラ

ル)

三、若シ日本カ自分ノ立場ヲ認メ本件ヲ以テ満州問題解決

ノ端緒トモ為サル御意志ナルニ於テハ自分ハ國論ノ反

対ヲ押切り相当ノ責任ヲ以テ事ニ当ルヘキハ勿論ナリト

繰返シ居タリ

本電絶対ニ部外ニ洩レサル様御取扱ヲ請フ

支、奉天、天津へ転電セリ

129 昭和6年12月22日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

## 錦州駐在中国軍の動向に関する情報について

北平 12月22日後発

本省 12月23日前着

第七六一號(暗)  
(二八文書)

二十二日「ゴルマン」ノ情報左ノ通り

米國公使館カ今朝在錦州「マーゲツツ」トノ電話連絡ノ結

果ニ依レハ錦州ノ支那兵ハ戰鬪又ハ退却ノ為何等準備ヲ為

シ居ラス又何等力行動ヲ起サントスル氣配無シ但シ其ノ大

部分ヲ輸送シ得ヘキ輪転材料ハ錦州ニ準備シ居レリ

公使、天津、奉天ニ転電セリ

130 昭和6年12月22日 在上海村井總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

日本の錦州攻撃に関する上海外字新聞の論説

について

第九三七号(平)  
(1)往電第九三四号ニ閏シ

上海  
本省 12月22日後着

二十一日ノ「イーヴニングポスト」ハ日本カ滿州ニ於ケル平和維持ノ希望ヲ表明シ乍ラ新タニ錦州攻撃ヲ行ハントスルハ信義ニ悖ルモノト謂フヘシ軍閥ノ勝手ナル行動ニ任せハ結局日本ノ破滅トナルヘク支那トシテハ力ニ報ニルニ力ヲ以テスルノ誘惑ニ負ケサルコト肝要ナリ、蓋シ支那ハ力ヲ以テ対抗スル場合敗北ト夥多ノ賠償金ヲ得ルニ止ルノミナラス力以上ニ有効ナル対抗手段アレハナリ即チ支那ハ輿論ト「ボイコット」トノ武器ヲ使用スヘク日本ハ之等ヲ無視スル事ニ依リ自ラ深ミニ陥ルヘシト述ヘ

二十二日ノ「デイリー、ニュース」ハ前日ニ引続キ錦州攻撃ヲ論シ先ツ日本ハ大規模ノ馬賊ノ跳梁及満鉄線ノ襲撃等ヲ宣伝シ居ルモ英米武官ノ公平ナル報告ハ之ト異ナリ又日本カ為ニスル領土占領意思無キ事軍事行動ハ鉄道保護ノ為ナル事条約規定以上ノ兵力ヲ使用セサル事等ノ声明ニシテ果シテ遺憾無ク今日実行セラレ居ルヤト述ヘ若シ錦州ヲ攻略シ支那軍ヲ閨内ニ駆逐セハ南満ニ於ケル日本ノ支配ハ各地ノ傀儡政府ト相俟ツテ完全ナル占領ト殆ト異ナル事無キニ至リ延テ日本カ條約上ノ権利ヲ有セサル内蒙古ノ地位モ問題トナルヘク又山海關奉天ノ鐵道ハ正当所有者ノ支配ヲ

Problems ノ一部ヲ引用シ滿州ノ完全ナル占領ハ政治上紛糾ヲ招クヘキハ勿論ナルモ亦日本ニ取り無限ノ人命ト国帑ノ消費ヲ意味シ将来他ノ新渡戸博士出テ二十一箇条問題ト同様ノ批判ヲ滿州問題ニ対シ加フルコトアルヘシト説キ最後ニ吾人ハ重ネテ日本ハ數週間前連盟ニ於テ付属地ヘノ急速撤兵ヲ約セルニ今ヤ大規模ノ軍事占領ヲ行ハントシ居ルコト、条約所定ノ一万五千ヲ超エ軍隊ヲ増派セルコト、日本ハ物質的利益ノ保護以外ニ領土占領ノ意思ナシト云フ地方ノ行政ニ干渉シ居ルコトヲ指摘セントス新事態ノ重大ナルハ看過スルヲ得スト結ヘリ

尚二十一日北平發路透ハ張學良ハ未タ日本ノ最後通牒ニ接

セサルカ日本ノ今回ノ行動ハ馬賊ニ対スルモノニシテ差当リ錦州攻撃ヲ予想シ居ラストノ観察一般ニ行ハレ居ル旨報セリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

天津 12月22日後着

セサルカ日本ノ今回ノ行動ハ馬賊ニ対スルモノニシテ差当リ錦州攻撃ヲ予想シ居ラストノ観察一般ニ行ハレ居ル旨報セリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

天津 12月22日後着

131 昭和6年12月22日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

#### 錦州付近中国軍の動向に関する情報について

第七〇三号(暗、至急)

(二二六文書)

貴電合第一九九一號ニ閱シ

山海關守備隊ノ調査ニ依レハ二十日迄ニ約三百輛ノ空貨車

関外ニ廻送セラレタルカ其ノ一部ヲ用ヒ高梁ヲ積ミ戻レルモノアル外閑内ヘ撤兵セル事實無キ由不取敢(往電第六九二号末段参照)山海關へハ二十三日派員調査セシムル予定

北平ヘ転電セリ

天津 12月22日後着  
本省 12月22日後着  
132 昭和6年12月(22)日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

第七〇五号(暗)

当地各新聞ニ日本ハ満蒙併呑ヲ決心シ錦州攻撃ヲ敢行セン

トスル處東亜ノ平和ニ重大關係アルヲ以テ支那ハ自衛ノ為武力抵抗ニ決定セリトノ記事ヲ掲ケ庸報ノ如キハ頻ニ錦州ヲ固守シヘシト題シ全世界ヲ震動スヘキ此一擊ハ東北ヲ併

呑スヘキ最後ノ一戰ニ付錦州ノ我健兒ハ馬占山ノ精神ヲ以テ抗争シ齊齊哈爾ノ轍ヲ踏ム勿レト評論シ居レリ從テ民衆ハ錦州ノ一戰ハ最早免レサルカ其余波閑内ニ波及スル事無

キヲ保セスト為シ人心動搖ヲ來スニ至レリ尚「ピーティー、

タイムス」ノ如キモ二十二日ノ論説中ニ於テ同様ノ懸念ヲ述ヘ居レリ

いて

天津 12月22日後發  
12月22日後着

北第二八二号(秘)

目下錦州ニ在ル外國代表ハ米國陸軍武官一、及同輔佐官一、

英國陸軍武官一、及同輔佐官一、同公使館書記官一、仏國

陸軍武官二、及天津領事館員一、北平公使館員一、獨逸公

使館員一、及同領事館員一、西班牙公使館員一、伊太利公

使館員一ナリト(米國輔佐官及伊太利海軍武官ノ言)

各国武官共錦州攻撃ノ必ス行ハルヘキヲ信シアリ

天津 12月23日後發

134 昭和6年12月23日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

天津駐屯軍の一中隊山海關・秦皇島方面向け  
出発について

天津 12月23日後發  
本省 12月23日後着

第七〇六号(暗)

遼河方面ノ情勢急迫セル為居留民保護ノ名目ヲ以テ當地駐屯軍一個中隊二十三日朝山海關及秦皇島ニ向ケ出発セリ

日本の錦州攻撃に対する天津各新聞記事について

天津 12月22日後着

セサルカ日本ノ今回ノ行動ハ馬賊ニ対スルモノニシテ差当リ錦州攻撃ヲ予想シ居ラストノ観察一般ニ行ハレ居ル旨報セリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

天津 12月22日後着

セサルカ日本ノ今回ノ行動ハ馬賊ニ対スルモノニシテ差当リ錦州攻撃ヲ予想シ居ラストノ観察一般ニ行ハレ居ル旨報セリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

天津 12月22日後着

135 昭和6年12月23日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

天津 12月23日後發  
12月23日後着  
133 昭和6年12月(22)日 在北平永津公使館付武官輔佐官より  
杉山陸軍次官宛(電報)

錦州滯在中の外國武官および公使館員等につ

第七〇七号(暗)

当地各新聞ニ日本ハ満蒙併呑ヲ決心シ錦州攻撃ヲ敢行セン

トスル處東亜ノ平和ニ重大關係アルヲ以テ支那ハ自衛ノ為武力抵抗ニ決定セリトノ記事ヲ掲ケ庸報ノ如キハ頻ニ錦州ヲ固守シヘシト題シ全世界ヲ震動スヘキ此一擊ハ東北ヲ併

呑スヘキ最後ノ一戰ニ付錦州ノ我健兒ハ馬占山ノ精神ヲ以テ抗争シ齊齊哈爾ノ轍ヲ踏ム勿レト評論シ居レリ從テ民衆ハ錦州ノ一戰ハ最早免レサルカ其余波閑内ニ波及スル事無

キヲ保セスト為シ人心動搖ヲ來スニ至レリ尚「ピーティー、

タイムス」ノ如キモ二十二日ノ論説中ニ於テ同様ノ懸念ヲ述ヘ居レリ

支、北平、奉天、濟南、青島、南京ニ転電セリ

天津 12月23日後發

136 昭和6年12月23日 在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

天津駐屯軍の一中隊山海關・秦皇島方面向け  
出発について

天津 12月23日後發  
本省 12月23日後着

第七〇六号(暗)

遼河方面ノ情勢急迫セル為居留民保護ノ名目ヲ以テ當地駐屯軍一個中隊二十三日朝山海關及秦皇島ニ向ケ出発セリ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

|     |                                          |                |                |
|-----|------------------------------------------|----------------|----------------|
|     |                                          | 12月23日前発<br>本省 | 12月23日前着<br>本省 |
| 137 | 昭和6年12月23日<br>在牛莊荒川領事より<br>犬養外務大臣宛(電報)   | 12月23日後発<br>本省 | 12月24日前着<br>本省 |
| 138 | 昭和6年12月23日<br>在牛莊荒川領事より<br>犬養外務大臣宛(電報)   | 12月23日後発<br>本省 | 12月24日前着<br>本省 |
| 139 | 昭和6年12月23日<br>在牛莊荒川領事より<br>犬養外務大臣宛(電報)   | 12月23日前着<br>本省 | 12月23日前着<br>本省 |
| 140 | 昭和6年12月23日<br>在鐵嶺石塚領事代理より<br>犬養外務大臣宛(電報) | 12月23日後発<br>本省 | 12月24日前着<br>天津 |
| 141 | 昭和6年12月24日<br>在天津桑島總領事より<br>犬養外務大臣宛(電報)  | 12月24日後発<br>本省 | 12月24日後着<br>北平 |

第一二三号(暗)  
往電第一二二号ニ関シ

下交戦中ナリト水源地請願巡查ヨリ電話報告アリタリ  
支、北平、奉天、天津へ転電シ、安東、遼陽、鐵嶺、長春  
ヘ暗送セリ

第一二三号(暗)

本二十三日午前五時ヲ期シ第三十連隊第一大隊三百余名ハ  
河北ヨリ、野砲兵第二連隊第一大隊ノ一個中隊ハ遼河東岸  
ヨリ盤山ニ向ケ進撃ノ予定ナリ

支、北平、奉天へ転電セリ

支、北平、奉天へ転電セリ

137 昭和6年12月23日  
在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

田庄台付近における日・中両軍の交戦について

第一二四号(暗)

本日午前五時歩兵一個小隊ヲ先発トシ六時半野砲兵一個大隊(砲八門)七時歩兵一個大隊ハ夫々水源地ニ向ケ出発シ午後二時迄ニ全部水源地ニ到着セル處対岸田庄台ノ下流約一邦里魏家溝方面ヨリ砲撃ヲ受ケ我方ハ直ニ之ニ応射シ目

第一二四号(暗)

本日午前五時歩兵一個小隊ヲ先発トシ六時半野砲兵一個大隊(砲八門)七時歩兵一個大隊ハ夫々水源地ニ向ケ出発シ午後二時迄ニ全部水源地ニ到着セル處対岸田庄台ノ下流約一邦里魏家溝方面ヨリ砲撃ヲ受ケ我方ハ直ニ之ニ応射シ目

138 昭和6年12月23日  
在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

歩兵大隊主力ハ砲兵掩護ノ下ニ水源地ヨリ氷上ヲ渡渉シ午後五時田庄台ヲ占拠セル趣ニシテ野砲大隊及歩兵一個小隊ハ本夜水源地ニ宿泊シ明日田庄台ヘ水上渡渉ヲ為ス趣ナリ前電ノ通り転電暗送ス

139 昭和6年12月23日  
在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

田庄台及遼河河口方面における日・中両軍の交戦について

140 昭和6年12月23日  
在鐵嶺石塚領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

本二十三日早朝河北駅ヨリ装甲車ニテ田庄台ニ向ヒタル第三十連隊ノ一個中隊、機関銃隊一個小隊及歩兵砲隊ハ午后零時三十分孫家窩(田庄台南方一邦里半)付近ニテ南下中ノ敵装甲車ト遭遇交戦ノ後敵ヲ擊退シ進ンテ午后三時過河口付近ニアリシ敵騎兵隊約五十名ト戦ヒ之ヲ敗走セシメタル上午后五時過田庄台ニ入り大隊主力ニ合シタル趣ニシテ右戦闘中兵一名輕傷ヲ負ヒタリト

前電通り転電暗送セリ

141 昭和6年12月24日  
在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

中国軍錦州不撤退との報告について

日本軍占領後の法庫門の情況について

140 昭和6年12月23日  
在鐵嶺石塚領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

141 昭和6年12月24日  
在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

第一二四号(暗)

往電第一二三号第一項ニ関シ

第三十九旅團ト同行シ法庫門ニ入りタル當館警官ヨリノ電話報告左ノ通

北平ニ転電セリ

## 張学良の中国軍撤兵実行方宣言について

第七六四号（暗、至急絶対極秘）

貴電第一二八号二十五日接到

一、從來ノ行懸上先ツ湯爾和ヲ往訪シ貴電第一二九号ノ趣旨ヲ告ケ湯ニ於テモ至急學良説得方依頼シ置キ午後學良ヲ往訪シ湯ト三人鼎座ノ上學良ニ対シ

先回会談ノ結果ハ直ニ詳細大養大臣ニ電報スルト共ニ本官ニ於テ如何ニ事理ヲ尽シテ説示セルモ貴下ニ於テ撤兵実行ヲ肯セラレサリン為本官トシテハ貴下ト此ノ上会談スルコト無用ナルノ印象ヲ得タル意ヲモ仄カシ置キタル次第ナルカ大臣ハ中日両国当面ノ危機ニ顧ミ前記本官ノ電報ニ對シ慎重考慮ヲ加へラレ今朝貴下ニ対シ同大臣ノ伝言トシテ次ノ通伝フル様訓令アリ私ニ惟フニ或ハ本官最後ノ好意的伝言ニ非サルヲ虞ルト前置シ貴電ノ趣ヲ懇説セル処學良ハ

二、前回御話セル通自分カ本件ヲ敢行スル場合南京政府ヨリハ非常ノ非難ヲ蒙リ少クトモ免職ハ免レサルヘク又国民ノ憤激甚シク自分ノ生命ニモ危険アルヘシ斯ル際ニ若シ日本側ニ於テ何等自分ノ将来ヲ考慮シ吳レラレストセハ自分ハ自殺ノ外無ガルヘシ之ニ反シ若シ日本側カ此ノ撤兵ヲ機会ニ自分ト何等カ満州問題ニ関スル談合ヲ始メラルトセハ自分ハ一大決心ヲ以テ數多ノ困難ニ拘ラス日本ト提携スルコトヲ敢テ辞セスト述ヘ此ノ際何トカ直接交渉ノ糸口ヲ見出スコト出来サルヤト繰返セリ

三、依テ本官ハ既述ノ通從来ノ貴下ノ奉天ニ於ケル態度並ニ現在錦州政府ノ陰謀等ニ顧ミ貴下ニ對スル日本国民ノ嫌惡疑惑ノ情ハ猛烈ナルモノアリ此ノ際貴下トシテハ決シテ日本ヲ敵トスル意思ヲ有セサルコトヲ明カニセラル

ル必要アリ其為ニハ錦州ノ撤兵ヲ行ヒ先ツ幾分ノ疑惑ヲ解カルコトカ第一步ナリ是等ノ順序ヲ踏マスシテ直ニ日本側ト直接交渉開始方希望セラルモ日本側ニ於テ何人モ貴下ヲ相手ニセサルヘキハ贅言ヲ要セス況シヤ一国人モ貴下ヲ宰相兼外相ニシテ從来中國ニ對シ多大ノ好感ヲ有シ居ノ宰相兼外相ニシテ從来中國ニ對シ多大ノ好感ヲ有シ居ラル犬養大臣カ貴下ノ将来ニ付テハ出來得ル限り親切

ニ考慮スヘシト云ハルハ其意味甚タ深長ナルモノアリ依テ右犬養大臣ノ親切ニ信頼シ撤兵ヲ急速且誠実ニ実行セラルコト此際貴下トシテ執ラルヘキ最賛明ノ策ナリト切言セルニ學良ハ沈思熟考ノ後然ラハ大臣ノ御言葉ニ信頼シ此際一旦御約束ノ通撤兵ヲ實行スヘシト答ヘタリ

四、依テ本官ハ貴下カ事情ノ変化ヲ理由トシテ中日国交ノ大局ニ顧ミス本官トノロ約ヲ無視シ撤兵ヲ取止メラレタル為本官トシテハ大ニ困難ノ立場ニ陥リタル次第ナルカ

今回更ニ御決心ノ上ハ仮令事情ノ如何ニ拘ハラス誠実ニ之ヲ實行セラレタシト強ク述ヘタル處學良ハ今回ハ必ス実行致スヘシ乍併自分ハ本件實行ニ依リ南京政府國民又場合ニ依リ自分ノ部下ヲモ敵トスルノ余儀無キニ至リ残ル所ハ日本ニ縋ルヨリ外無キカ故ニ日本政府ニ於カレテモ右自分ノ苦シキ立場ヲ諒トセラレ必ス自分ノ將來ヲ考慮セラル様致度ク此ノ点ハ充分犬養大臣ニ徹底方取計ハレ度キ旨懇請セリ

五、茲ニ於テ本官ハ本件ハ今日ニ迫ル緊急問題ナル處之カ実行ニ幾日位要スル御見込ナリヤ又撤退ノ経路等ハ途中ニ於ケル誤解ヲ防ク見地ヨリモ予メ明示アリ度キ旨述

八、最後ニ學良ハ日本側ニ於テ本件ニ關スル貴我交渉ノ顛末ヲ發表セラレ居リ殊ニ二十二日会談ノ趣旨ヲモ直ニ發表セラレ居ルハ如何ナル御趣旨ナリヤ之カ為撤兵ノ実行困難トナルハ言フ迄モ無シ自分ハ日本政府ノ真意ヲ疑フ訳ニハ非サルモ本日会談ノ如キモ絶対ニ發表セラレサル様致度シト付言セリ

九、學良トノ会談ハ前記ノ通ナルカ八ノ次第モアリ本件ハ

北平 12月25日後發  
本省 12月25日後發

当分發表セラレサル様特ニ御配慮ヲ請フ

公使、天津、奉天、連盟、米ニ転電シ連盟ヨリ在欧各大使  
ニ転電セシム

143 昭和6年12月(25)日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

張學良の実力抵抗の決意およびそれに伴う天

津駐屯軍の動向等について

天津 本省 12月25日後着

第七一二号(暗、部外極秘)

北平発大臣宛電報(二二八文書)第七六〇号ニ依レハ学良ハ閏外ヨリ撤兵ノ意向無キ由ナルカ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ彼ハ日本ニ見離サル以上ハ國民ノ同情ヲ繋キ以テ将来ノ再起ニ備フル外無シトシテ寧ロ實力抵抗ヲ為ス決心ヲ堅メ(閏内外トモ)相当ノ準備ヲ進メ部下ニ対シ右様命令シタルハ事實ナルカ如ク右決心カ主トシテ支那一流ノ面子問題ナル為抵抗ノ程度ハ疑問ナルモ錦州方面ノ日支衝突ハ到底避ケ難シト認メラル敗残部隊カ錦州若ハ綏中ヨリ熱河省ニ退却セハ閏内ニ迄事態拡大ノ虞無カルベキモ山海關ニ後退スル場合ニ

尚河北ニ於ケル学良政権ノ没落ハ滿州ニ於ケル事態收拾上甚タ好都合ト認メラル處遼西ヨリ東北軍ヲ驅逐シタル上ハ学良ノ閏外ニ於ケル策動モ自然微弱トナリ又我方カ熱河ニ於ケル支那側ヲ操縦スル事モ容易トナルハ自明ノ理ニシテ從テ内外ノ監視厳重ナル平津地方ニ於テ右様無理押シニヘシ

第一二八号(暗、至急、極秘)

錦州問題

貴電(二二八文書)第七六〇号ニ閑シ

本大臣ノ伝言トシテ至急別電第一二九号ノ趣旨ヲ張學良ニ

伝ヘ結果回電アリ度

貴電報別電ト共ニ米、連盟ニ転電シ連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電セシメタリ

別電ト共ニ支、天津、奉天ヘ転電セリ

(別電)

第一二九号(暗、至急、極秘)

錦州問題

本省 12月25日後発

我実力ニ依リ彼ヲ下野セシムヘキヤ將亦多少ノ時日ヲ要ス

ルモ何等兵變ヲ誘發スル等ノ手段ヲ以テ右目的ヲ達スヘキヤ或ハ差當リ河北ニ於ケル彼ノ地盤ヲ此儘放任スヘキヤノ得失ハ慎重考慮ヲ要スト思考セラル

因ニ當方トシテハ天津事件ハ二回トモ予テノ御方針モアリ平和終結ニ努メタル次第ニシテ今後モ地方的事端ノ發生ハ極力防止スヘク支那側トモ折角連絡中ナリ(右ハ租界ノ繁榮上ヨリハ絶対ニ必要ナリ)尚山海(閔)及天津ニ於ケル日支衝突ハ北平ニ迄拡大スルニ非サレハ必シモ直ニ學良ノ沒落ヲ招来スルモノニ非ス各勢力均衡セル四隅ノ状況彼ト蔣介石並ニ英國トノ関係等ヨリ察スルニ彼ハ今尚案外根強キ地盤ヲ有スルヤニ思料セラル

支、北平、奉天ヘ転電セリ

144 昭和6年12月25日 在北平矢野參事官宛(電報)

張學良に中國軍の錦州撤兵要求に関する伝言

伝達方について

別電 同日犬養外相より矢野參事官宛第一二九号  
右伝言内容

ハ北支駐屯軍トノ間ニ衝突ノ危険アルモノト予測セラル翻ツテ駐屯軍ニ對シテハ屢々中央ヨリ滿州ト北支那トハ事情異ナル故ヲ以テ其自重ヲ促シ居ルカ如ク司令官ハ二十三日本官ニ對シ予テノ積極手段ニ出テサル旨言明シタルカ敗兵カ閑内ニ入ル時ハ「自衛権ノ發動」ニ依ル形式ヲ以テ我方実力ヲ行使スル機会有リ得ル事ハ想像ニ難カラス而シテ既電ノ通我武力行動ニ依ルノ外ニ速ニ學良ヲ下野セシムル方法無シトノ空氣濃厚ナル以上斯ル機會ハ容易ニ且極メテ近キ将来ニ於テ到来スル可能性アリ而モ近ク來津スヘキ増援隊ノ兵力ニ顧ミ右ハ相當大袈裟ナル結果ヲ伴ヒ消極的租界防備ノ範囲ヲ遙カニ越ユル事アルヘキ處当方面ニ於ケル自衛権ニハ自ラ制限アルヲ以テ万一下手ニ行動セハ累ヲ滿州問題善後措置ニ及ホスノ重大危險アル事ヲ覺悟スルヲ要スヘシ

尚河北ニ於ケル学良政権ノ没落ハ滿州ニ於ケル事態收拾上甚タ好都合ト認メラル處遼西ヨリ東北軍ヲ驅逐シタル上ハ学良ノ閏外ニ於ケル策動モ自然微弱トナリ又我方カ熱河ニ於ケル支那側ヲ操縦スル事モ容易トナルハ自明ノ理ニシテ從テ内外ノ監視厳重ナル平津地方ニ於テ右様無理押シニヘシ

州軍憲ノ計画ニ基ク組織的行動ナルコトハ一点ノ疑ヲ容レ  
サル所ニシテ（支那側カ如何ニ弁解スルモ我方ハ確実ナル  
証拠ヲ有ス）我方ニ於テ到底之ヲ放任シ得サルハ勿論ナリ  
唯々曩ニ支那側ヨリ錦州地方撤兵問題ニ関スル提議アリシ

ニ依リ我方ニ於テハ難キヲ忍ヒ之ニ応シ其ノ結果矢野參事  
官ヲシテ学良氏トノ間ニ隔意ナキ話合ヲ行ハシメタル處十

二月七日学良氏ヨリ其自發的措置トシテ右撤兵ヲ行フヘキ  
旨開示アリ爾來幾度トナク該約束ノ実行方ヲ確言セルニ付

我方ニ於テハ誠意ヲ以テ右実現ヲ待望シツツ暫ク匪賊ノ討  
伐ヲ緩和シ居リタルカ其後約三週間ニ及フモ毫モ撤兵ノ事  
實ナク一方賊團ノ活躍益々激甚ヲ極ムルニ付止ムナク我軍

ハ一齊ニ出動シ大規模ノ討伐ニ着手スルコトトナリタル次  
第ナリ而シテ右討伐進行ノ結果ハ自然日支両軍ノ衝突トナ  
ル虞アルノミナラス勢ノ赴ク所或ハ戰禍ノ京津地方ニ及フ  
カ如キコトナキヲ保セス而シテ此ノ如キハ自分ノ最モ希望  
セサル所ナルニ付学良氏ニ於テモ此際面目問題トカ從来ノ  
行懸トカノ細目ニ拘泥スルコトナク一大決心ヲ以テ錦州方  
面ノ支那軍全部ヲ速ニ關内ニ撤退セラレムコトヲ切望ス目  
下事態極メテ切迫ノ折柄大局保全ノ為率直ニ自分ノ衷情ヲ

行隊付將校數名ハ最近頻ニ其隊長某ノ招電ヲ受ケ赴平準

備中ナルヲ以テ飛行機ノ錦州輸送ハ事實ナルカ如シ  
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ  
転電先  
在米大使、連盟、外務大臣

行隊付將校數名ハ最近頻ニ其隊長某ノ招電ヲ受ケ赴平準  
備中ナルヲ以テ飛行機ノ錦州輸送ハ事實ナルカ如シ  
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ  
転電先  
在米大使、連盟、外務大臣

146 昭和6年12月26日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）  
京津地方の治安維持に関する王河北省主席の  
談話について

天津 12月26日後発  
本省 12月27日前着

147 昭和6年12月26日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）  
日本軍増遣部隊の天津到着について

第七一五号（暗）  
当地方治安維持問題ニ關シ二十六日王樹常ト會見シタル處  
王ハ

天津 12月26日後発  
本省 12月27日前着

(一)遼西方面ノ事態如何ニ変化スルトモ當地方ノ治安維持ハ  
自分ノ職責上充分努力スヘシ近來新聞等ニ於テ所屬軍隊  
ヲ移動セシメ居ルカ如ク宣伝スル向アルモ右ハ全ク反動  
分子カ何等為ニスル語言ニシテ第二軍中ニハ実ハ換防ヲ  
要スルモノアルモ誤解ヲ避ケル為特ニ移動ヲ差控ヘ居ル

披瀝スル次第ナルカ学良氏ノ将来ニ付キ自分トシテ出来得  
ル限り親切ナル考慮ヲ加フヘキハ申ス迄モナシ

華盛頓連盟宛合第一一一〇号

第一五九五号（平）  
奉天 12月26日後発  
本省 12月27日前着  
中国軍の錦州向け兵器・弾薬および飛行機輸  
送について

145 昭和6年12月26日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛（電報）  
中國軍の錦州向け兵器・弾薬および飛行機輸  
送について

奉天 12月26日後発  
本省 12月27日前着

(一)錦州方面ヨリ來レル士民ノ言ニ依レハ北平副司令部參謀  
處ノ編成セル決死隊三百名ハ十七日大遼河ノ陣地線ニ到  
着セルカ彼等ハ豊富ナル手榴弾ヲ有シ勢當ルヘカラスト  
(二)最近北平ヨリ來奉セシ有力支那人ノ言ニ依レハ学良ハ外  
間ノ注目ヲ避ケル如ク北平ヨリ合計十七列車ノ兵器弾薬  
ヲ錦州ニ輸送セリト  
(三)支那側某要人ノ語ル所ニ依レハ最近再ヒ北平ヨリ飛行機  
二台錦州ニ到着セリト尚且下在奉中ノ東北空軍某国人飛  
行機二台錦州ニ輸送セリト

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、奉天、南京、青島、濟南ヘ転電セリ  
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

貴電合第一九六七号ニ關シ  
增遣部隊ハ二十六日朝塘沽着一部ハ正午頃着津租界内二分  
宿セリ残余ノモノハ二十七日午前中ニ來津ノ筈  
歐米ヘハ然ルヘク転電アリタシ

支、奉天、北平、廣東、南京へ転電セリ

148 昭和6年12月26日 在牛莊荒川領事より

幣原外務大臣宛(電報)

### 日本軍部隊の牛莊到着について

牛莊 12月26日後発

本省 12月26日後着

第一三六号(暗)

本日歩兵第二十九連隊連隊長以下約八百名野砲兵第二連隊

連隊長引率一個大隊約二百名歩兵第十六連隊連隊長以下約

八百当地ニ到着宿營セリ

転電先、在支公使、北平、奉天

八百當地ニ到着宿營セリ

149 昭和6年12月26日 本庄関東軍司令官より

閑院宮(載仁)參謀總長宛(電報)

### 日本軍部隊の盤山溝帮子付近向け前進について

て

12月26日後発  
12月26日後着

第二師団ハ前進準備ヲ完了シ二十八日遼河ノ線ヲ發シ敵匪

閻参第八二五号(秘)

(回)山海關、秦皇島停車場ニハ日支双方ヨリ同數ノ憲兵及び歩兵ヲ配シ治安維持ニ當ル

(い)徒步退却ノ者ハ綏中、前屯衛<sup>(マサ)</sup>、石門寨、台頭營ヲ通ズル北平街道ニ依ル事トシ山海關、秦皇島ヲ通過セシメズ

之ガ為何柱國ハ高級武官ヲ綏中ニ派シ退却軍ヲ区處ス

二、退却軍ノ熱河方面逃入防止策トシテ

(イ)若シ熱河方面ニ入ル時ハ飛行機ヲ以テ退路ヲ断チ之ヲ

全滅スル旨申渡シタルニ何柱國ハ直チニ其ノ旨電報セ

リ

(回)朝陽、錦西、白石門ノ馬賊ト連絡ヲトリ遁入ヲ阻止ス

ル如クナシアリ

三、何柱國ハ錦州軍退却ノ際山海關秦皇島方面ニ日本海軍

兵力又ハ飛行機ヲ以テ威嚇セラル時ハ退却軍ヲ区處スル事困難トナルヲ以テ避ケラレ度シ日本軍ガ積極的ニ武装解除等ヲ行ハザル限り誓ツテ當方面ノ治安ヲ維持スベシト語レリ

四、反張運動ニ付惱憊セシニ何柱國ハ目下閨内ニ在ル十一名ノ旅長約半数ハ反張ノ色彩ヲ有スルモ蔣介石、張學良

ヲ掃蕩シツツ盤山ニ向フ、道路ノ關係上全力ヲ以テ田庄台方面ヨリ前進スノ盤山到着ハ三十日ノ予定ナリ混成第三十九旅團ハ第二師團ノ行動ニ策応スル為三十日払暁新民付近ヲ發シ北寧線ニ沿フ地区ヲ先ツ溝帮子付近ニ向ヒ前進セシム

150 昭和6年12月26日 第二遣外艦隊より

津田第二遣外艦隊司令官他宛(電報)

錦州中國軍撤兵に關する何柱國と天津軍憲兵  
シム

150 昭和6年12月26日 第二遣外艦隊より

津田第二遣外艦隊司令官他宛(電報)

近ヲ發シ北寧線ニ沿フ地区ヲ先ツ溝帮子付近ニ向ヒ前進セシム

150 昭和6年12月26日 第二遣外艦隊より

津田第二遣外艦隊司令官他宛(電報)

二遣第一二、二、三機(在秦皇島二十五日午後二時、二、三)

宛二遣司令官ヘ

二十三日以來山海關ニ在リテ何柱國ト密ニ協定中ナリシ天津軍憲兵隊長談ニ依レバ

一、協定概ネ次ノ如シ

(イ)汽車退却ノモノハ山海關秦皇島ニ停車セシメズ若シ已ムヲ得ズ停車スル場合ニモ兵ヲ下車セシメズ機関車ノ給水ハ綏中北戴河ニ於テ行フ

ノ合作ノ間ハ手モ出デズ日本側ニ何等力手段アラバ教示サレ度シト申出テ探リヲ入レタリ

五、昨日ヨリ本日ニカケ錦州方面ニ向ヒタル空列車ハ五列車(一列車二十五輛)ニシテ目下錦州ニハ合計十五列車アリ

一列車ニハ約八百名ヲ乗車シ得ベシト  
(編注) 本電報は、「次長、一遣、馬要司令官、上海武官」にも発電された。

151 昭和6年12月27日 政府声明  
遼西方面匪賊討伐に關する政府声明  
帝国政府声明(昭和六年十二月二十七日)

一、滿蒙ニ於ケル治安ノ維持ハ帝国政府ノ恒ニ最モ重要視スル所ニシテ政府ニ於テハ從來各般ノ機會ニ同地方ノ康寧ヲ保持シ且之カ軍閥争乱ノ巷ト化スルヲ防カムカ為メ百方適法ノ手段ヲ講シ來レリ治安ノ保持アリテ始メテ同地方ハ内外人安住ノ地タルヲ得ヘク又秩序ナキ所、門戸開放、機会均等モ結局空名ニ終ルヘシ國ラスモ今次事件ハ帝國ニ對シ滿蒙ニ於ケル新ナル責任ヲ加ヘ而シテ其ノ

活動ノ範囲ハ更ニ広汎ナルヲ致セリ即チ支那側ノ不当ナル攻撃ニ対シ必要ノ自衛手段ヲ執リタル結果帝國ハ広大ナル地域ニ亘リテ公共ノ安寧ヲ維持シ住民ノ權益ヲ保護スルノ義務ヲ負フノ止ムヲ得サルニ至レリ當時支那地方官憲ハ法律秩序保持ノ為何等協力ノ機会ヲ求メス一齊ニ逃亡又ハ辞職セリ斯ル狀況ノ下ニ無辜ノ地方民ノ災害ヲ出来得ル限り鮮少ナラシムハ明ニ帝國ノ責務ニシテ之ニ反シ我方ニ於テ右等良民ヲ無政府狀態ノ渦中ニ委スルカ如キハ正ニ前記責務ノ懈怠タルヘシ是レ我軍カ多大ノ犠牲ヲ忍ヒ支那官憲ノ機能ヲ失ヘル地方ニ於テ人命財産ノ安全ヲ保持センカ為メ全力ヲ尽シ來リタル所以ニシテ畢竟我軍ハ事態自然ノ推移ニヨリテ其欲スルト否トニ拘ラス右ノ如キ責務ヲ負フニ至レルモノナリ

二、右ノ如ク今次事件ノ發生ニ依リ既存諸機關ノ破壊ヲ見タルニ止ラス滿蒙地方ニ於ケル馬賊其他不逞分子ハ自然其跳梁ヲ增スニ至リタルモ我軍ノ所在スル方面ニ於テハ其威力ニ依リ漸次治安ノ回復ニ向ヒツツアリタリ然ルニ十一月上旬前後ヨリ鉄道付屬地接壤地方殊ニ滿鉄本線西方ニ於ケル此等不逞分子ノ跳梁俄ニ顯著トナリ來レル処

タルカ十二月上旬ノ調査ニ依レハ三万ヲ超過シ且最近ニ於テハ数百乃至数千ノ員數ト機關銃迫砲等ノ裝備ヲ有シ今ヤ正規軍トノ區別殆ト困難ナル狀態ニアリ偶々以テ其背後ニ之ヲ補給シ之ヲ指導スル錦州軍憲ノ存スルコト疑ナキヲ知ルヘシ又在奉天日本總領事館ノ調査ニ依レハ鉄道付屬地接壤地方馬賊兵匪出没數ハ十一月一日以降十日間二七八件、十一日以降十日間三四一件、二十一日以降十日間四三八件、十二月一日以降十日間四七二件、合計一五二九件ノ多キニ上レリ

叙上馬賊等不逞分子ノ跳梁ニ対シ我軍ニ於テ必要ノ討伐ヲ行フヤ滿鉄本線西方ノ賊團ハ逸早ク遼西方面ニ逃入スルヲ常トシテ我軍ヲシテ殆ト奔命ニ疲ラシムモノアリ而モ尙ホ我軍ニ於テ遼西地方ニ對スル賊團ノ追跡ヲ敢テセサリシハ同地方各地ニ駐屯スル前記錦州軍憲配下ノ支那正規兵トノ衝突ヲ避ケムトスル苦衷ニ出テタルモノナリ

三、然ルニ偶々十一月二十四日顧外交部長ヨリ在支主要列國公使ニ対シ支那側ハ日支兩軍ノ衝突ヲ避ケル為メ支那軍ノ山海關以西撤退ヲ實行スルノ用意アル旨ヲ告ケタリ

右馬賊等ノ活動ハ錦州軍憲ノ組織的策謀ニ基クモノナルコト捕虜ノ供述、押収文書其他各種ノ情報ニ依リ疑ヲ容レサル所ナリ

錦州方面ニ於ケル第三國武官中支那側ニ於テ何等攻撃ノ準備ヲナシ居ル証左ナシトノ報告ヲナシ居ルモノアル處錦州軍憲カ大体打虎山以西ノ北寧線上及其付近ノ各地ニ亘リ巨大ナル兵力ヲ擁シ居ルハ明ニシテ我軍ノ周密ナル偵察ニ依レハ此等軍隊カ錦州其他ノ駐屯地ニ於テ着々兵器ヲ整へ居ル証跡顯著ナルモノアルノミナラス其前衛部隊ヲ錦州ヨリ遙ニ東方ニアル田庄台、台安、白旗堡等遼河右岸ノ各地ヲ連ヌル線ニ配置シ居ルコト確実ナリ而シテ右事態カ滿鉄沿線其他數地ニ分散駐屯セル我在滿部隊ニ対スル不斷ノ脅威タルハ何人モ首肯シ得ヘク殊ニ北寧線ヲ利用スルニ於テハ打虎山奉天間及溝帮子河北間ハ僅僅三四時間内ニ到着シ得ヘキ近距離ニアルノ事實ハ該脅威ノ甚タ大ナルヲ示スモノナリ

一方前記馬賊等ハ近時錦州軍多数將卒ノ改編セラレタルモノヲ含ミ其活動ノ規模急速ニ増大シ居リ現ニ滿鉄本線西方ニ於ケル馬賊ハ十一月上旬約一万三千ト算定セラレ

仍テ帝國政府ハ同月二十六日正式ニ右趣旨ノ提議ニ接スルヤ主義上之ヲ受諾スルト共ニ在支帝國公使及在北平帝國代表者ニ対シ夫々顧外交部長及張學良氏トノ間ニ本件ニ關シ話合ヲ行ハムコトヲ訓令セリ同公使ハ十一月三十日乃至十二月三日數次ニ亘リ顧外交部長ト話合ヲ行ヒタルカ同部長ハ中途ヨリ前記申出ヲ翻シテ右話合ニ応セナルノ態度ヲ示シ又在北平帝國代表者ハ十二月四日以來張學良氏ト直接又ハ其側近者ヲ介シ話合ヲ重ねタルカ同月七日ニ至リ張學良氏ヨリ其自發的措置トシテ錦州方面支那軍ノ撤退ヲ行フヘキ旨ヲ開示シ來リ且爾來幾度トナク右約束ノ急速実行方ヲ確言セルモ何等撤兵ノ事實ナク却テ同方面ノ兵備ヲ嚴ニシ居ル実情ナリ

四、錦州地方撤兵問題ニ関スル交渉開始セラレタル以來既ニ約一個月ニ及ヘルモ支那側ノ不誠意ナル態度ニ依リ何等ノ効果ヲ挙ケ得ヘキ前途ノ見据付カサル間に前記ノ如ク賊團ノ活躍益々猖獗ヲ極メ來リ遂ニハ南滿州ニ於ケル全般的治安ノ根底的破綻ヲ招來スルノ虞アル事態ヲ現出セルニ依リ最近我軍ハ一齊ニ出動シテ從来ヨリ比較的大規模ノ賊團討伐ニ着手スルノ已ムヲ得サルニ至レル処我

軍ニ於テ賊團討伐ノ徹底ヲ期セムカ為メニハ其根拠地タ  
ル遼西方面ニ進出セサルヲ得サルコト前述ノ事情ニ徵シ  
明ナリ固ヨリ我軍ハ九月三十日及十二月十日理事会決議  
ノ趣旨ニ反シ好ンテ支那正規兵ニ対シ攻撃ヲ加フルカ如  
キ主動的措置ニ出テ居ルモノニアラサルコト勿論ナルモ  
他面匪賊等ノ討伐ニ至リテハ滿蒙現下ノ特殊状況ニ顧ミ  
日本軍ニ於テ引続キ之ヲ行ハサルヲ得サル所ニシテ右ハ  
十二月十日理事会決議採択ノ際我代表ニ於テ明確ニ保留  
セル所ナリ然ルニ此際支那軍憲ニシテ表面非攻撃的態度  
ヲ裝ハントスルモ前記ノ如ク裏面ニ於テ我軍及我居留民  
ヲ目標トスル匪賊操縱等ノ挑発的行動ニ出テ且右匪賊中  
ニ錦州軍ノ將卒多數混入シテ正規軍トノ区別困難ナル以  
上我軍ニ於テ自衛上必要ト認ムル適當ノ措置ニ出ツル場  
合其結果生スルコトアルヘキ一切ノ責任ハ前記諸般ノ經  
緯ニ鑑ミ凡テ支那側ニ於テ負担スヘキモノナリ

五、帝国政府ハ連盟規約、不戦条約其他各種条約及今次事  
件ニ關スル理事会兩度ノ決議ヲ忠実ニ遵守セムコトヲ期  
スルモノニシテ錦州軍憲ノ組織的治安攪乱ニ對スル日本  
国民ノ憤激甚シキモノアリタルニ拘ラス一個月ノ永キニ

動開始ト共ニ匪賊ヲ討滅シ後方ノ不安除去セラレタル時期  
ヲ見計ヒ一氣ニ錦州ニ乗込ム方策ナル模様ナリ  
尚関東軍司令部ノ先發隊ハ行動開始ト共ニ當地迄進出スル  
趣ナリ

外務大臣其他ニ然ル可ク転電ヲ請フ

153 昭和6年12月27日 在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛（電報）  
在營口日本軍部隊の田庄台方面への出動について  
いて

本省 12月27日後着

154 昭和6年12月27日 在北平酒井公使館付武官輔佐官より  
左近司海軍次官他宛（電報）  
張學良の錦州軍撤退宣言は実行疑問につき形  
勢監視の必要について

北平 12月27日發  
本省 12月27日着

第二三三号（機）  
宛第二遣外艦隊司令官  
一、張學良ハ昨夜矢野參事官ニ対シテ最短期間ニ自發的ニ  
錦州軍ヲ後退セシムル旨宣明セリト  
二、但シ  
(1)張學良ハ意志薄弱ニシテ反覆常無ク  
(2)又最近張學良ノ威令薄ラケル折柄張學良カ後退ヲ命セ  
ル場合果シテ部下カ實行スルヤ否ヤ  
(3)或ハ前回同様時期ヲ遷延セントスルノ常套手段ニ非サ  
ルヤ  
(4)尚錦州軍力退路ヲ山海關ニ執ラハ我軍ト衝突ノ機會モ  
アリ  
（5）以上ノ如キ理由ニ依リ茲暫ク嚴重ニ形勢監視ノ必要ア  
リト認ム

亘リ帝国軍ニ於テ該方面ニ對スル匪賊討伐ノ自由ヲ抑制  
シ其間政府ニ於テ凡有ル手段ヲ尽シ右討伐実行ノ際惹起  
スルコトアルヘキ日支両軍ノ衝突ヲ予防スルニ努メタル  
誠心誠意ト隱忍自重トハ全ク前記諸條約及決議ニ基ク義  
務ニ忠実ナラムトスル精神ニ出テタルモノナルコト必ス  
ヤ世界輿論ノ認識ヲ得ヘキヲ信ス

152 昭和6年12月27日 ※在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛（電報）

日本軍の錦州攻撃切迫の情況について

第一五九九号（暗）  
奉天 12月27日後発  
新民府發本官宛電報  
第五五号

我軍ノ錦州攻撃ハ最早一兩日中ニ切迫シタルモノノ如ク新  
民駅ニハ土囊其他戰鬪用品滿載ノ列車集結シ北寧線方面漸  
次緊張シ来レリ  
当地駐屯ノ一個大隊ハ（本部ハ構内書記生官舎）周囲ニ匪  
賊猖獗ノ現状ニ於テ俄カニ出動シ得サルモ各方面ノ軍事行

155

昭和6年12月28日 在北平矢野參事官より

犬養外務大臣宛(電報)

## 中国軍の錦州撤退に關し殘留部隊および希望

## 条項等湯爾和の申出について

北平 12月28日後發  
本省 12月28日後着

第七六六号（暗、絶対極秘、至急）  
(一四二文書)  
 往電第七六四号ニ閑シ

一、二十八日湯爾和ヨリ左ノ通申出アリ  
 錦州軍撤退方法協議中ノ処漸ク本日決定ヲ見タリ即チ四ヶ旅中一ヶ旅ヲ山海關ヲ経テ閑内ヘ又他ノ一ヶ旅ヲ錦州ヨリ綏中ヲ經テ熱河ニ撤退シ残リ二ヶ旅中歩兵旅ハ錦州、山海關ノ鉄道守備ニ又騎兵旅ハ通遼及各地ノ治安維持ノ為殘留スルコトニ決シ榮臻ハ二十八日錦州ニ赴キ右実行ニ著手スヘキニ付茲三、四日中ニ撤兵開始セラルヘシ依テ日本側ニ於テ保安ノ為前記部隊殘留ヲ承認セラル外希望条項トシテ左ノ三点ニ付御考慮ヲ得タシ

二、依テ本官ハ右申出ノニヶ旅留置ハ自分カ從来話シ來レル趣旨即チ撤兵後ノ治安ハ保安隊又ハ警察隊ヲシテ之ニ當ラシメ錦州方面ノ軍隊ハ全部閑内ニ撤退スルコトノ趣旨ヲ没却シ撤兵ノ名ヲ藉リテ減兵ヲ為スニ過キス右ノ如キハ勿論日本政府ニ於テ承認セサルヘク本官ニ於テハ之ヲ取次クヲ得サル旨強ク述ヘ更ニ実ハ二十五日會見ノ際学良ヨリ申出アリタル通遼方面ニ騎兵ヲ残ス事ニ就キテモ未タ大臣ノ回答ニ接セサル次第ナルカ学良カ錦州方面ノ軍隊ニ閑シスノ如キ不徹底ノ撤兵ヲ行ヒ一時ヲ糊塗セントセラルハ自分トシテ其ノ心事ヲ疑ハサルヲ得ス此ノ点ニ就キ学良ノ深甚ナル注意ヲ喚起セラレタシト述ヘ置ケリ尚事態切迫セルニ付至急学良ニ對シ錦州方面軍ノ全部撤退方更ニ嚴重申入ル爾苦

156 昭和6年12月28日 在北平矢野參事官より

磐原外務大臣宛(電報)

## 張學良の錦州撤兵決意に関する湯爾和の内話について

北平 12月28日後發  
本省 12月29日前着

三、学良カ四個旅中半分ヲ殘留セントスルハ湯ノ口吻ニ依ルモ関係者ノ會議ニ於テ部下ヨリ全部ノ撤兵ニ付強硬ナル反対アリ且錦州政府ハ飽ク迄維持セントシ居リ（往電第七六〇号）更ニ英米仏等ノ態度ニ顧ミタル結果カト思考セラル

何レニスルモ今後学良ト交渉ヲ続クル必要アル場合本官ノ含ミ迄ニ左ノ点ニ關スル政府ノ御意向折返シ御回示ヲ請フル居ル處右ニ對スル御意向（貴電第一二四号参照）

(口)政府ニ於テハ錦州方面軍隊ヲ全部撤退シ得サルコトヲ主張シサシメサル御意向ト思考シ本官トシテハ其ノ趣旨ニテ応対シ居ル處万一千学良ニ於テ右ヲ承諾セサル場合本官ノ執ル可キ措置

(ハ)通遼方面ニ騎兵一旅ヲ殘留方ニ閑スル御意向

(イ)前頭湯爾和申出ノ希望条項等ニ對スル御意向

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

支、奉天、天津、米、連盟ヘ転電セリ

(編注) 本電報は左近司海軍次官のほかに「次長、馬要一、二遣司令官、十三、十六駆逐隊司令、佐鎮參謀長、八雲、出雲、能登呂各艦長」に発電された。

(ロ)撤兵後熱河及平津地方ニ於テ相互ニ事端ヲ釀ササルコト

(イ)今回ノ撤兵ハ全ク日支親善ノ見地ニ基キ誠意ヲ以テ自發的ニ行フモノナル故日本側ニ於テ右カ戰敗ノ結果ニ因ルモノナリ等ノ宣伝ヲセラレサルコト

日本軍錦州進撃の場合の山海関守備中國軍の

動向について

支、北平、奉天、青島へ転電セリ

天津 12月28日後発  
本省 12月28日後着

158 昭和6年12月28日 在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

第七二〇号(暗)

山海關方面ノ視察ヲ終ヘ二十七日帰津シタル当地憲兵隊長  
ノ談ニ依レハ同地守備ノ第九旅長何柱國ハ錦州方面ノ情勢  
ニ関連シ学良ヨリ何等ノ趣旨又ハ命令ニ接シ居ラサルヲ以  
テ其措置ニ困惑シ居ルモ何レノ場合ニモ無抵抗主義ヲ執ル  
モノノ如ク

(一) 関外ヨリ東北軍ノ敗兵特別列車ニテ侵入シ来リタル時ハ

山海關、秦皇島へ停車ヲ許ササル事

(二) 普通客車ニ対シテハ中日両国旗ヲ以テ乗客ノ検査ヲ行フ

事

(三) 徒歩敗兵ニ対シテハ山海關東方綏中駅ニ於テ喰止メ陸路

北方ニ迂回セシムル事

トル考ナルヲ以テ日本軍カ第九旅ノ武装解除ヲ断行スル  
カ如キ事無之様致度旨述ヘ居タル趣ナリ尚且下市中平穏ナ  
ルヲ以テ在留民ノ一部ハ自宅ニ復帰シ居レル由

營口 12月28日後発

本省 12月29日前着

158 昭和6年12月28日 在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

第一四一號(暗)

第二師団司令部ハ本二十八日午前四時當地發河北ニ渡リ鐵  
路ニ依リ午前九時田庄台ニ到着シタル趣ナリ  
往電第一四〇号ニ閑シ

奉天、支、北平へ転電セリ

159 昭和6年12月28日 在鐵嶺石塚領事代理より  
犬養外務大臣宛

日本軍部の土匪買収嚴查方錦州政府より地方

県長宛訓令について

付屬書 一二月二〇日付遼寧省政府より鐵嶺県政府宛公  
信

右訓令

鉄嶺 昭和6年12月28日付  
本省 昭和7年1月4日着

民国二十年十二月二十日

鐵嶺県政府 御中

遼寧省政府

公信機密第八二八号

錦州政府ヨリ日本軍部ノ土匪買収嚴查方地方県長

宛訓令ニ閑スル件

十二月二十日付錦州遼寧省政府ヨリ鐵嶺県政府宛別紙訳文

在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

ノ如キ通知アリタルヲ鉄嶺憲兵分遣隊ニ於テ發見押収セリ

本信写送付先 在中華公使、在北平主席、奉天總領事

長春、遼陽、安東、牛莊各領事、掏鹿分館事務取扱

(付屬書)

士肥原、三浦參謀等ハ北洋系張懷芝、安福系吳光新、段少

邦等ト頻ニ密議ヲナシ華北ヲ乱サントシ日本ヨリ軍費二百

七十万元ヲ提供シテ已ニ土匪ヲ買収シ黒山方面ニアル土匪

約一万人海河付近ノモノ約五千人北平長辛店間ノモノ約六

千人ヲ買収セリ尚日本人岡某ハ軍隊方面ノ買収ヲ担任シ耿

維周、馬翼三、趙捷山等之レカ運動員トナリ居レリ

右等ノ状況ハ厳密偵察ノ上隨時速ニ具報ス可シ

160 昭和6年12月29日  
本省 12月30日前着

在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛(電報)

張學良の閑内撤兵実行に関する言明について

北平 12月29日後発

(<sup>(1)</sup> 第七六八号(注)(暗、至急、絶対極秘)

二十九日学良ヲ往訪シ本日ハ貴下ノ何等懸引ナキ最後ノ御

決心ヲ承知シタシト述ヘタル処

一、学良ハ昨日湯爾和ヲ經テ御通知セル通り錦州方面ノ軍

隊ハ全部即チ三ヶ旅ヲ撤退スヘキニ付同方面ニハ保安隊

及警察ヲ除ク外一兵モ殘留セサル次第ナルカ先ツ一週間

以内ニ錦州ニ在ル一ヶ旅ヲ昌黎ニ溝帮子ノ一ヶ旅ヲ綏中

経由熱河ニ撤退セシメ右完了後三残余ノ一ヶ旅ヲ同様

熱河ニ撤退セシムルコトニ決セリ就テハ(イ)日本軍ハ之ヲ

追撃セサルコト(ロ)錦州方面ニ兵ヲ進メサルコト

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

ヲ要望ス

尚自分ハ數日中ニ通電ヲ發シ錦州方面ハ之ヲ拋棄セヌ但日本軍トノ衝突ハ避ケタキ考ナル旨發表スル積リニ付右御含ミ置キヲ請フ

ト云ヘリ

二、本官ハ日本政府ハ錦州及付近ノ軍隊ヲ全部撤退セシムルコト貴下トシテ賢明ナルヘシト考フル次第ニテ通遼方面ノ騎兵旅ノ撤退モ当然含マル次第ナリ錦州方面ヨリ撤兵後該騎兵旅ヲ殘留スルハ日本側ノ誤解ヲ招ク虞アリ貴下カ日本側ニ示サレントスル誠意ヲ完全ナラシムルニハ是非同騎兵旅モ撤退アリタシト強硬ニ主張セル処学良<sup>(2)</sup>

ハ同部隊ハ通遼及打通線ノ警備ニ当リ居リ何等戦闘力無ク万一一之ヲ撤退ゼンカ通遼ハ直ニ土匪ノ手ニ渡リ打通線ハ運行不能ニ陥ルヘク之カ殘留ハ絶対必要ナリトテ本官ノ要求ニ對シ頑強ニ不同意ヲ表シタルモ本官ヨリ飽迄右撤退ヲ迫レル結果遂ニ保安隊ヲ以テ之ニ代フル事ニ付考慮シ見ルヘシト答ヘタリ

三、次テ本官ヨリ撤兵ハ急速ニ開始セラルヲ要ス若シ遲疑セラルニ於テハ不本意乍ラ不祥事件勃発シ貴下折角了ニ努力中ト述ヘタリ

連盟ヨリ在欧各大使ニ転電アリ度シ  
公使、奉天、天津、米、連盟ニ転電セリ  
往電第七六八号ニ關シ  
三十日湯爾和來訪シ學良ハ既ニ錦州方面ノ撤兵ヲ開始シ昨夕一列車ハ山海關ヲ通過シ西行セルカ引続キ撤兵ノ急速完了ニ努力中ト述ヘタリ

連盟ヨリ在欧各大使ニ転電アリ度シ

162 昭和6年12月30日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛（電報）

錦州事情に関するドイツ公使館參事官および

「ハースト」通信員の視察談について

<sup>(1)</sup> 第七七一号（暗）

二十九日独逸公使館參事官「キユルボーン」（九ヶ月間奉天總領事ヲ代理シ且數日前迄「シビルオブザーバー」トシテ錦州方面ニアリ近々又同方面ニ赴ク筈）來訪内話左ノ通

一、錦州方面ノ支那兵力ハ自分ハ二万三千ト推定シ「ソ一

四、前記一ノ<sup>(1)</sup>付学良ハ若シ撤兵ニ際シ日本軍カ之ヲ追撃スルカ如キ事アランカ自然撤兵モ実行不可能ニ陥ル惧アル旨述ヘ本件ヲ撤兵ノ条件トスルヤノ口吻見ヘタルニ付本官ハ之ニ深入リスルヲ避ケ兎ニ角時局切迫ニ付撤兵ハ此際直ニ実行開始ノ必要アル旨強調スルニ止メ置キタルカ右ニ付政府ニ於テ御考慮ノ余地アラハ何分ノ儀御回電ヲ請フ

支、奉天、天津、米、連盟局長ヘ転電セリ

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

（編注）本文書の電信番号は一五六文書と同一であるがそ  
のままとした。

161 昭和6年12月30日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛（電報）  
張學良錦州方面の撤兵開始について

北平 12月30日後発

ンヒル」ハ一万九千ト見居レルカ何レニセヨ其ノ兵ハ組織的訓練ナク戦闘力ニ乏シク一旦戦アル場合ニハ多少ノ抵抗ハ試ムヘキモ日本側ノ飛行機重砲等ノ威嚇アラハ一溜リモナク潰走スヘシ又錦州政府ト言フモ看板ノミニテ實際ハ執務シ居ルモノ少ク何レモ逃腰ナルヲ以テ日本軍部カ奉天辺ヨリ宣伝スル如ク匪賊ヲ指導シ武器ヲ供給シ居ルモノトハ信セス

二、外國視察員ハ錦州政府ト同様交通大学建物内ニ居住シ食糧ハ北寧線食堂等ヨリ供給ヲ受ケ鉄道ト共ニ無料ナリ自分等ハ之ヲ好マサルモ他ニ方法ナク又支那側モ自分等ノ移転ヲ希望セス

三、各視察員ハ日本側ノ情報中捕虜又ハ密偵等ヨリ得タル信賴スルニ足ラサルモノアルニ対シ慊焉タルモノアリ然レトモ概シテ言ヘハ自分ハ勿論各視察員トモ日本ニ対シ何等悪感ヲ有シ居ラス自分ハ從来學良ト熟知ノ間柄ナルカ學良ノ奉天政府ノ劣悪ナルコト南京政府以上ニテ独逸側トシテモ當時ノ事件ニシテ解決セルモノ一モナシ斯ノ如キ政府ノ復活ハ到底堪へ得ヘカラス今回日本カ學良ニ痛棒ヲ加ヘタルハ自然ノ成行ニテ學良自ラ招ケルモノナ

リ此ノ際東三省カ新政権ノ下ニ更正スルハ支那人民ノ為ニモ幸福ナルヘク錦州モ其勢力下ニ入ルハ已ムヲ得サルコト思考ス然レトモ錦州ヲ取ルニ付テハ外間一般カ之ヲ当然トナス理由ヲ見出ス要アリ自分ノロヨリハ申上ケ兼ヌル次第ナルモ例ヘハ外間伝フル如ク学良ニ最後通牒ヲ与ヘテ自發的撤兵ヲ行ハシムル等ノ方法モ考慮ノ価値アルヘシ何レニスルモ錦州攻撃其物ハ出来得ル限り避クルヲ可ト思考ス右ニ付貴下ハ学良ト御交渉中ノ模様ナルカ自分ハ之カ御成功ヲ祈ル次第ナリ

四、日本カ錦州ヲ取ル場合米国ノ輿論ニ付テハ予言出来サルモ英國ハ實際問題ニ当ツテハ「ランプソン」ノ学良ニ対スル個人的友情ニ依リ左右セラルコトナカルヘク北寧線カ久シク經濟上障害ヲ受ケ為ニ「ボンド、ホールダ一」ノ利益ニ影響スルニ至ル場合ニハ英國政府トシテモ何等カノ措置ヲ講セサルヲ得サルニ至ルヘシ学良ハ此ノ際外国ノ力ニ依リ日本ノ進出ヲ防遏シ度キ考ヘナルカ如キモ何レノ外國モ容易ニ彼ノ策ニ乗リ來リ進ンテ渦中ニ投スルカ如キコトハナササルヘシ云々

尚「ハースト」通信員「ウイガンド」ハ二十九日本官ニ對

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ  
支、北平、奉天、連盟、米ヘ転電セリ

164

昭和6年12月30日

津田第二遣外艦隊司令官より  
左近司海軍次官他宛（電報）

### 錦州中国軍の灤州方面への撤退に関する情報について

第三〇号

山海関情報（八雲三十日）

山海関守備隊長第九旅長ヲ訪問ノ際彼ノ言ニ依レバ錦州第

十二、十九、二十旅ハ一部ノ兵ヲ残シ他ハ全部灤州付近ニ

撤退スルコトトナリ之ガ為少クトモ二十個列車ヲ使用シ三

日間ヲ要スルナラン昨日來退却シ灤州ニ下車シタル十二旅

ハ九旅ノ部下部隊ト混雜シツツアルモ其ノ治安維持ニ関シ

テハ九旅其ノ責ニ任ズルト午後六時三十分

三十日

（編注）本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、一遺、

馬要司令官、小林、在支各地武官」に発電された。

シ「キユ」ハ最モ公平ナル視察員ニテ支那語ニモ通シ自由ニ視察シ居タルカ他國視察員ハ大体独リ歩キ出来ス支那側ノ情報ノミヲ鵜呑ミニシ表面的視察ノ外ハ余裕ナキカ如シト語リ又日本カ錦州ヲ取ルハ必要ナルヘク右ハ早ケレハ早キ程都合ヨク遅ケレハ益々困難ヲ来スヘシ自分ハ日本カ何故ニ満州事件ノ最初ニ之ヲ取ラサリシヤト思フ位ナリ此ノ点自分ハ米国ノ同僚トハ意見ヲ異ニスト云ヘリ本人等ノ迷惑ニ鑑ミ外部ニ發表セラレサル様致シ度シ公使、奉天、天津ニ転電セリ

163 昭和6年12月30日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

錦州より撤退の中國軍部隊の山海關・秦皇島

通過について

165 昭和6年12月30日 在牛莊荒川領事より  
大養外務大臣宛

天津 12月30日後發  
本省 12月30日後着

第七二二号（暗、至急）

軍ノ情報ニ依レハ錦州駐屯東北軍第十二旅ノ一部ハ三十日朝一時及五時ノ二回ニ亘リ山海關及秦皇島通過（停車セス）灤州方面ニ引揚タル由

錦州の治安状況に関する情報について

165 昭和6年12月30日 在牛莊荒川領事より  
大養外務大臣宛

牛莊 昭和6年12月30日付  
本省 昭和7年1月6日着

公信第五一六号

錦州状況ノ件

本件ニ閲シ當口警察署長ヨリ別紙写ノ通り報告アリタリ御参考迄

本信送付先 外務大臣、奉天總領事  
(別紙)

錦州状況

本月二十三日錦州引揚邦人留守居使用支那人ヨリノ通信左ノ如シ

一、錦州東關方面ニ第二十六旅約三千人ト学生軍駐屯シ商家ヲ荒シ埋蔵シアル穀物ヲ掘出シ掠奪ノ上飲食シ居レリ

二、引揚日本人家屋ニ彼等住込ミ造作ヲ敲キ壊ハシ暖ヲ取

リ又家具類ハ売却ス

三、商民ハ日本軍ノ入城ヲ鶴首シテ待チ居レリト

四、氣早ノ支那人ハ日本兵ハ漬物カ好キナリトテ之ヲ売ル

ヘク用意シ居レリト

五、錦州軍ノ主力ハ主トシテ村落ニ駐屯シ其ノ數不明ナル

モ四、五万ト称シ居レリト

166 昭和6年12月31日 在北平矢野參事官より  
大養外務大臣宛(電報)

錦州方面中國軍撤退中日本軍の進撃中止方湯

爾和の申出について

北平 昭和6年12月31日後発  
本省 昭和7年1月1日前着

第七七四号(暗、至急、極秘)  
〔六一文書〕  
往電第七六九号二閑シ

三十日湯爾和ノ申出左ノ通

錦州駐屯一ヶ旅ハ本日ヲ以テ全部閨内へ撤退ヲ了シ引続キ溝帮子方面ノ二ヶ旅ヲ撤退中ナルカ何分日本兵ノ進撃急ナル為撤退モ困難ニ逢着シツツアリ既ニ学良ニ於テ誠意ヲ以テ撤退ヲ敢行スル以上右撤退ヲ容易ナラシムル為日本側ニ

於テ追撃セラレサル様犬養大臣ノ切ナル御考慮ヲ煩ハシ度シ  
支、天津、奉天、米、連盟三転電セリ  
連盟ヨリ在欧各大使ニ転電アリタシ

167 昭和6年12月31日 ※在奉天森島總領事代理より  
大養外務大臣宛(電報)

日本軍の打虎山・溝帮子占領について

奉天 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第一六二六号(略)  
新民府發本官宛電報

第五八号

往電第五七号ニ閑シ

二十九日夜当地ニ集中シタル約四百名ノ歩、騎、砲、工混成部隊ハ本三十日早朝「トラック」約七十台三分乘陸路前進シタル處嘉村旅團ノ主力部隊ハ北寧線ニ依リ相並ンテ前進セリ

白旗堡一帯ニ在リシ別働隊約三千名ハ彰武方面へ逃走セリ

リ

同夕刻ヨリ岡山旅團ノ部隊ハ當駅通過西方ニ前進シツツアリ

尚三十日午後二時半頃我軍ハ打虎山ヲ占領シ溝帮子ハ多門師団ニ依リ午後五時占領セラレタル趣ナリ

大臣、公使、北平、天津へ転電セリ

168 昭和6年12月31日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

中國軍引揚列車の山海關通過および同市内の

治安事情について

天津 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第七二八号(暗、至急)  
〔六三文書〕  
往電第七二一号ニ閑シ

軍ノ情報左ノ通り

三十一日午前三時迄ニ山海關ヲ通過セル東北軍引揚列車ハ六列車(約二三〇輛)ニシテ第十二旅ノ大半及砲兵第十三

團全部ハ引揚済何レモ瀋州ニ下車セリ目下同旅及第二十旅ノ司令部等輸送中尚三十日午后四時迄ニ閑外二十個ノ空車ヲ廻送セラレタリ(引揚完了迄ニハ尚二、三日ヲ要スル見込

灤州方面ニ駐屯スヘキ閑外引揚部隊ハ相当多数ニ上ル見込ナルカ右ハ北寧線ノ交通ニ対スル脅威ナルノミナラス当地山海關間ヲ往復スル我連絡兵ト衝突スルノ虞ナキニモアラ

第七二九号(暗)  
〔六八文書〕  
往電第七二八号ニ閑シ

169 昭和6年12月31日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

天津 12月31日後発  
本省 12月31日後着

瀋州方面における閑外引揚中國軍の他地方への移駐について

天津 12月31日後発  
本省 12月31日後着

第七二九号(暗)  
〔六八文書〕  
往電第七二八号ニ閑シ

ス就テハ可成速ニ我方ト関係ナキ他地方ニ移駐セシムル様仕向ケラルコト必要カト存セラル因ニ英國側ニ於テハ開礦炭坑保護ノ為唐山方面ニ派兵スル由予テ噂アル處差当リ其意向ナキ由ナリ

支、北平、奉天、青島ヘ転電セリ

## 事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

173

昭和6年12月31日

津田第二遣外艦隊司令官より  
大角海軍大臣他宛(電報)

関東、天津、濟南、上海スマ  
セラル参考迄

シト思ハルルモ錦州ニ入城スル我兵ニ対スル暗殺等モ想像セラル参考迄

南京各新聞の日本軍の錦州進撃に関する報道について

172 昭和6年12月31日

在北平永津公使館付武官輔佐官より  
二宮參謀次長宛(電報)

錦州に対する共産党の活動に関する情報について  
いて

第三一号

宛大臣

錦州軍撤退ニ際シ山海關秦皇島方面ノ混亂ヲ防止スル目的ヲ以テ三十日午後第十六驅逐隊司令ヲシテ何柱国ト会見左記声明書ヲ手交セシメタル所何ハ大イニ感謝シ榮臻及各旅長其ノ他關係各部ニ之カ伝達方ヲ誓ヒタリ當隊秦皇島山海關來港ノ目的ハ我力居留民ノ保護ニアリ依ツテ支那方ニ於テ我力守備隊並ニ居留民ニ危害ヲ加フル拳ニ出テサル限り艦隊ハ當方面支那軍並ニ錦州撤退部隊ニ対シ我レヨリ攻撃ヲ加ヘ若シクハ撤退ヲ妨害スル等ノコト断シテ無キコトヲ声明ス

右ノ次第錦州方面ニモ至急電達サレタシ

(編注) 本電報は、大角海軍大臣のほかに「軍務局長、馬要、一遣司令官、在支各地武官、小林」に発電された。

174 昭和6年12月31日

津田第二遣外艦隊司令官より  
大角海軍大臣他宛(電報)

果錦州ハ飽迄之ヲ死守シ抵抗セスシテ放棄スヘカラサル旨學良ニ電報セル趣ナリ

公使、北平、天津、奉天ニ転電セリ

中国軍の田庄台来襲について

171 昭和6年12月31日

在牛莊荒川領事より  
大角外務大臣宛(電報)

牛莊 昭和6年12月31日後發

本省 昭和7年1月1日前着

第一四七号(暗)

往電第一四六号ニ関シ

水源地派出警官ヨリノ報告ニ依レハ昨夕匪賊数百新屯方面ヨリ田庄台西門外ニ襲来シタルヲ以テ公安隊ハ直ニ田庄台駅ニアル我守備兵ニ急報スルト共ニ之ニ応戦シ暫時ニシテ之ヲ擊退シタル由ナル處賊ハ尚付近ニ潜伏シ再襲ヲ企図シ居ル模様ナリシカハ田庄台駅ニアル守備第二中隊ノ主力ハ今三十一日払曉賊ノ虛ヲ衝キ多大ノ損害ヲ与ヘタルカ賊約三百ハ算ヲ乱シテ哈嗎台方面ヘ潰走セル趣ナリ

轉電先前電ノ通

# 山海関守備隊長に対する中國軍第九旅長の譲

州の治安維持に関する談話について

球磨 12月31日発

12月31日着

175 昭和6年12月31日 在奉天久保田武官より  
日本軍部隊の溝帮子突入について

奉天 12月31日発  
12月31日着

第三七号

山海関情報（第三〇番電続キ）

山海関守備隊長第九旅長ヲ訪問ノ際同旅長ノ談

一、瀘州駐屯ノ第九旅（一部）ハ錦州ヨリ撤退シ来レル第

十二旅ト混雜シツツアルヲ以テ第九旅全部ヲ山海關、秦

皇島ニ集結スルヲ可ト思考スルモ学良ノ命ナキ限り実行

不可能ナリ若シ第十二旅部隊カ瀘州ノ治安ヲ紊スコトア

ラハ大ニ膺懲スル決心ナリ

二、錦州軍全部ノ撤退完了セハ学良、矢野參事官ノ協調ニ

依リ大凌河山海關ハ中立地帶トナル筈ナルヲ以テ部下部

隊ト日本軍トノ衝突ハ絶対ニナキモノト信スト

三十一日

（編注）本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、馬

要、一遣司令官、在支各地武官、小林二遣」に

発電された。

第二三号

我飛行機ノ報告ニ依レハ北寧線及盤山方面ヨリノ我部隊ハ

何レモ其ノ先頭ヲ以テ溝帮子ニ入レリ

三十一日午後五時

（編注）本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、馬

要、鎮要、一、二遣司令官、佐鎮參謀長、在支各

地武官、八雲、出雲艦長、十六駆司令、能登呂特

務艦長」に発電された。

176 昭和7年1月1日 在上海重光公使より

犬養外務大臣宛（電報）

中國軍錦州撤退問題に関する張公権との会談

について

上海 本省 1月1日前着

第一四二五号（暗）

1月1日後着

往電第一四一八号ニ関シ

関参第一三号（秘）

張公権三十一日再ヒ來訪北平ヨリハ自分ノ電報ノ趣旨ニ依リ处置スヘシトノ返電昨三十日到着セルカ北平等ニ於テ撤兵ノ話合進行中ナリヤトノ質問ナリシニ付本使ハ北平ニ於テ久シク話合進行中ナルハ事実ナルモ何分ニモ学良ハ掛引ヲ弄スル事多ク軍事行動開始後事ハ非常ニ切迫シ一時間ヲ争フ必要アル次第ヲ述ヘ置キタリ張公権ハ左ノ趣旨ヲ更ニ電報スル由ナルカ其際学良カ南京ノ意向ニ反シテ撤兵スルニ於テハ免職セラレタル上馮玉祥等ニ乗セラレ没落スルニ至ルヲ惧レ居タル為免角遂巡セシハ無理カラヌ次第ナル處様ニ話合ヲ付ケタリト語レリ

奉天、北平、青島、濟南、南京、天津、牛莊、連盟、在米

大使ヘ転電シ上海へ転報セリ

177 昭和7年1月1日 三宅閻東軍參謀長より

閻院宮參謀總長宛（電報）

北平駐在米國武官の日本軍最前線における抑

留および待遇について

178 昭和7年1月1日 三宅閻東軍參謀長より

二宮參謀次長宛（電報）

最近における在奉天外國通信員の報道ぶりに

1月1日後着

1月1日後發

181

昭和7年1月2日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

盟ニ転報セシメタリ

レ度

支、奉天、天津、米、仏ニ転電シ仏ヲシテ在欧各大使及連

## 錦州方面攻撃に関する本庄軍司令官の作戦意

最近在奉天外国通信員ノ發電検閲並ニ彼等トノ面接ノ結果

ヲ綜合スルニ遼西方面ニ於ケル皇軍ノ作戦行動ニ対シテハ大体ニ於テ親日的傾向ヲ帶ヒアリ、例へハ兵力中ニハ正規

兵ヲ含ミアル事実ヲ報道シ殊ニ昨三十日ノ發電ノ如キハ各通信員筆ヲ揃ヘテ日本軍ノ嚴寒下ニ於ケル軍紀整然タル行動ヲ称賛スルト共ニ皇軍ニ対セシ正規軍ヲ含ム支那兵匪力退却ニ際シ掠奪強姦所有ル人道上ノ殘虐ヲ逞シウシ支那部落ニハ生娘ナク民衆ハ皇軍ノ前進ヲ簞食壺漿シテ歓迎セシ事実ヲ打電シアリ

目下ノ情況ヨリ推断スレハ作戦行動ノ継続スル限り外国通信員ノ態度概々変化セサルヘキモ爾後ニ於ケル建設期ニ入ラハ統治問題、經濟活動等ニ關シ疑心暗鬼ノ目ヲ以テ日本ノ対満政策ノ遂行ヲ注目スヘシト察セラル参考迄  
北平、天津、朝鮮、上海、哈市スミ

179 昭和7年1月1日

(在奉天久保田武官より  
左近司海軍次官百武軍令部次長宛  
電報)

北平駐在米國陸軍武官を日本軍溝帮子方面に

## おいて抑留保護について

ノ前線ニ來リシヲ我方ニテ抑留保護シアリ今後身柄取扱振ニ關シテハ軍ハ外務省側ト折衝中ナルカ如シ

右聞込ミノ儘

奉天 1月1日發  
1月2日着

## 第五四号(機)

北平駐在米國陸軍武官「ハリスオウドリッヂ」十二月三十日午後八時支那側機関車ニテ溝帮子方面我第三十九旅团

ノ前線ニ來リシヲ我方ニテ抑留保護シアリ今後身柄取扱振ニ關シテハ軍ハ外務省側ト折衝中ナルカ如シ

180 昭和7年1月1日 犬養外務大臣より  
在北平矢野參事官宛(電報)

中国軍の完全撤退を張学良に嚴重説示方につ

いて

第一号(暗)

錦州問題

(二六〇文書)

本省 1月1日後発

学良ハ錦州方面ニ保安隊ヲ残ス様申シ居ルモ保安隊カ普通ノ軍隊ト選フ所ナキハ天津事件ニ徴スルモ明ナリ又学良ノ申分ニ依レハ錦州方面ノ支那兵ハ大部分熱河省ニ撤退セラ

## 図について

奉天 1月2日後発  
本省 1月2日後着

ルル訳ナルノミナラス通遼方面騎兵旅ノ撤退ニ付テモ故障アリ尚ホ撤兵期間モ我方ノ計算(客年往電第一二三号末尾参照)ニ依レハ余程掛値アリ将又我方トシテハ錦州政府ノ存続ハ到底容認シ難キ内意ニテ先方ノ申出ト我方ノ要望ト

ハ今尚多大ノ開キアルノミナラス学良ニ於テ果シテ同人申出程度ノ撤兵ヲモ完全ニ実行スル誠意ヲ有スルヤ甚夕疑ハシク旁々此上本件話合ニ深入スルトキハ先方ヨリ種々引力カリヲ作ラル虞モアルニ付叙上ノ趣旨御含ノ上學良側ニ對シテハ此際細目ノ点ヲ彼之問題トスルコトナクアツサリト保安隊ヲ含ム全部ノ兵力ヲ予テ同人自身言明ノ通り大至急閔内ニ完全ニ撤退スルコトカ日本軍ノ追撃ヲ免レ万一二モ戰禍ノ京津地方ニ波及スルヲ避ケ得ヘキ唯一ノ方法ニシテ学良ノ将来ノ為ニモ最善ノ策ナルコトヲ嚴重ニ説示セラレ度

仏、米、支、北平、天津へ転電セリ

キ事無キヤト尋ネ此点ヲ懸念シ居タル由ナリ

182 昭和7年1月2日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

錦州付近の中国軍の撤退、日本軍の錦州入り

の見込みについて

奉天 1月2日後発  
本省 1月3日前着

第七号（暗）

二日夜軍側ニ確メタル所ニ依レハ錦州付近ノ支那軍ハ大体熱河ニ入ラスシテ閔内ニ引揚ケ又打通線警備ノ為彰武ノ西方約三十「キロ」ノ哈拉套街附近ニ在リタル騎兵旅ハ目下阜新ヲ經テ熱河經由閔内ヘ引揚方湯玉鱗ト交渉中ニテ其結果ハ未タ不明ノ趣ナルモ我軍ハ恐ラク支那軍トノ衝突無クシテ二日夜頃錦州ニ入ルヘシトノコトナリ

支、北平、天津、米、仏へ転電セリ

仏ヨリ在欧各大使へ転電アリタン

183 昭和7年1月2日

在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

中国軍の閔内撤退完了の見込みおよび錦州政

府と東北邊防公署の引揚げについて

天津 1月2日後発  
本省 1月3日前着

第一号（暗）

第五号（略）  
二日ノ中央日報ニ依レハ国民政府ハ三十日夜張學良ニ対シ

大要左ノ通電命セル趣ナリ

二十八日及二十九日付貴電ヲ以テ日本軍ニ対スル防禦狀況並ニ種種困難ナルコト情報アリタルモ日本軍ノ錦州攻撃ニ對シテハ如何ナル事アルモ積極的ニ抵抗シ各官吏及軍隊ハ均シク守土ノ責任ヲ尽スヘシ然ラサレハ外ハ友邦ノ侮蔑ヲ受ケ内ハ人民ノ非難ヲ招キ外交ハ愈絶望トナルヘシ日本軍ノ錦州攻撃ニ當リ或ハ天津ニ変動アルヤモ知レサルニ付予メ防備ノ必要アリ要スルニ貴主任ハ政府ノ意ヲ体シ將士ヲ激励シ國ノ為ニ犠牲トナラレ度シ

尚新聞ハ日本軍ハ錦州ヲ三方ヨリ包囲シ錦州ハ混乱ニ陥リタル旨並ニ日本軍ハ各占領地ニ火ヲ放チ凡ソ十六歳以上六十歳以下ノ支那人壯丁ハ総テ匪賊ト称シ殺戮シツツアル旨報道シ居レリ

支、北平、奉天へ転電セリ

客年往還（六八文書）  
第七二八号ニ關シ

軍ノ情報ニ依レハ二日午前六時迄ノ東北軍引揚列車累計三

十一ニシテ每列車三百乃至千二百位乗車シ居リ何レモ瀋州ニ集結セリ此調子ニテ行カハ四日中ニハ閔内撤退完了ノ見

込ナリ尤モ北寧本線白旗堡打虎山方面ニ於テハ我軍ノ為後路ヲ断タルモノ多少アル模様ナリ尚山海閔ハ比較的平

靜ナル由

支那新聞ニ依レハ錦州政府及東北邊防公署モ瀋州ニ引揚ク

連盟ヨリ在欧各大使へ転電アリ度シ

支ヨリ上海へ転報アリ度シ

支、奉天、青島、濟南、南京、漢口、廣東、哈爾賓、米、連盟へ転電セリ

184 昭和7年1月2日  
在南京上村領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

日本軍の錦州攻撃に対する国民政府の張學良

あて命令について  
南京 1月2日後発  
本省 1月2日後着

関参第二二号（其一—三、秘）  
1月2日後発  
1月2日後着

一月二日在奉天北寧線運輸部長スチールハ在天津北寧線管理局長ヨリノ來電ナリトテ鐵道各停車場ノ秩序維持及旅客保護ノ為メ溝帮子—山海閔ノ区间ニ武装セル警備兵ヲ相当配置スルノ要アリ誤解ヲ避ケル為メ日本軍部當局者ト協定セヨトノ事ヲ提示セリ仍テ其警備員ニ何レノモノヲ使用スル積ナルヤ又何故溝帮子—山海閔ニ限定セルヤ等ヲ反問セルニ或ハ閔内ノモノト謂ヒ或ハ北寧線自ラノモノト称シ又現況上溝帮子以西ヲ必要ト認ム等答ヘ論旨明瞭ナラス我軍事輸送ニ關シテハ何等ノ異議ヲ申出テ斯唯從業員ノ散逸セルヲコボシ居タリ

惟フニ此ノ如キ申立テヲ為スハ英國當局者力今以テ例ノ中立地帶或ハ警察權行使問題ヲ提ケ学良側ヲ操縦セル一証左ト觀ルヲ得ヘシ参考迄

185 昭和7年1月2日 三宅閔東軍參謀長より  
（二宮參謀次長宛）（電報）

溝帮子・山海閔間鐵道に警備兵配置について

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

|     |          |                             |                                                                                                                                                                |
|-----|----------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |          |                             | 尚北寧線ニ対スル軍ノ方針ハ何ツレ報告ス                                                                                                                                            |
|     |          |                             | 北平、天津、上海スミ                                                                                                                                                     |
| 186 | 昭和7年1月3日 | 在奉天森島總領事代理より<br>犬養外務大臣宛(電報) | 日本軍の錦州入城について                                                                                                                                                   |
|     |          |                             | 奉天 1月3日後発<br>本省 1月3日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第一二号(平、至急)<br>軍側通報ニ依レハ我カ軍ハ支那軍撤退ノ為何等戦闘行為無<br>ク三日午前十時半頃錦州ニ入城セル由<br>仏ヨリ在欧各大使へ転電アリタシ                                                                               |
|     |          |                             | 転電先 仏、米、支、北平、天津                                                                                                                                                |
|     |          |                             | 187 昭和7年1月3日 在天津桑島總領事より<br>大養外務大臣宛(電報)                                                                                                                         |
|     |          |                             | 中国軍主力の閔内撤退完了および東北邊防公<br>署と錦州政府の動向について                                                                                                                          |
|     |          |                             | 天津 1月3日後発<br>本省 1月3日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第二号(暗)                                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 188 昭和7年1月3日 在天津桑島總領事より<br>大養外務大臣宛(電報)                                                                                                                         |
|     |          |                             | 秦皇岛および連山湾方面における日本海軍の<br>行動に関する中国新聞記事について                                                                                                                       |
|     |          |                             | 天津 1月3日後発<br>本省 1月3日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第四号(暗)<br>当地漢字紙ハ山海關通信トシテ秦皇島及連山湾ニアル日本<br>本官發奉天宛電報第一号                                                                                                            |
|     |          |                             | 大臣宛貴電 <small>(一八三文書)</small><br>第三号末尾ニ開シ                                                                                                                       |
|     |          |                             | 錦州撤兵ニ開スル交渉經緯ハ累次電報ノ通ニシテ中立地帶<br>設立等ニ付何等「コンミット」セル事無シ為念                                                                                                            |
|     |          |                             | 外務大臣、仏、米、支、天津へ転電セリ                                                                                                                                             |
| 189 | 昭和7年1月4日 | 在北平矢野參事官より<br>犬養外務大臣宛(電報)   | 支、北平、奉天へ転電セリ                                                                                                                                                   |
|     |          |                             | 中国軍の閔内撤退完全実施を張學良に申入れ<br>について                                                                                                                                   |
|     |          |                             | 北平 1月4日後発<br>本省 1月4日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第一号(暗)<br><small>(一八〇文書)</small> 第一号ニ關シ(錦州問題)                                                                                                                  |
|     |          |                             | 三日厳重申入置ケリ                                                                                                                                                      |
|     |          |                             | 仏ヨリ在欧各大使、連盟へ転電アリタシ                                                                                                                                             |
|     |          |                             | 支、奉天、天津、米、仏へ転電セリ                                                                                                                                               |
| 190 | 昭和7年1月4日 | 在北平矢野參事官より<br>犬養外務大臣宛(電報)   | 277                                                                                                                                                            |
|     |          |                             | 錦州撤兵交渉と中立地帯設置問題との関連に                                                                                                                                           |
|     |          |                             | 尚支那新聞ニ依レハ東北邊防公署ハ一日瀋州ニ移リタルモ<br>錦州政府ハ撤退セス黄頭声事務ヲ代行シ居ル<br>居ル處近ク熱河省ヲ通過シ撫寧(山海關西方)方面ニ南下<br>スルモノノ如シト                                                                   |
|     |          |                             | 尚支那新聞ニ依レハ東北邊防公署ハ一日瀋州ニ移リタルモ<br>錦州政府ハ撤退セス黄頭声事務ヲ代行シ居ル<br>居ル處近ク熱河省ヲ通過シ撫寧(山海關西方)方面ニ南下<br>スルモノノ如シト                                                                   |
|     |          |                             | 往電第一号ニ關シ                                                                                                                                                       |
|     |          |                             | 軍ノ情報ニ依レハ二日午後九時迄ノ引揚列車累計三十八ニ<br>シテ兵二万二千、馬匹三千五百、大砲六十七門ヲ輸送シタ<br>ルカ右ニテ閔外東北軍主力部隊ノ撤兵完了シタルモノト認<br>メラル尚打通線方面ノ騎兵第三旅ハ目下彰武西方ニ駐屯シ<br>居ル處近ク熱河省ヲ通過シ撫寧(山海關西方)方面ニ南下<br>スルモノノ如シト |
|     |          |                             | シテ兵二万二千、馬匹三千五百、大砲六十七門ヲ輸送シタ<br>ルカ右ニテ閔外東北軍主力部隊ノ撤兵完了シタルモノト認<br>メラル尚打通線方面ノ騎兵第三旅ハ目下彰武西方ニ駐屯シ<br>居ル處近ク熱河省ヲ通過シ撫寧(山海關西方)方面ニ南下<br>スルモノノ如シト                               |
|     |          |                             | 往電第一号ノ通り転電セリ                                                                                                                                                   |
|     |          |                             | 188 昭和7年1月3日 在天津桑島總領事より<br>大養外務大臣宛(電報)                                                                                                                         |
|     |          |                             | 秦皇岛および連山湾方面における日本海軍の<br>行動に関する中国新聞記事について                                                                                                                       |
|     |          |                             | 天津 1月3日後発<br>本省 1月3日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第四号(暗)<br>当地漢字紙ハ山海關通信トシテ秦皇島及連山湾ニアル日本<br>本官發奉天宛電報第一号                                                                                                            |
|     |          |                             | 大臣宛貴電 <small>(一八三文書)</small><br>第三号末尾ニ開シ                                                                                                                       |
|     |          |                             | 錦州撤兵ニ開スル交渉經緯ハ累次電報ノ通ニシテ中立地帶<br>設立等ニ付何等「コンミット」セル事無シ為念                                                                                                            |
|     |          |                             | 外務大臣、仏、米、支、天津へ転電セリ                                                                                                                                             |
|     |          |                             | 191 昭和7年1月4日 在奉天森島總領事代理より<br>犬養外務大臣宛(電報)                                                                                                                       |
|     |          |                             | 錦州撤退中國軍の配置について                                                                                                                                                 |
|     |          |                             | 奉天 1月4日後発<br>本省 1月4日後着                                                                                                                                         |
|     |          |                             | 第一九号(暗)<br>軍側情報ニ依レハ錦州ヲ撤退セル支那軍ハ一部ヲ綏中ニ駐<br>防セシメ主力ヲ瀋州ニ集中シツツアルモノノ如ク又我軍裝<br>甲列車ハ無事午前錦州出發西進中ナル由尚遼西方面ニ於テ<br>匪賊ト共ニ日本軍ニ抵抗シタル支那軍ノ兵力ハ第一九旅ノ                                |
|     |          |                             | 276                                                                                                                                                            |

二團第二十旅ノ殆ト全部及騎兵第三旅ノ一部ト義勇軍ナル趣ナリ

在支公使、北平、天津へ転電セリ

(五)天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

192 昭和7年1月4日 在天津桑島總領事より  
天津 1月4日後発

### 中国軍の閥内撤退に伴なう時局情報について

第五号(暗)  
時局情報  
本省 1月4日後着  
天津 1月4日後発  
在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

193 昭和7年1月4日 在牛莊荒川領事より  
牛莊 1月4日後着  
本省 1月4日後着  
天津 1月4日後発  
在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

錦州在留邦人の遺留財産等の被害調査について  
本省 1月4日後着  
天津 1月4日後発  
在牛莊荒川領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

(四)北寧線ハ三日以来山海関止リトナレリ  
公使、北平、奉天ニ転電セリ

護路警察隊モ之ト前後シテ全部閥内ニ撤退シ其一部五百名ハ三日当地通過北平ニ向ヘリ

(五)山海關ノ我駐屯軍ト閩東軍ハ飛行機ニ依リ山海關守備隊

ニ通信筒ヲ落下シ連絡ヲ執レル趣ナリ

(四)北寧線ハ三日以来山海關止リトナレリ

公使、北平、奉天ニ転電セリ

(一)遼西ヨリ入閥シタル東北第二旅及砲兵第十三団並ニ工兵當通信隊ハ瀋州ニ第十九旅ハ昌黎ニ第二十旅ハ遷安ニ輪重教導隊ハ唐山ニ夫々集結シタルカ如シ

(二)騎兵第三旅第三十九四十團及歩兵並ニ義勇隊ノ一部ハ我軍ノ為ニ退路ヲ断タレ義州北票方面ヨリ朝陽ニ向ヒタルヤノ情報アリ(往電第二号参照)  
(三)錦州政府主席代理黃頭声ハ二日午後警備隊ヲ率ヒ錦州ヨリ興城県ニ撤退シタル由

(四)遼西各地ノ北寧鉄道從業員ニシテ当地方ニ引揚者多キ処

第三号  
錦州ハ我軍ニ於テ占拠セラレタル處同地在留邦人ノ遺留財產ハ支那軍撤退ニ当リ多大ノ被害アリタルヤニ思考セラル  
ルト此際在留邦人中帰還スル者又ハ新ニ同地ニ入込ム邦人モ多カラント存セラルル故右被害調査並ニ警官出張所復活ノ為本朝八時河北駅發軍用列車ニテ是永書記生ニ警官一名及中島錦州居留民會長ヲ帶同セシメ錦州へ出張セシメタリ

御承認ヲ請フ  
奉天へ転電セリ

194 昭和7年1月5日 在上海村井總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)

### 日本軍の錦州占領に関する新聞報道について

上海 本省 1月5日後着

ト論セリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

195 昭和7年1月5日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

### 錦州居留民帰還に關し警察官派遣について

奉天 本省 1月5日後着

ト論セリ

本官發牛莊宛電報

### 第二号

第一号  
大臣宛貴電第三号ニ関シ

新民府ニ於ケル匪賊襲撃等ニ鑑ミルモ錦州居留民帰還ノ場合ニハ軍隊ノ駐屯ヲ別問題トシ別ニ当分相当数ノ警官ヲ派遣シ置クノ要アルベシト思考セラルル處閔東府側ニ於ケル

人繰ノ都合モアルベキニ付冒頭貴電閔東府ニ転電ノ上警官派遣方ニ付予メ考慮ヲ求メ置カルル方如何カト存ズ  
大臣へ転電セリ

第四号(略)  
我軍ノ錦州占領ハ日刊漢字紙新年以來休刊中(七日ヨリ刊行)ニ付英字新聞及二三ノ漢字紙夕刊ニ依リ報道セラレタルモ今迄ノ處一般ハ左シタル反響無ク市面モ至極平穏ニテ殆ト影響無キ状態ナリ

英字新聞中論評ヲ加ヘタルハ「チャイナ、プレス」(三日)ノミ例ノ調子ニテ  
日本ハ連盟理事会ニ於ケル事態不括大ノ誓約ニ反シ錦州占領ヲ行ヘルカ連盟ニシテ義務ノ履行ヲ怠ラス調査委員ノ任命ノ如キ速ニ行ヒタリシナランニハ日本モ錦州攻撃ヲ敢テセサリシナルヘク吾人ハ調査委員カ速ニ仕事ニ着手センコトヲ望ム

196 昭和7年1月5日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)

錦州における邦人の動静等について

奉天 1月5日後発

本省 1月6日前着

備について

錦州へ出張ノ營口領事館是永書記生カ朝日新聞飛行機ニ託セル報告要領左ノ通

一、鉄道便又ハ朝日新聞飛行機ニ依ル外通信不能北寧本線ハ不定期ナルモ毎日三回位又營口溝帮子間ハ不定期ナルモ毎日一回往復運転シ居レリ

二、錦州市内邦人ノ遺留財産ハ大体無事ナルカ如ク四日迄ニ邦人二名復帰セリ尚警官派出所ハ完全ニ掠奪セラレ居レリ

三、同地監獄内ニ鮮人四名不法拘禁中ナリシ為右釈放方手配中

四、二日我軍入城前錦州ニ入城ヲ企テタル大毎記者茅野外邦人合計六名行衛不明トナリ又中國民報及山陽新報ノ特派記者各一名ハ二日以来打虎山村近ニテ消息ヲ断テリ

転電先、在支公使、北平、天津、營口

第三五号（暗）  
錦州へ出張ノ營口領事館是永書記生ノ報告中往電第三四号以外ノ点左ノ通

一、錦州ニハ第二十旅團及依田混成旅團駐屯中ニテ独立第三大隊ノ第一中隊河北線ノ守備ニ任シツツアリ

二、統治事項ニ関シテハ關東軍竹下中佐ニ於テ同書記生ト協議中ノ由

在支公使、北平、天津、牛莊ヘ転電セリ

198 昭和7年1月6日 在北平矢野參事官より  
犬養外務大臣宛（電報）

錦州問題に關し張學良との協定成立の噂について

199 昭和7年1月6日 在奉天森島總領事代理より  
本省 1月6日前着

北平 1月6日後発  
本省 1月7日前着

第九号（暗）

六日仏國公使館參事官「ラガルド」來訪実ハ當方面ニハ錦州問題ニ連関シテ貴官ト学良トノ間ニ一種ノ協定ヲ結ハレ

学良ニ於テ撤兵ヲ承諾スル代リニ日本側ニ於テ之ニ對シ何等カノ對償例ヘハ日本側モ付属地内ニ兵ヲ帰還セシムルト云フカ如キ協定成立ノ噂アリ昨夕学良ニ面会ノ際右ニ言及シタル處学良ハ口ヲ噤シテ何等語ラス真相ニ付聞ク事ヲ得レハ幸ナリト言ヘルニ依リ本官ハ錦州問題ニ對スル日本ノ立場ハ連盟ニ於ケル匪賊討伐ニ關スル我方ノ主張及十二月二十七日ノ帝国政府ノ声明ノ通ニシテ自分カ最近学良ニ二、三回面会シタル事ハ事實ナルモ右ハ主トシテ當方面ニ於ケル日本人保護及治安維持ニ關シ其ノ際多少錦州問題ニ触レタル程度ニテ学良ト協定等ヲ結ヒシ事無シ学良カ錦州ヨリ撤兵シタルハ彼ノ自發的行動ナリト述へ置ケリ

支、奉天ニ転電セリ

199 昭和7年1月6日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国軍の錦州撤退に関する張學良の通電要領

について

北平 1月6日後発

中国軍の撤退完了等に關する軍側情報について

奉天 1月6日後発

本省 1月6日後着

第四一号(暗)

## 第三七号(平)

## 五日軍側情報左ノ通り

一、錦州軍ハ三日午前五時山海關通過ノ列車ヲ最後トシテ撤退ヲ完了セルカ如ク其ノ兵力合計約二万列車数四十四ニ上レリ尚哈拉套街付近ニ在リテ湯玉麟ノ回答ヲ待チツ

ツ在リタル打通線警備ノ騎兵第三旅ハ五日我飛行機ノ爆撃ニ遭ヒタルタメ近ク關内撤退又ハ所在ノ変更ヲ為スモノノ如シ

二、北平線ハ大体女兒河以西ニハ大ナル破壊個所ナキカ如ク錦朝線ハ破壊セラレス義州ハ平穩ナリ

ノノ如シ

二、北平線ハ大体女兒河以西ニハ大ナル破壊個所ナキカ如ク錦朝線ハ破壊セラレス義州ハ平穩ナリ

ノノ如シ

一、錦州軍ハ三日午前五時山海關通過ノ列車ヲ最後トシテ撤退ヲ完了セルカ如ク其ノ兵力合計約二万列車数四十四ニ上レリ尚哈拉套街付近ニ在リテ湯玉麟ノ回答ヲ待チツ

ツ在リタル打通線警備ノ騎兵第三旅ハ五日我飛行機ノ爆撃ニ遭ヒタルタメ近ク關内撤退又ハ所在ノ変更ヲ為スモノノ如シ

ノノ如シ

二、北平線ハ大体女兒河以西ニハ大ナル破壊個所ナキカ如ク錦朝線ハ破壊セラレス義州ハ平穩ナリ

ノノ如シ

一、錦州軍ハ三日午前五時山海關通過ノ列車ヲ最後トシテ撤退ヲ完了セルカ如ク其ノ兵力合計約二万列車数四十四ニ上レリ尚哈拉套街付近ニ在リテ湯玉麟ノ回答ヲ待チツ

ツ在リタル打通線警備ノ騎兵第三旅ハ五日我飛行機ノ爆撃ニ遭ヒタルタメ近ク關内撤退又ハ所在ノ変更ヲ為スモノノ如シ

二、北平線ハ大体女兒河以西ニハ大ナル破壊個所ナキカ如ク錦朝線ハ破壊セラレス義州ハ平穩ナリ

ノノ如シ

軍側通報ニ依レハ錦州方面一段落ト共ニ我軍ハ大要左ノ通り配備ヲ变更シ匪賊ノ掃蕩及治安ノ維持ニ当ルコトナリ

三日夫々發令セル趣ナリ

一、第二師団(歩兵第三旅團ヲ欠キ其ノ他若干部隊ヲ付ス)ハ鐵嶺以南ノ遼東一帯ヲ担当シ師団司令部ハ五日遼陽ニ帰還セリ

一、獨立守備隊ハ鐵嶺以北ノ法庫門、康平、通遼、遼源以東ノ奉天省各県ヲ担当ス

一、歩兵第三旅團(第二十九連隊ヲ欠ク)及混成第四旅團(歩兵二大隊及騎、砲ノ主力ヲ欠ク)ヨリ成ル吉長警備隊ノ任務ハ從前通り

一、関東飛行隊(一中隊ヲ欠ク)其ノ他ノ直轄部隊ハ大体奉天ニ置キ又臨時重砲兵大隊ノ編成ヲ解ク(七日旅順ニ帰還ノ筈)

一、第二十師團ハ遼西一帶ニ配置ス即チ第八旅團ハ黑山、台安兩県以東ノ地区、第三十八旅團ハ錦西縣以西ノ地区及第三十九旅團ハ右両地区ノ中間地区ニ配置ス

一、第二十師團ノ歩兵一大隊及野砲一中隊ハ四日午前錦州

ノアル趣聞込アリ御参考迄

支、北平、奉天、南京へ転電セリ

事項5 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領

206 昭和7年1月8日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)  
日本軍飛行機による溝帮子付近の爆撃について

我軍ノ錦州占拠ニ対スル新聞論調ヲ総括スルニ何レモ右ハ  
中央政府ニ自主的政策ト行動ナク奉天事変以来終始国際連  
盟ニノミ信頼シ毫モ対日準備ヲ為サス錦州危殆ニ瀕スルモ  
亦実力抵抗ヲ電命スルノミニシテ何等ノ援助ヲ為ササリシ  
結果ニシテ日本軍カ新銳ナル武器ニ依リ進攻シ而モ退路ヲ  
断チ前線部隊ヲシテ不安ヲ感セシメ又支那側ノ給養及弾薬  
薄弱ナリシ点ヲ考フルニ已ムヲ得サル次第ト云フヘシ要ス  
ルニ錦州失守ハ党国両首ニ於テ離合常ナク一定ノ計画ナク  
責任感ニ乏シク且各軍閥内戦ニノミ狎レテ此ノ困難ニ当リ  
整個的團結ノ精神ナキニ起因スト論シ尚熱河、河北ノ地ヲ  
シテ錦州ノ轍ヲ履マシムル勿レト警告シ居レリ  
支、北平、奉天へ転電セリ

207 昭和7年1月8日 在上海田代公使館付武官より  
杉山陸軍次官宛(電報)  
錦州撤退に関する張学良と南京政府との往復  
電報発表について

我軍ノ錦州占拠ニ対スル新聞論調ヲ総括スルニ何レモ右ハ  
中央政府ニ自主的政策ト行動ナク奉天事変以来終始国際連  
盟ニノミ信頼シ毫モ対日準備ヲ為サス錦州危殆ニ瀕スルモ  
亦実力抵抗ヲ電命スルノミニシテ何等ノ援助ヲ為ササリシ  
結果ニシテ日本軍カ新銹ナル武器ニ依リ進攻シ而モ退路ヲ  
断チ前線部隊ヲシテ不安ヲ感セシメ又支那側ノ給養及弾薬  
薄弱ナリシ点ヲ考フルニ已ムヲ得サル次第ト云フヘシ要ス  
ルニ錦州失守ハ党国両首ニ於テ離合常ナク一定ノ計画ナク  
責任感ニ乏シク且各軍閥内戦ニノミ狎レテ此ノ困難ニ当リ  
整個的團結ノ精神ナキニ起因スト論シ尚熱河、河北ノ地ヲ  
シテ錦州ノ轍ヲ履マシムル勿レト警告シ居レリ  
支、北平、奉天へ転電セリ

第一号(暗)

天津  
奉天  
本省  
1月7日後着

第五八号(暗)

天津  
奉天  
本省  
1月8日後着

第二号(暗)

天津  
奉天  
本省  
1月7日後着

第四八号(暗)  
(〔九六文書〕  
第三四号ニ関シ  
是永書記生ノ五日付報告要領左ノ通

一、錦州ニハ第二十師団司令部及兵約五百ヲ残シ他ハ付近  
ノ各地ニ進出ノ筈ニテ既ニ我軍ノ一部ハ五日山海關ニ達  
シ連山、葫蘆島等モ我軍ノ手中ニ入りタルモノノ如ク又  
他ノ一部隊ハ北票、義州其ノ他ノ遼西主要都市及鉱区占

面の統治方針等について  
錦州占領後の日本軍の前進状況および錦州方  
面の統治方針等について

204 昭和7年1月7日 在奉天森島總領事代理より  
犬養外務大臣宛(電報)  
日本軍の錦州占領に対する中国新聞論調について

奉天  
1月7日後着  
本省  
1月7日後着

205 昭和7年1月7日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛(電報)  
日本軍の錦州占領に対する中国新聞論調について

奉天  
1月8日後着  
本省  
1月8日後着

二、占拠後ノ錦県並近郊ノ統治ニ関シテハ五日市民有力者  
ヲシテ執行委員会ノ委員七名ノ選挙ヲ行ハシムル筈ニテ  
委員長トシテハ軍側ニテハ最初谷県長利用ノ意思ナリシ  
モ最近同人ヲ排除スルコトニ決定シタル為目下何人ヲ委  
員長ニ選挙スベキヤ不明ナリ尚右ト同時ニ公安隊ヲ再組  
織シ市中治安維持ニ当ラシムル筈

三、軍側ニテハ新ニ錦州ニ遼西特務機関ヲ設置シ之ヲ本  
部、統治、自治、指導及宣伝ノ四班三分カチ竹下中佐ヲ  
機関長トシテ遼西統治ノ指導ニ当ラシムルコトセリ  
四、在留民遺留財産ニ対スル損害ハ大ナラスト認メラル  
五、電信及郵便ハ依然不通ニシテ通信ハ當分新聞社飛行機  
ヲ利用スルノ外ナシ  
公使、北平、天津、牛莊へ転電セリ

居留民ハ相当激増スルモノト思考セラルニ付テハ其保護  
取締ノ為出張警官増員ノ必要アリト認メラル處最近新民  
府ニ於ケル匪賊襲撃等ノ不祥ナル實例アルニ鑑ミ錦州地方  
ノ秩序全ク安定スル迄當分警部補一巡査一〇内外ヲ派遣致  
シタシ右御考慮ヲ乞フ貴見何分ノ儀御回電アリタシ

大臣、支、奉天ニ転電セリ

拠ノ為進出セリ停車場ハ五日朝來連続的ニ軍用列車西二  
向ヶ發車シ居レリ

上海 1月8日後発  
本省 1月8日後着

支第四九号（秘）

南京報（七日発）

本日ノ新聞ニ北平電トシテ錦州撤退ニ関スル張學良ト南京政府トノ往復電報全部ヲ大書發表セラレシカ北平電第二八号ハ十二月二十五日付ニテ南京ニ要望セシモノニシテ今後ノ為ニ計リタルモノニアラス当地ニテハ右ノ發表ハ学良ノ責任転嫁ナルト共ニ一面ニハ新政府力蔣介石ニ対シ責任転嫁ノ為メ大書報道シタルモノナリト觀フアリ

北平、天津、奉天スミ

208 昭和7年1月13日 在天津桑島總領事より  
犬養外務大臣宛（電報）

天津駐留關東軍増援部隊の原隊復帰について

天津 1月13日後発  
本省 1月13日後着

第一九号（暗）

客年往電第六四七号ニ閔シ

閔外東北軍ノ閔内撤退モ故障無ク行ハレ當方面ノ形勢差當

リ落付キヲ見セ居ルヲ以テ關東軍ヨリノ増援兵一個大隊ハ當地駐屯軍ノ隸下ヲ離レ原隊ニ復帰スル事トナリ十三日山海関ニ集結ノ上十四日特別軍用列車ニテ錦州方面ニ向フ予定

支、北平、奉天、米、連盟へ転電セリ

209 昭和7年1月(22)日 在奉天森島總領事代理より  
芳沢（謙吉）外務大臣宛（電報）

日本軍占領後の錦州地方の治安状況について

奉天 本省 1月22日前着

第一三四号（暗）

本官発連盟宛電報第一号

大臣宛貴電第二〇号ノ〔錦州地方ノ情勢ニ閔シ軍側ニ問合セタル處左ノ通り〕

(一)我軍錦州入城ニ際シ谷縣長始メ支那側官吏及有力者ハ極メテ協調的態度ヲ示シタルカ右ハ同地住民力學良軍ノ滯在ヲ苦ニシ居タル為ナリ

(二)我軍入城後市内ニ便衣隊潜伏ノ顧慮アリタルニ依リ一時

公安部隊ノ兵器ヲ取上ケタリシモ間モ無ク全部返還シタリ又

我軍ニ於テ城門停車場入口等ノ要点ハ歩哨ヲ以テ警戒シ居

ルモ其他ノ地点ハ占拠シ居ラス

(三)支那側官憲ハ公安局長ノ外旧役員約半數逃走シタルカ残留者並ニ地方有力者ハ自發的ニ參集シ選舉ニ依リ自治執行委員会ヲ設立シ前県長谷金声ヲ委員長トシ其他ノ役員ヲ任

命シタルカ殘留シタル旧役員ハ全部留任シタル訳ナリ

(四)我軍入城前即チ十二月初ヨリ閉鎖サレタル銀行其他ノ金融機関モ業務ヲ再開シ商売モ活氣ヲ呈シ來レリ

(五)錦州ニハ目下師団司令部ト旅団司令部設置セラレアル處軍隊ハ支那側公議會ノ斡旋ニ依リ旧軍憲ノ住宅等ニ宿營シ居レリ

外務大臣、支へ転電セリ